

施工マニュアル

クラシックR



目次

はじめに	1	5-13 本棟とケラバの取合い部	
安全上の注意	1	<角型ケラバ/棟包みを使用する場合>	42
1 設置条件		5-14 本棟とケラバの取合い部	
1-1 クラシックR設置基準	5	<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>	43
2 製品仕様・構成図		5-15 棟違い部	44
2-1 クラシックR 製品仕様	5	5-16 隅棟部	
2-2 構成図	5	<隅棟用水切Mを使用する場合>	45
3 使用部材・使用工具		<棟用水切を使用する場合>	47
3-1 役物一覧	6	5-17 三つ又部	
3-2 副資材一覧(現地調達品)	8	<隅棟に隅棟用水切Mを使用する場合>	48
3-3 使用する工具	9	<隅棟に棟用水切を使用する場合>	49
4 施工部位		5-18 壁取合い部<桁方向>	50
4-1 施工部位の紹介	12	5-19 壁取合い部<流れ方向>	51
5 標準施工方法		5-20 壁取合い部<出隅部>	53
5-1 施工手順	13	5-21 谷部	55
5-2 下葺材の敷き込み	14	5-22 ドーマー部	57
5-3 軒先とケラバの取合い部		5-23 軒違い部<すがる部>	58
<角型ケラバ/棟包みを使用する場合>	15	5-24 トップライト部	60
5-4 ケラバ部の下地		5-25 雪止め金具	61
<角型ケラバ/棟包みを使用する場合>	16	部位別参考納まり図	62
5-5 平部<本体>	17	カバー工法施工時の注意	72
5-6 軒先とケラバの取合い部			
<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>	21		
5-7 ケラバ部の下地			
<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>	23		
5-8 平部<本体>	25		
5-9 ケラバ部仕上げ<角型ケラバ/棟包み>	29		
5-10 ケラバ部仕上げ			
<通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡ>	30		
5-11 本棟部	32		
5-12 棟換気部			
<角型ケラバ/棟包み(棟用水切)仕様の場合>	34		
<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>	38		

お願い

この施工マニュアルは、屋根材T・ルーフ クラシックRの基本的な施工方法について説明しています。
特殊な条件やリフォーム物件の場合は本マニュアルの施工方法はあくまでも目安として頂き、
現場状況に応じた雨仕舞いを最優先した施工を実施してください。

■はじめに

この施工マニュアルはあくまで標準的な施工方法になります。地域や住宅仕様によって、弊社の役物製品を使用しない場合もございます。

■安全上の注意

■ 取付けされる方へのお願い

- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ※ここに示した注意事項は、その危険の程度から「警告」「注意」および「お願い」の3つに分けて示しています。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 警告	取付けを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。
▲ 注意	取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。
お願い	特に注意を促す情報で、使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

▲ 警告

- 2 m以上の高所作業を行う施工現場では、有資格者が作業床(足場)を設置し、転落や落下の危険性を十分に排除した上での施工をしてください。死亡または重傷のおそれがあります。
- 雨や雨が予想される場合や霧、雪で屋根面および足場が濡れている場合は施工しないでください。転落するおそれがあります。
- 工事着手前に作業員の健康状態を確認してください。貧血などで転落・落下するおそれがあります。
- 1階の屋根から2階にはしごをかけるのは、おやめください。転落・落下するおそれがあります。
- 親綱をはる場合は、所定の位置に強固に固定してください。転落・落下するおそれがあります。
- 作業場に近接して電線がある場合には、電力会社に依頼し感電防止の措置をしてください。電線に触れると感電し、死亡または重傷のおそれがあります。
- ルーフイングの上に屋根材本体などを置くときは、滑り落ちないように固定してください。物が屋根上から落下し、死亡または重傷のおそれがあります。

■安全上の注意

▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りの原因になります。
- ケラバ部や棟部の役物設置後は役物の上に乗らないでください。水切の機能を失い、雨漏りの原因になります。

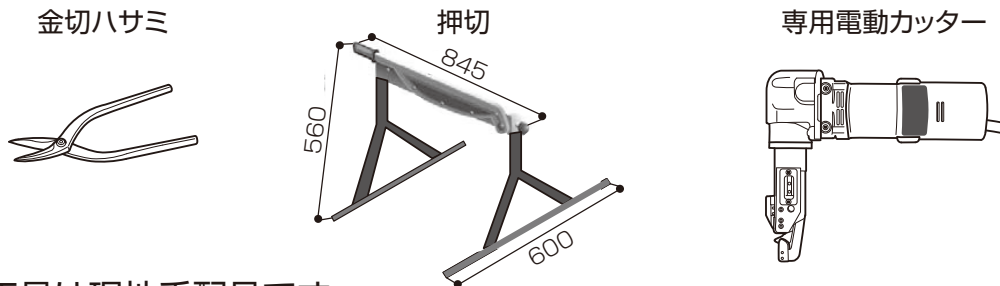


- 下地が湿潤している時や雨天時の敷込みはさけてください。屋根の下地が濡れたままルーフィングを敷込むと、野地板が痛み(カビの発生等)、雨漏りの原因になります。
- 屋根材を取扱いの際には必ず手袋を着用してください。切創等のケガにつながるおそれがあります。
- 強風時に万が一、施工する場合は屋根材及び工具等を落下させないように十分に注意してください。屋根下の人や付近の建物などに当たり、大ケガや大きな損傷につながるおそれがあります。
- 工具や材料などは、ロープで固定するか袋などで落下防止措置をしてください。屋根から落下し、ケガまたは器物損傷のおそれがあります。
- ルーフィング面は傷つけないよう注意してください。雨漏りの原因となります。
- 使用する栈木は樹脂製又は防腐処理を施した栈木且つ水抜き加工されている物(軒先部のみ)をご使用ください。遵守しないと栈木が腐食して屋根材の強度を失う原因になります。
- 本施工マニュアルでは、LIXIL製の樹脂栈木を使用する事を想定した記述をしております。栈木を現地手配する際は、材料サイズの範囲内で最も大きくなる材料をご使用ください。経年劣化による屋根材の強度不足につながる原因になります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付けは当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 補修材を塗布した後、完全に乾くまでは手足で触れないようにしてください。屋根材やその他の部位を汚してしまう原因になります。
- 棟換気部材を設置の際は、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りの原因になります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りの原因になります。
- 通しケラバ包みを縦使いする場合は、ケラバ包み下端で波打ちが出ることがあるので、取付前に取付面の状態を確認してください。
- カバー工法の場合、既存板金の下地に取付ビスが効き、ケラバ包みを引き寄せ、波打ちが出るおそれがあります。

■安全上の注意

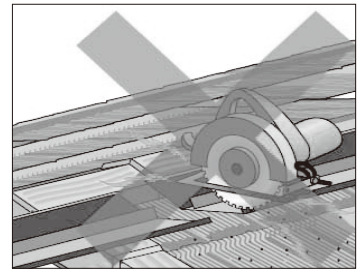
お願い

- いかなる場合でも、安全を最優先し、労働安全衛生規則にしたがって施工してください。
- 屋根材の切断工具は金切ハサミ、押切、専用電動カッターを使用してください。屋根本体の切断に関しては押切と専用電動カッターを推奨しております。



※上記の工具は現地手配品です。

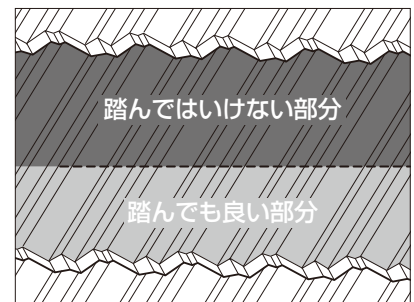
- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうことがあります。



- 屋根材の保管に際しては雨水等があたらないように養生してください。表面のストーンチップが剥がれ、修復が困難になることがあります。
- 施工中または施工直後の屋根表面が濡れたままの状態強く擦ったりしないでください。本体表面のストーンチップが剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になることがあります。



- 施工中または施工後の屋根本体への歩行の際は本体上下の重ね目、谷部を踏んでください。屋根本体の形状を損ねてしまうことがあります。



- 補修キットのベースコートの使用環境温度は5℃以上でご使用ください。ベースコートの成分が分離してしまうことがあります。
- 椽木を固定するビスの先端が破風下地や化粧破風板の取付けに支障がないか確認してください。椽木を固定したビス先端が後施工の破風板と干渉して設置できなくなる原因になります。
- 壁用雨押えの取付け位置は、屋根材と壁面の通りを確認してから取付けてください。通りを確認しないで施工すると外壁、壁用雨押え、屋根本体のそれぞれのすき間が揃わず、意匠性が低下する原因になります。

1 設置条件

1-1 クラシック R 設置基準

対象物件	一般住宅、店舗、公共施設
野地板(材質・厚み)	構造用合板:12mm以上、OSB合板(JAS3級):11mm以上 ※1 ※2
下葺き材	JISA6005適合品のアスファルトルーフィング940同等性能以上
基準風速	40m/s以下 ※3
特定行政庁の定める垂直積雪量	200cm以下(雪の単位質量 30N/m ² ・cm) ※4
設置高さ	13m以下
地表面粗度区分	ⅢまたはⅣ
施工可能勾配	2.5寸以上(垂直積雪量100cm以上は4寸以上 ※4) ※5
使用する栈木	防腐処理を施した栈木又は樹脂製栈木
不燃認定番号	NM-4739

※1 構造用合板とOSB合板で取付ビスの間隔が異なりますので詳細は施工マニュアルを参照してください。

※2 鉄骨構造やRC構造の場合は屋根下地が木造物件と異なる為、耐風性を考慮して対応願います。

※3 基準風速はあくまでも目安です。状況によってビス固定点数を増やすなどを施し耐風性を考慮して対応願います。

※4 積雪環境に応じたスガ漏り対策を推奨しております。

※5 太陽光発電システムを屋根上に設置する場合は各太陽光メーカーの屋根勾配条件に準じてください。

■屋根勾配と最大流れ長さの基準

屋根勾配(寸)	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5~
流れ長(m)	11	13	16	19	21	23	26	28	30

■取付ビスについて

新築・葺き替え：屋根下地側への固定は取付ビス25mm、軒先一段目屋根本体の高さ調整栈木を使用した箇所は取付ビス38mm、屋根本体、その他役物同士の固定は取付ビス25mm。

カバー工法：屋根下地側への固定は取付ビス38mmを使用。既存屋根材が固く取付ビス38mmではねじが効かない場合は取付ビス55mmを使用。軒先一段目屋根本体の高さ調整栈木を使用した箇所は取付ビス38mm。屋根本体、その他役物同士の固定は取付ビス25mm。

※スレートの種類や打ち込み箇所によっては小石等が混ざっており他社のスレート改修用ビスと同様にビスを打ち込めない場合があります。その場合には一旦ねじ打ちを止めて、新しいビスで再度打ち直して頂くか、φ3.5のコンクリートドリルで下穴をあけてから打ち直してください。

※役物を固定する際、屋根や壁の下地まで固定が必要な箇所は木ビス（現地手配）で固定してください。

■軒先役物について

屋根勾配2.5寸~3.5寸は軒先用水切90、屋根勾配4寸以上は軒先用水切120、カバー工法時は屋根勾配問わず軒先改修用水切を使用してください。

■棟換気部材について

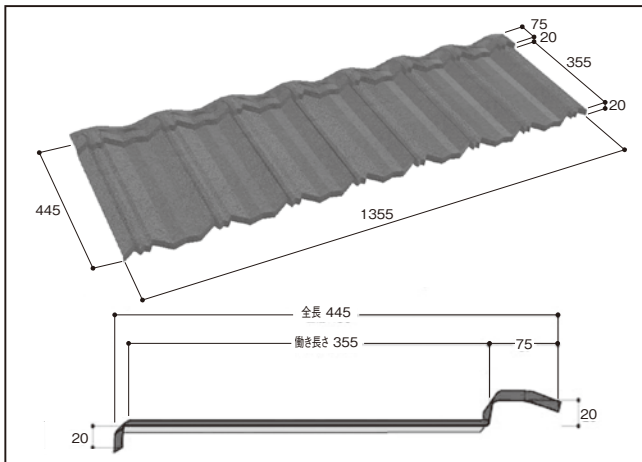
下記を目安に算出してください。1対2本で不足する場合は大棟部に2箇所に追加又は開口を長くして納めてください。

参考例)

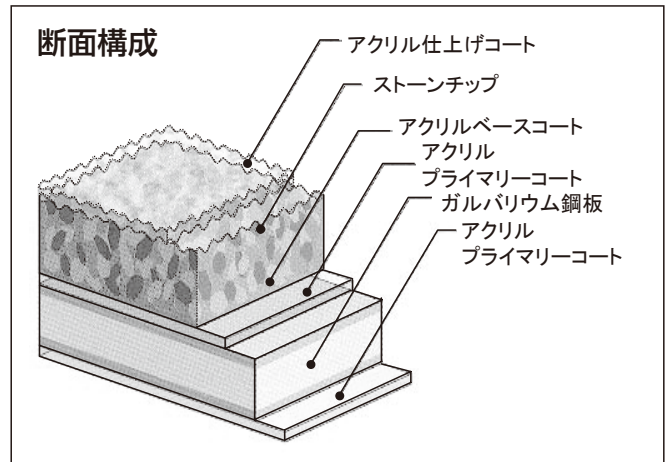
本製品1対2本当たりで天井面積80㎡までカバーできます。※開口部に両側で2本（長さ1.82m/本）使用します。

2 製品仕様・構成図

2-1 クラシック R 製品仕様



※全長は両端部外側同士の寸法を示します。
 ※寸法は、基材の複雑な形状と表面のストーンチップにより若干の差異はあります。

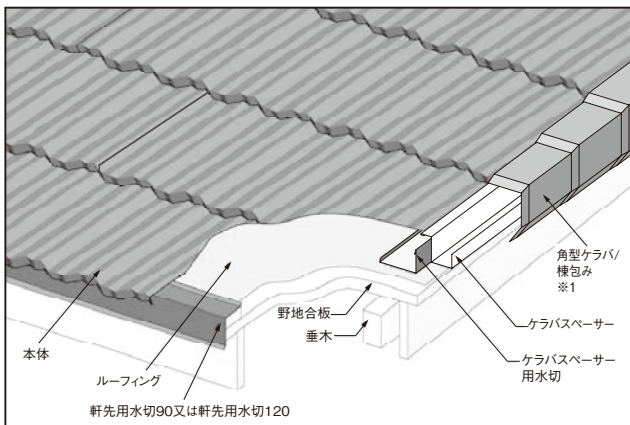


※ガルバリウム鋼板は、55%溶融アルミ亜鉛合金メッキ鋼板の事で、アルミの耐食性と亜鉛の防食作用により、耐久性・耐食性に富んでいます。外壁材などにも採用されています。
 ※表面のアクリル仕上げコートは、時間経過とともに流れ落ち、ストーンチップ本来の色合いに安定します。

表面仕上	ストーンチップ(セラミックコーティング石)
働き長さ	355mm
働き幅	1,260mm
1㎡の葺き枚数	2.24枚
1㎡あたりの重量	6.39kg
基材	ガルバリウム鋼板
鋼板厚み	0.4mm

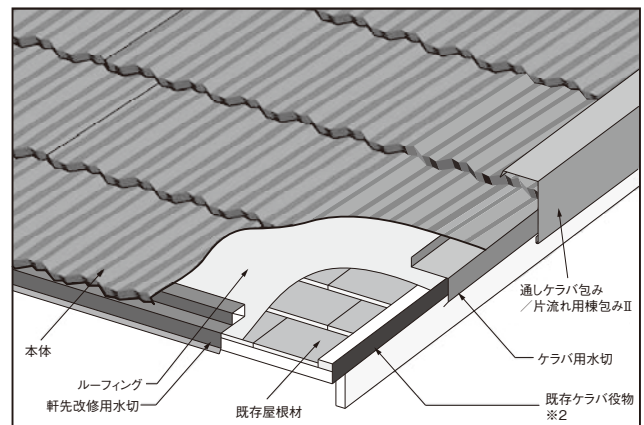
2-2 構成図

■屋根新設構成図(参考)



※1 ケラバ部を通し仕様で納める場合はケラバ用水切と通しケラバ包み/片流れ用棟包みIIを使用します。

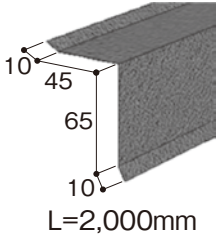
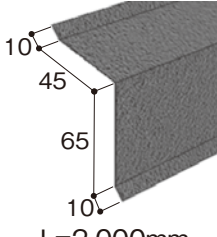
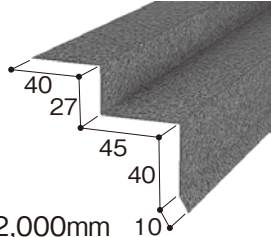
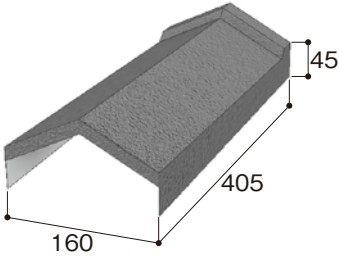
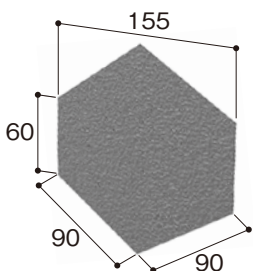
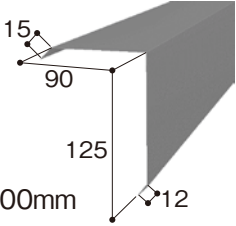
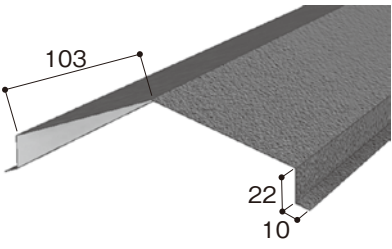
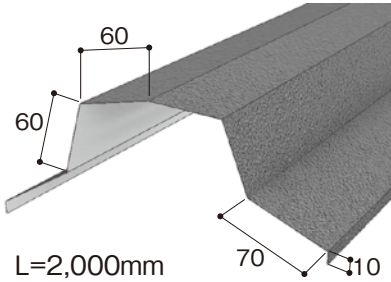
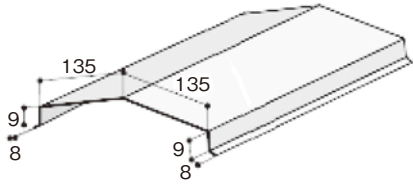
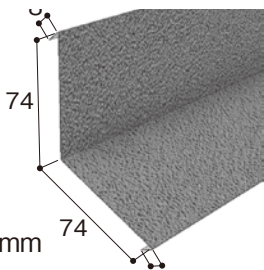
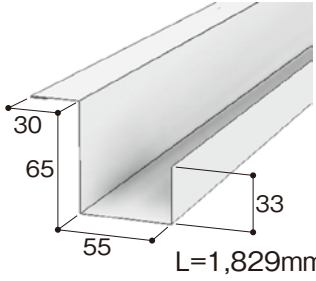
■屋根カバー工法構成図(参考)



※2 既存ケラバ役物は納まり上、撤去する場合があります。

3 使用部材・使用工具

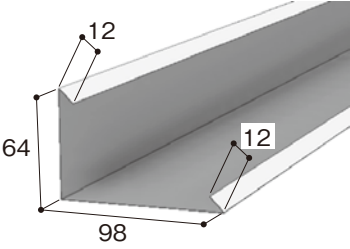
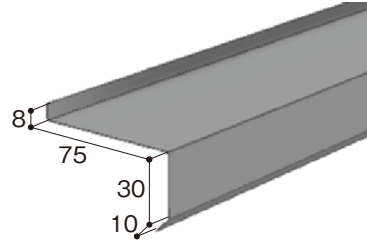
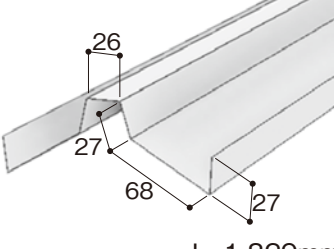
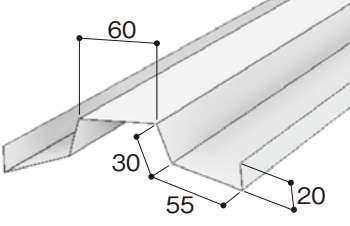
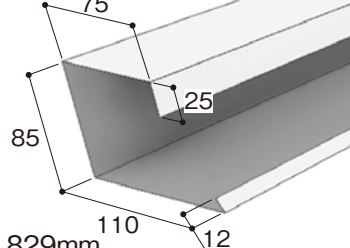
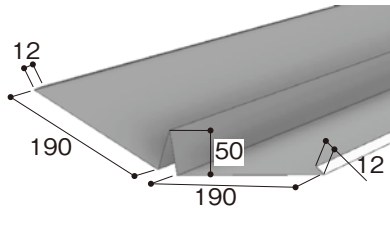
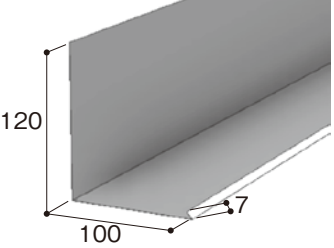
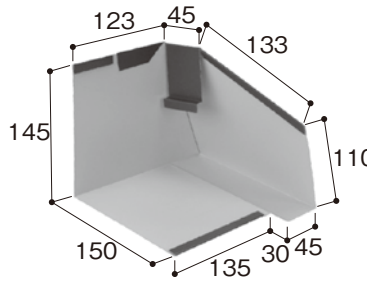
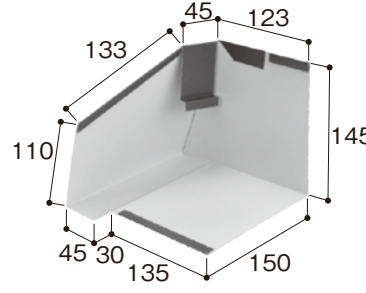
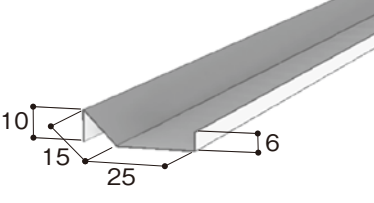


3-1 役物一覧

軒先用水切 90 石付ガルバリウム鋼板	軒先用水切 120 石付ガルバリウム鋼板	軒先改修用水切 石付ガルバリウム鋼板
 <p>L=2,000mm</p> <p>※屋根勾配が4寸未満の場合に使用します。 ※新築又は葺き替え時に使用します。</p>	 <p>L=2,000mm</p> <p>※屋根勾配が4寸以上の場合に使用します。 ※新築又は葺き替え時に使用します。</p>	 <p>L=2,000mm</p> <p>※カバー工法時に使用します。</p>
角型ケラバ / 棟包み 石付ガルバリウム鋼板	角型エンドキャップ 石付ガルバリウム鋼板	通しケラバ包み / 片流れ用棟包みⅡ 石付ガルバリウム鋼板
 <p>160 45 405</p> <p>※ケラバ部で使用する場合は、事前に90°に折り曲げる必要があります。</p>	 <p>155 60 90 90</p>	 <p>L=2,000mm</p>
通し棟包み 石付ガルバリウム鋼板	角型ケラバ / 棟包み用 棟換気カバー 石付ガルバリウム鋼板	棟換気カバー 石付ガルバリウム鋼板
 <p>103 22 10 L=2,000mm</p>	 <p>L=2,000mm 60 60 70 10</p> <p>※大棟部を角型ケラバ / 棟包みで納める場合に使用します。</p>	 <p>L=2,000mm 135 9 8 9 8</p>
壁用雨押え 石付ガルバリウム鋼板	ケラバスペーサー ガルバリウム鋼板 (メッキ生地)	
 <p>L=2,000mm 74 74</p>	 <p>L=1,829mm 30 65 55 33</p>	

※寸法は設計値を示します。
 製造上、寸法には誤差が生じます。

3 使用部材・使用工具

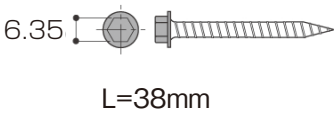
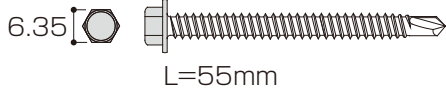
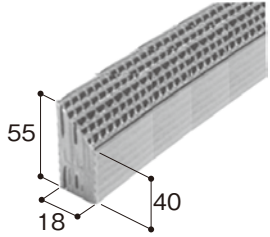
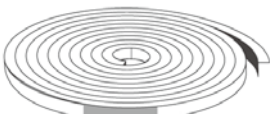

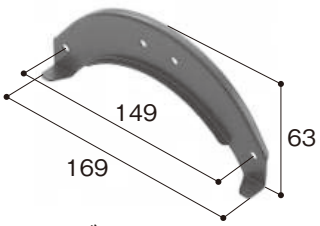

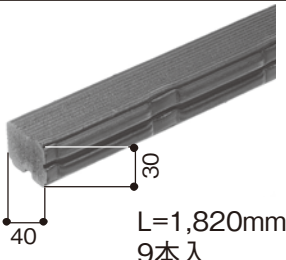
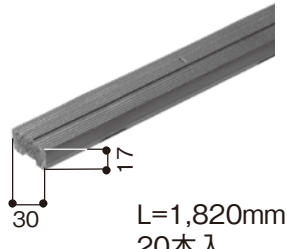
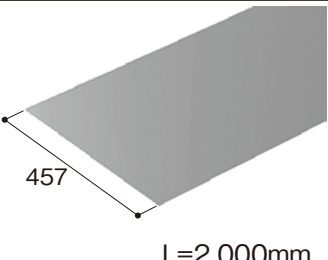
3-1 役物一覧

ケラバスペーサー用水切 ガルバリウム鋼板 (塗装)	ケラバ用水切 ガルバリウム鋼板 (塗装)	棟用水切 ガルバリウム鋼板 (メッキ生地)
 <p>L=1,829mm</p>	 <p>L=1,829mm</p>	 <p>L=1,829mm</p>
通し棟用水切 ガルバリウム鋼板 (メッキ生地)	隅棟用水切M ガルバリウム鋼板 (塗装)	谷用水切 ガルバリウム鋼板 (塗装)
 <p>L=1,829mm</p>	 <p>L=1,829mm</p>	 <p>L=1,829mm</p>
壁用水切 ガルバリウム鋼板 (塗装)	壁止まり R ガルバリウム鋼板 (塗装)	壁止まり L ガルバリウム鋼板 (塗装)
 <p>L=1,829mm</p>		
通し吊り子 ガルバリウム鋼板 (塗装)	ビス用ソケット 材質 / 鉄	取付ビス25mm 材質 / 鉄
 <p>L=1,829mm</p> <p>※谷用水切と隅棟用水切Mに使用します。</p>	 <p>6.35</p> <p>※取付ビスの留付け時に必ず使用する部材です。</p>	<p>亜鉛メッキ+塗装(ビス頭)</p>  <p>6.35</p> <p>L=25mm</p>

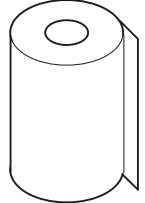
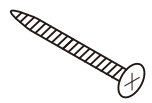
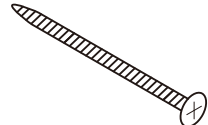
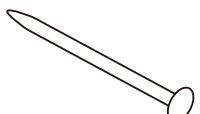
※寸法は設計値を示します。
 製造上、寸法には誤差が生じます。

3 使用部材・使用工具

3-1 役物一覧

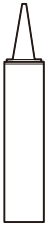
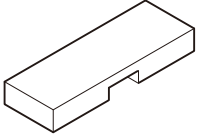
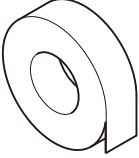
取付ビス38mm 材質／鉄  <p>垂鉛メッキ+塗装(ビス頭) L=38mm</p>		ドリリング取付ビス 55mm (チャコール) 材質／鉄  <p>垂鉛メッキ+塗装(ビス頭) L=55mm</p> <p>※本ビスはカバー工法で硬い屋根材に施工する時にご使用ください。</p>		棟換気 材質／樹脂 有効換気面積:142cm ² /m  <p>L=1,820mm</p>
シールテープ 材質／EPDM  <p>T×W=30×30mm L=2,000mm</p>	シールテープ 10 材質／EPDM  <p>T×W=10×30mm L=2,000mm</p>	雪止め金具 材質／ステンレス  <p>カラー:ブラック、 ブラウンのみ</p>	補修キット  <p>アクリル樹脂 ストーンチップ 刷毛</p>	
樹脂製瓦棧木  <p>L=1,820mm 9本入</p> <p>※防腐処理棧木の代わりに ご使用ください。</p>	樹脂製瓦棧木  <p>L=1,820mm 20本入</p> <p>※防腐処理棧木の代わりに ご使用ください。</p>	平板 石付ガルバリウム鋼板  <p>L=2,000mm</p> <p>※受注生産品のため納期は ご確認ください。</p>		

3-2 副資材一覧(現地調達品)


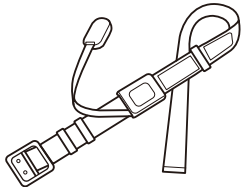

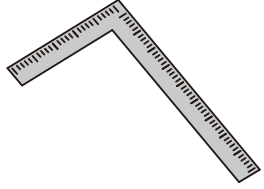
ルーフィング  <p>※JIS A 6005に適合するアスファルトルーフィング940又は改質アスファルトルーフィングを使用してください。</p>	木ビス38mm  <p>ステンレス製 推奨</p>	木ビス75mm  <p>ステンレス製 推奨</p>	釘 
--	---	--	--

3 使用部材・使用工具

3-2 副資材一覧(現地調達品)

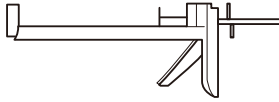

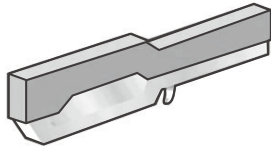
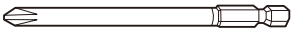

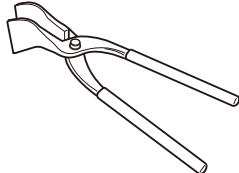
変成シリコン (シーリング材)	栈木 (防腐処理)	防水テープ
	 <p>【推奨寸法】 厚み：17mm～30mm 幅：30mm～90mm ※軒先部に使用する栈木は水抜き溝がある物を手配してください。</p>	

3-3 使用する工具

安全保護具	軍手	ヘルメット	墜落制止用器具
			
屋根設置	たび靴	スケール	差し金
			

3 使用部材・使用工具

3-3 使用する工具

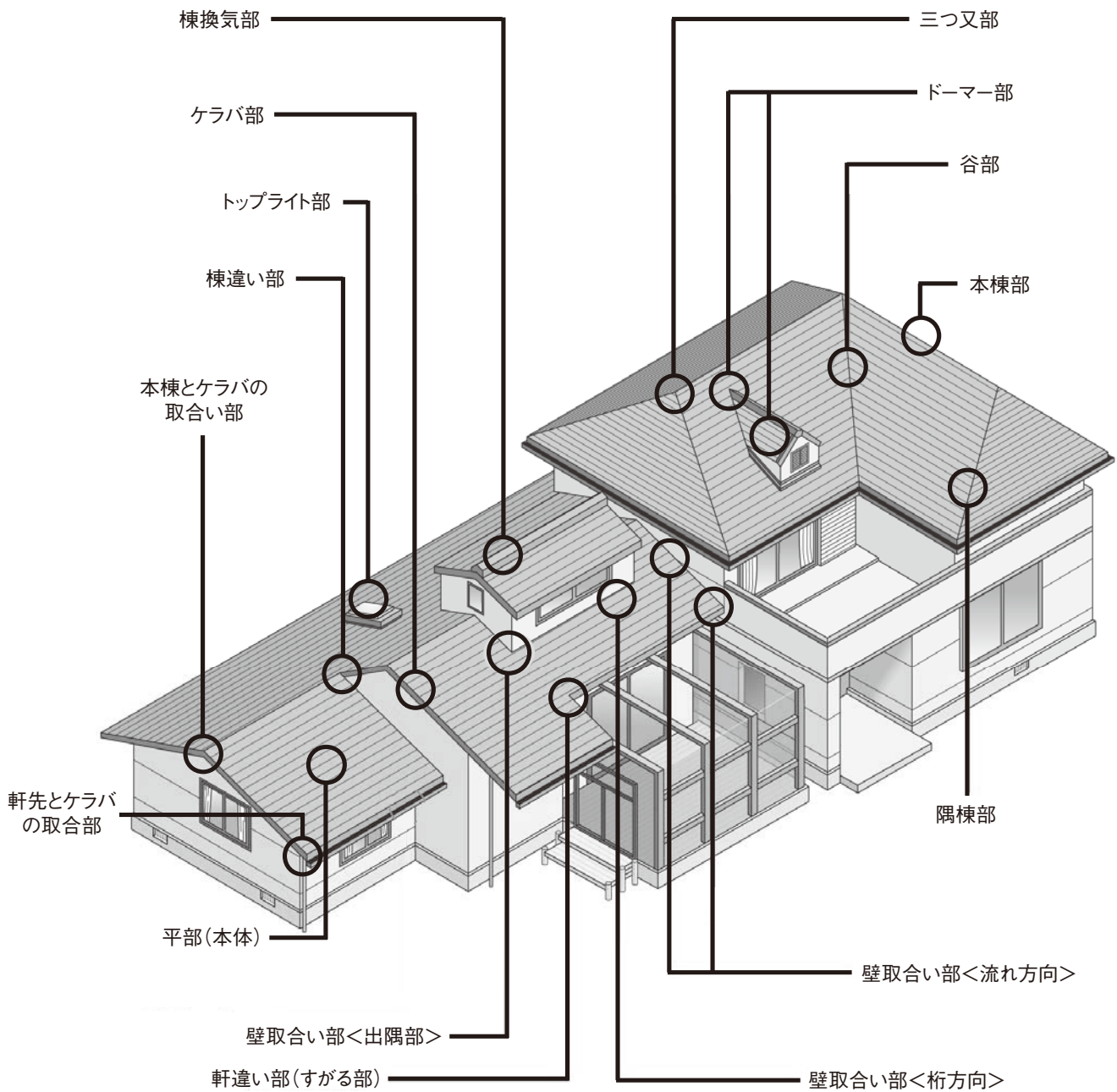
屋根設置	カッター	シリコンガン	ハンマー
			
	荷揚げ機	墨壺	タッカー
			
	プラスビット	ビス用ソケット	インパクトドライバー
		6.35  ※取付ビスの留付け時に必ず使用する部材です。	
	のこぎり	金切ハサミ	つかみ
			

3 使用部材・使用工具

3-3 使用する工具

屋根設置	ヘラ	押切	電動カッター
		 ※LIXIL推奨品	 ※LIXIL推奨品
清掃用具	ほうき	ちりとり	集塵機
			
	ガラ袋		
			

4-1 施工部位の紹介

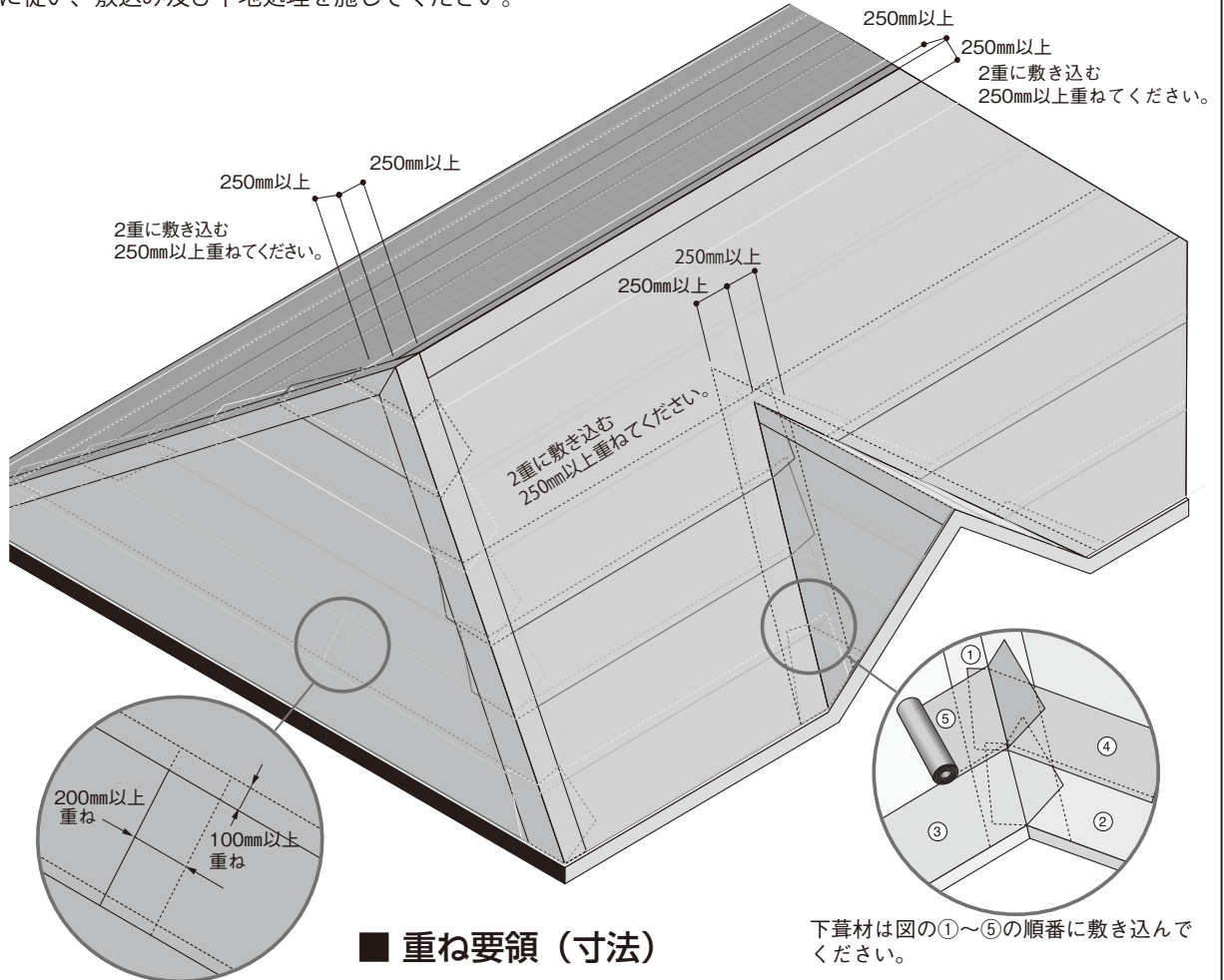


5 標準施工方法

5-2 下葺材の敷き込み

●下葺材は、JIS A 6005に適合するアスファルトルーフィング940又は改質アスファルトルーフィングをご使用ください。

※敷込み方法の詳細は住宅金融公庫仕様書、各住宅メーカーの仕様書に従い、敷込み及び下地処理を施してください。

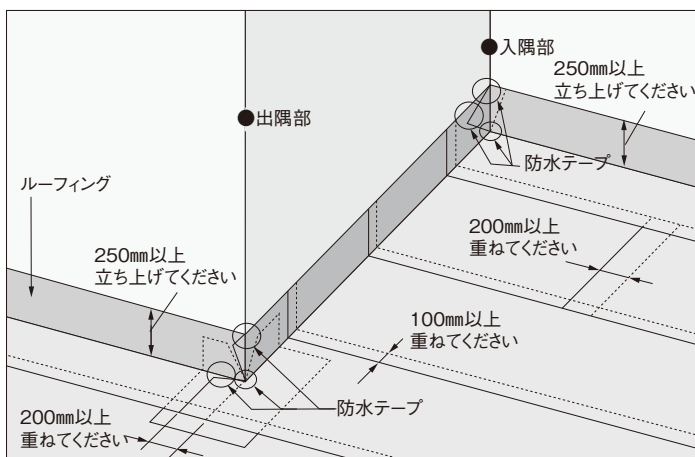


■ 重ね要領 (寸法)

- 流れ方向 - 100mm以上
- 桁行方向 - 200mm以上
- 棟 部 - 2重に敷き込む
- 下り棟部 - 多重に敷き込む
- 谷 部 - 多重に敷き込む

下葺材は図の①～⑤の順番に敷き込んでください。

■ 出隅部・入隅部



⚠ 注 意

- ⊘ 下地が湿潤している時や雨天時の敷込みは避けてください。屋根の下地が濡れたままルーフィングを敷込むと、野地板が痛み(カビの発生等)、雨漏りの原因になります。

■ リフォームの場合の下葺材の敷込み

使用するルーフィングは片面粘着ルーフィング又は改質アスファルトルーフィングをご使用ください。リフォームの場合、現場の状況に応じた敷き込みを実施して雨仕舞いを最優先してください。

※ 出隅、入隅部はピンホールが生じやすい為、下葺き材や防水テープで念入りに防水補強を施してください。

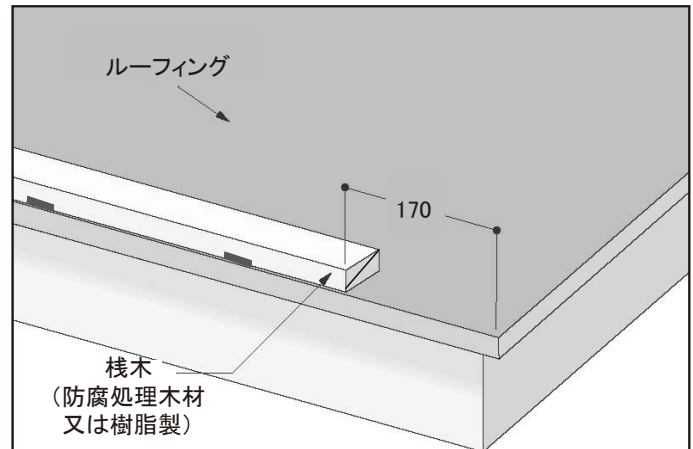
5 標準施工方法

5-3 軒先とケラバの取合い部<角型ケラバ/棟包みを使用する場合>

■ 棧木の取付

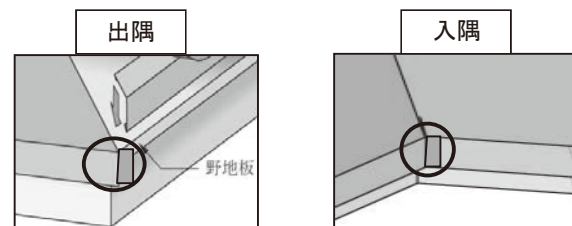
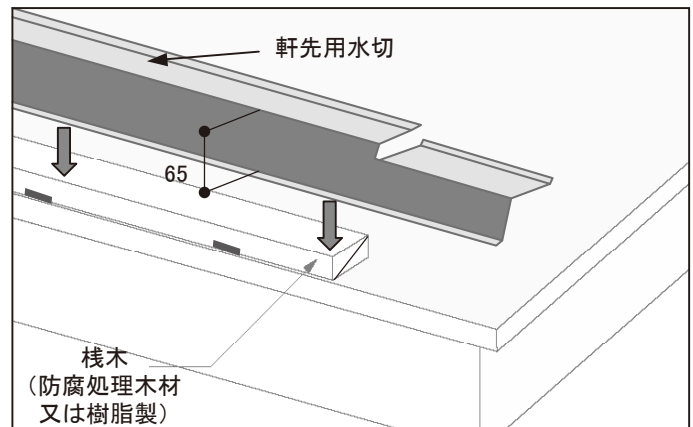
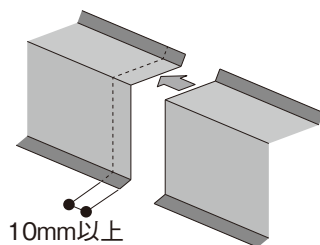
- ①ケラバ端部から170mm離して、軒先に合わせた位置に棧木(防腐処理木材又は樹脂製)を木ビス(450mm間隔程度)で取付けてください。

※棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください)



■ 軒先用水切の取付

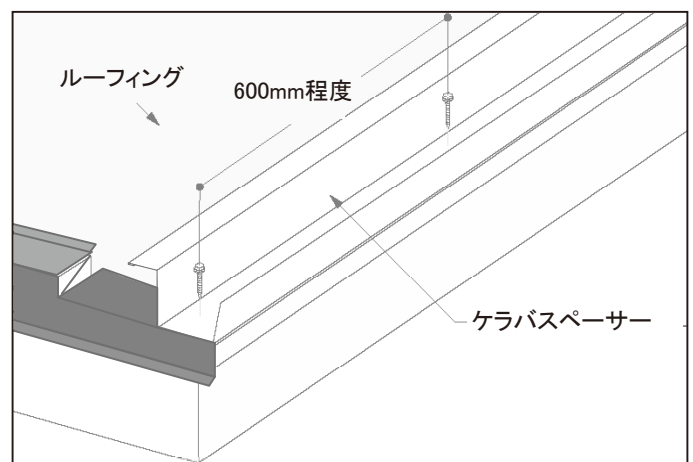
- ①軒先用水切を加工して、棧木に対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②軒先用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。



軒先用水切の合わせは突きつけではなく、重なるように納めてください。

■ ケラバスペーサーの取付

- ①ケラバスペーサーをケラバ端部に合わせて取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②ケラバスペーサーのジョイントは100mm以上重ねてください。

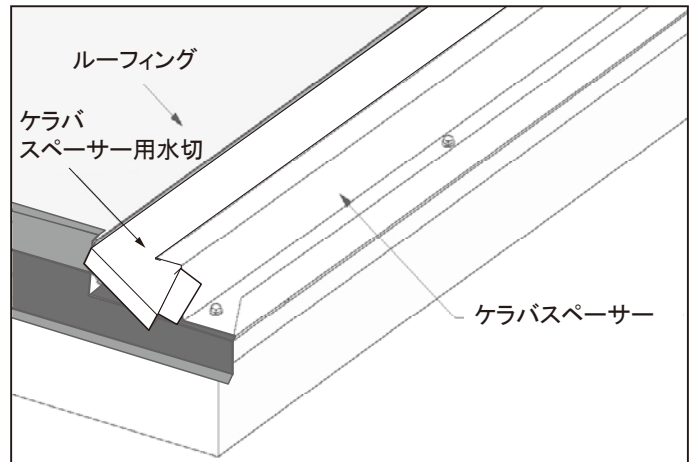
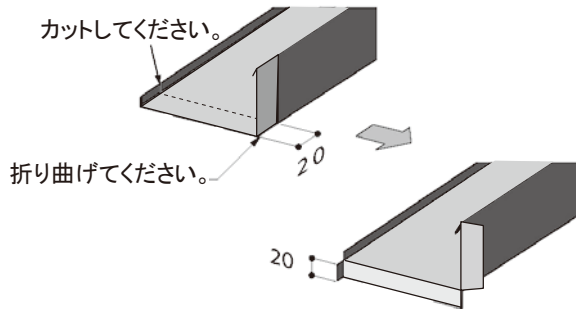


5 標準施工方法

5-4 ケラバ部の下地<角型ケラバ／棟包みを使用する場合>

■ ケラバスペーサー用水切の取付

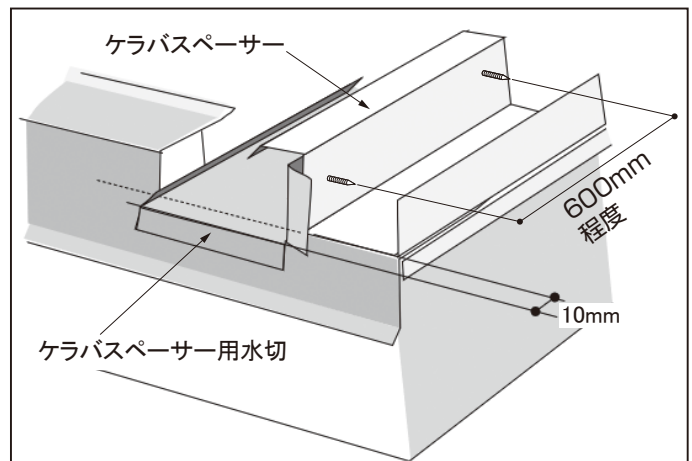
- ①ケラバスペーサー用水切の先端部を加工してください。



- ②ケラバスペーサー用水切を軒先先端部から10mm軒側に出してケラバスペーサーに対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けしてください。

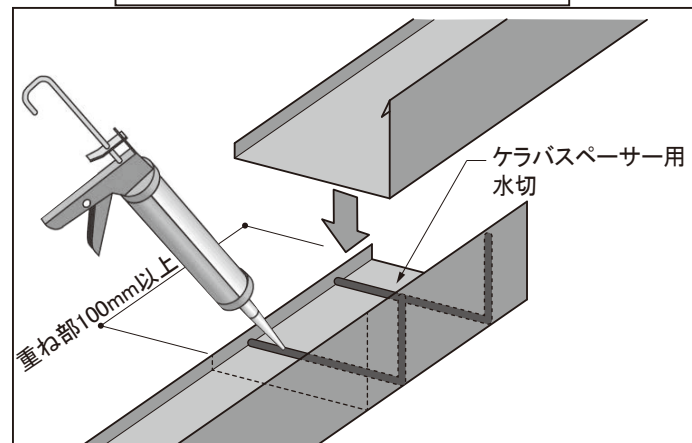
⚠ 注意

ケラバスペーサー用水切平部にはビスを打たないでください。雨漏りの原因になります。



- ③ケラバスペーサー用水切のジョイント部はシーリング処理をして100mm以上重ねてください。

ケラバスペーサー用水切のジョイント



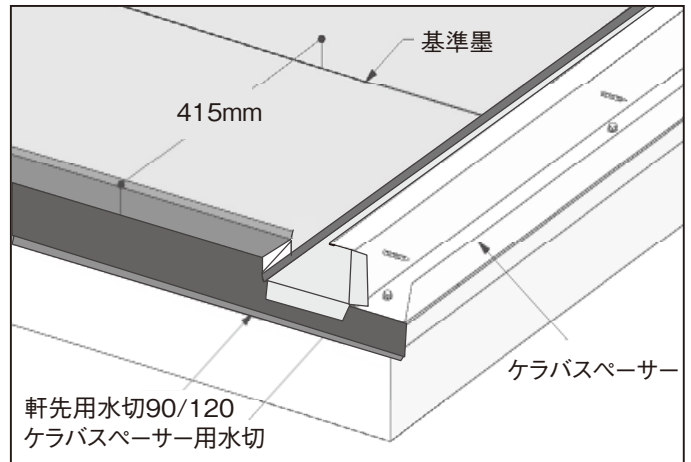
5 標準施工方法

5-5 平部<本体>

■ 墨出し(基準墨)

- ①1段目の本体を葺く前に、軒先用水切先端から基準墨を打ってください。

※基準墨は役物先端から415mmが目安となりますが屋根面からの雨水が確実に雨樋に落ちることを優先して現場調整してください。

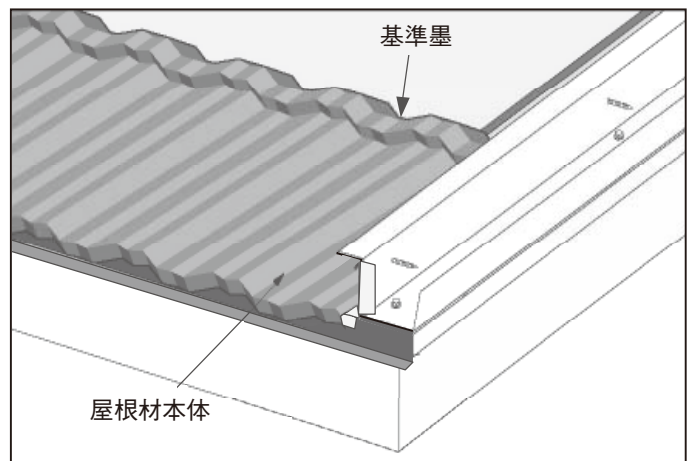


■ 1段目の本体施工

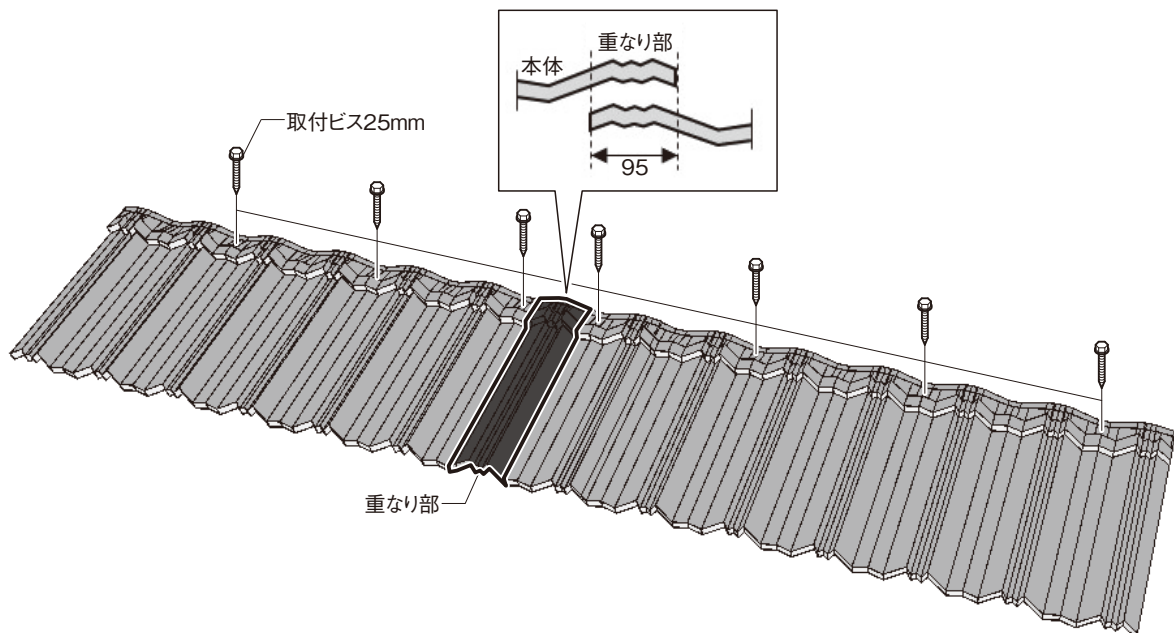
- ①基準墨に本体上部を合わせ、取付ビス25mmで、重なり部の両端とそれ以降は1つ間隔を空けて、本体上部の凹部を狙って取付けしてください。(下図参照)

- ②本体(桁方向)の重なり部は95mm程度の位置で重ねてください。

※95mm程度の位置が本体一山分重なるようになっています。



■ 本体上部ビス留め箇所

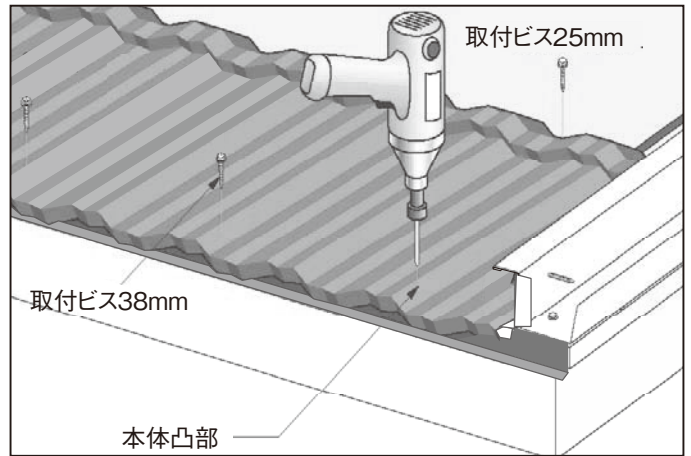


5 標準施工方法

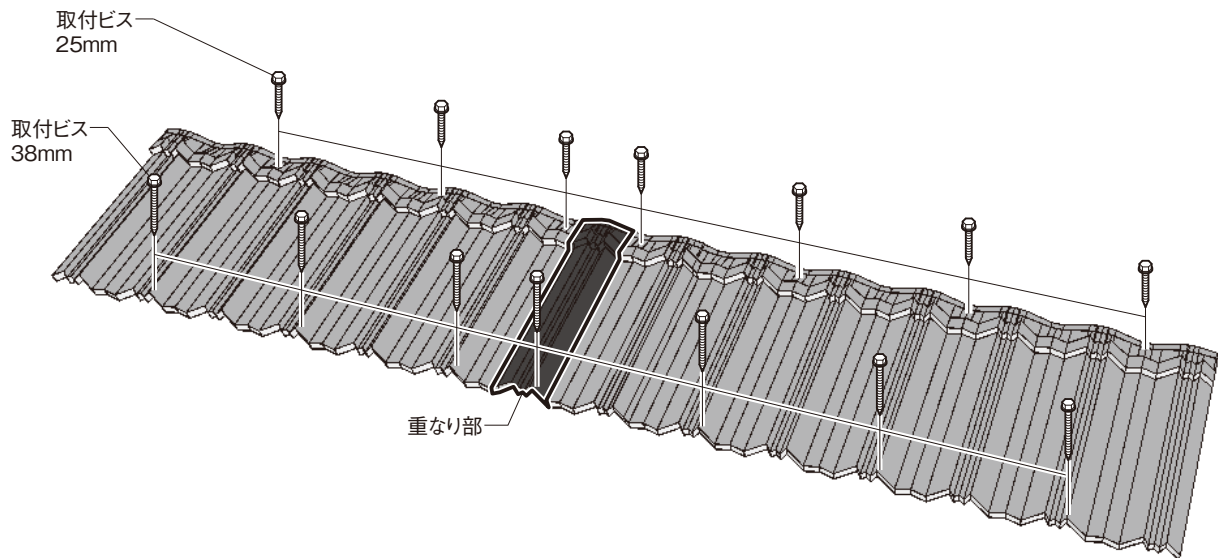
5-5 平部<本体>

③1段目の本体鼻先部は取付ビス38mmで、上部のビス留め位置の左側凸部を狙い、1つ間隔を空けて取付けしてください。(下図参照)

※本体重なり部は必ず留めてください。



■ 本体上部ビス留め箇所



※野地板の種類によって本体へのビス留めの本数は変わる場合があります。

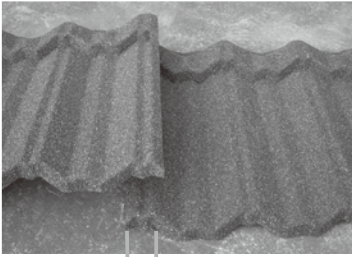
5

標準施工方法

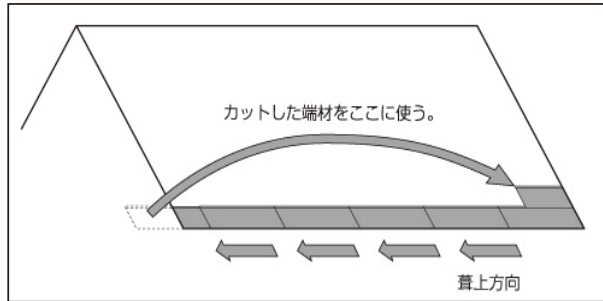
5-5 平部<本体>

■ 本体の葺き方

- ①屋根本体の横方向の重なりは95mm程度で取付けしてください。



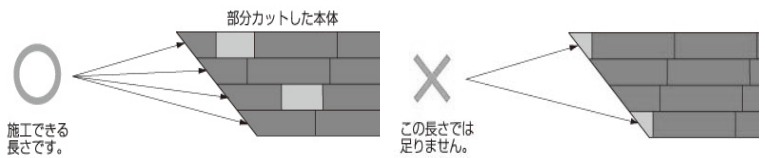
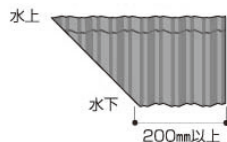
重なり95mm程度以上



- ②切妻屋根の場合、左ケラバ部でカットして残った端材を次の段で使用してください。

※端材を使用する場合は540mm(三山)以上を目安にしてください。

- ③隅棟・谷部の本体の葺き幅が水下で200mmより狭くなる場合には、端材等で調整(540mm以上)してください。

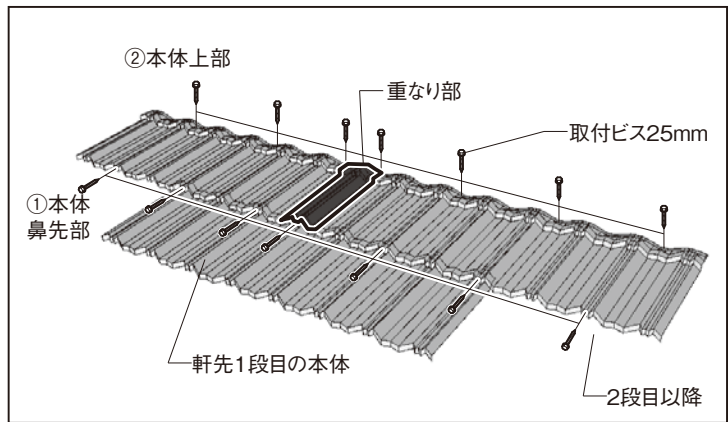


■ 2段目以降の本体施工

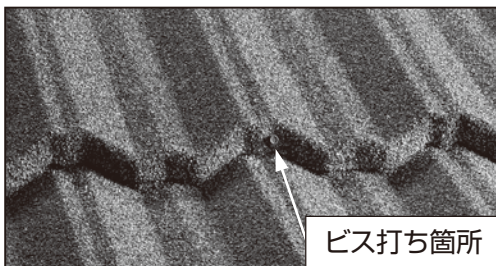
- ①本体鼻先部を取付ビス25mmで、上部のビス留め位置の左側凸部を狙い、1つ間隔を空けて取付けしてください。(右図参照)

※本体左右重なり部は必ず留めてください。

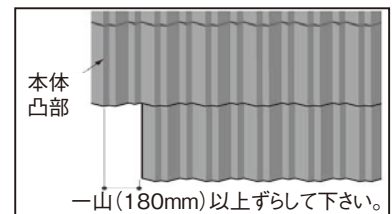
- ②本体上部を取付ビス25mmで、重なり部の両端とそれ以降は1つ間隔を空けて、本体上部の凹部を狙って取付けしてください。(右図参照)



※鼻先部を固定するビスは本体山部の下を狙いビス留めしてください。(下図参照)



流れ方向の上下重なり部が同一線上にならないよう、ずらして葺いてください。(右図参照)



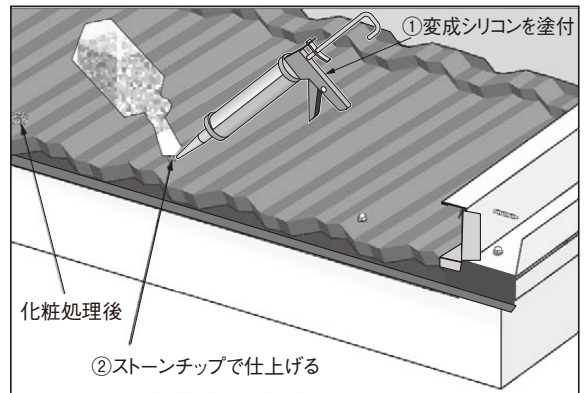
5

標準施工方法

5-5 平部<本体>

■ 本体一段目軒先部のビス頭への化粧処理

- ① 本体一段目軒先部に固定したビス頭を変成シリコン（シーリング材）と補修キット（ストーンチップ）で化粧処理してください。



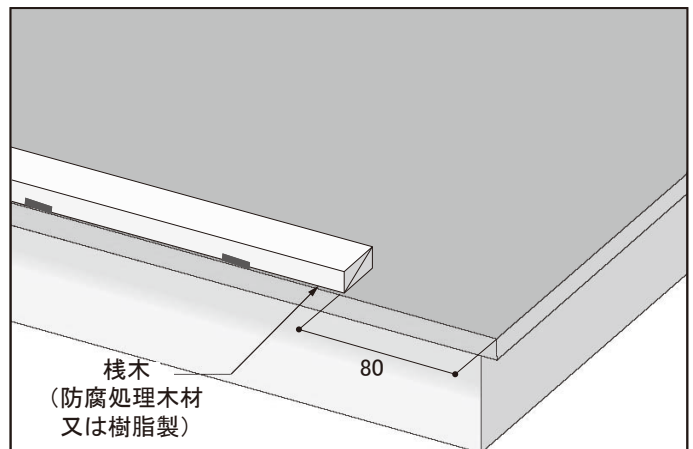
5 標準施工方法

5-6 軒先とケラバの取合い部<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>

■ 棧木の取付

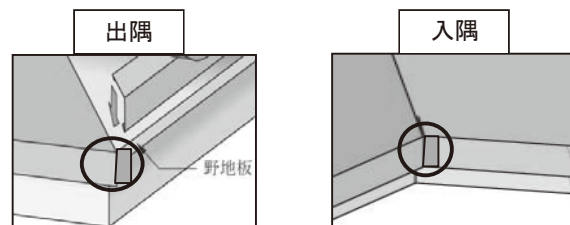
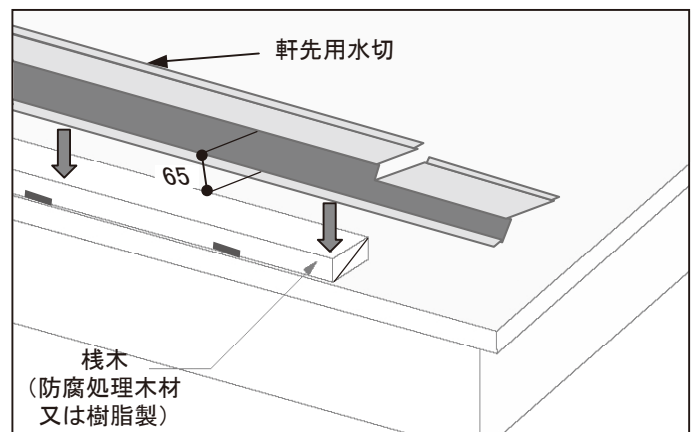
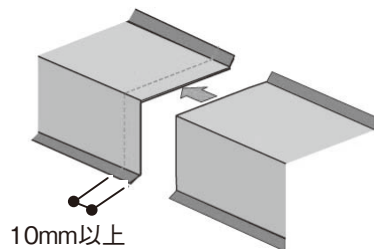
- ①ケラバ端部から80mm離して、軒先に合わせた位置に棧木(防腐処理木材又は樹脂製)を木ビス(450mm間隔程度)で取付けてください。

※棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください)



■ 軒先用水切の取付

- ①軒先用水切を加工して、棧木に対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②軒先用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。



軒先用水切の合わせは突きつけではなく、重なるように納めてください。

5 標準施工方法

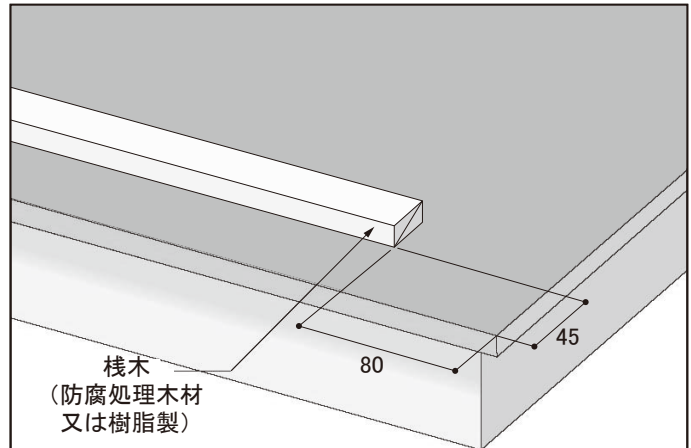
5-6 軒先とケラバの取合い部<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>

※カバー工法の場合

■ 棧木の取付

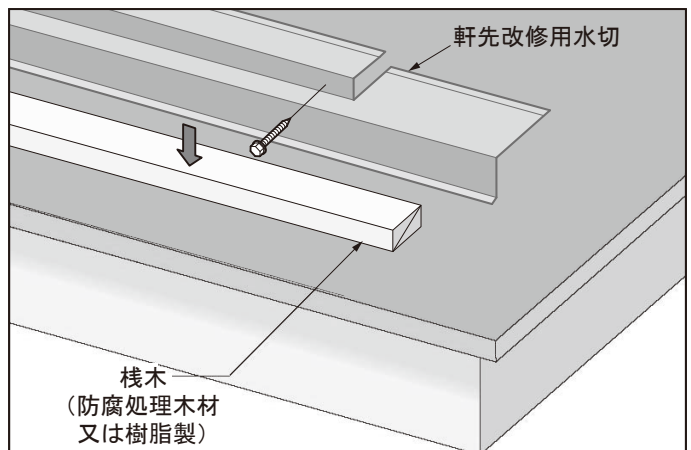
- ① 軒先から45mm、ケラバ端部から80mm 離れた位置に棧木(防腐処理木材又は自姿勢)を木ビス(450mm間隔程度)で取付けてください。

※棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください。)



■ 軒先改修用水切の取付

- ① 軒先改修用水切を加工して、棧木に対して側面から取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ② 軒先改修用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。

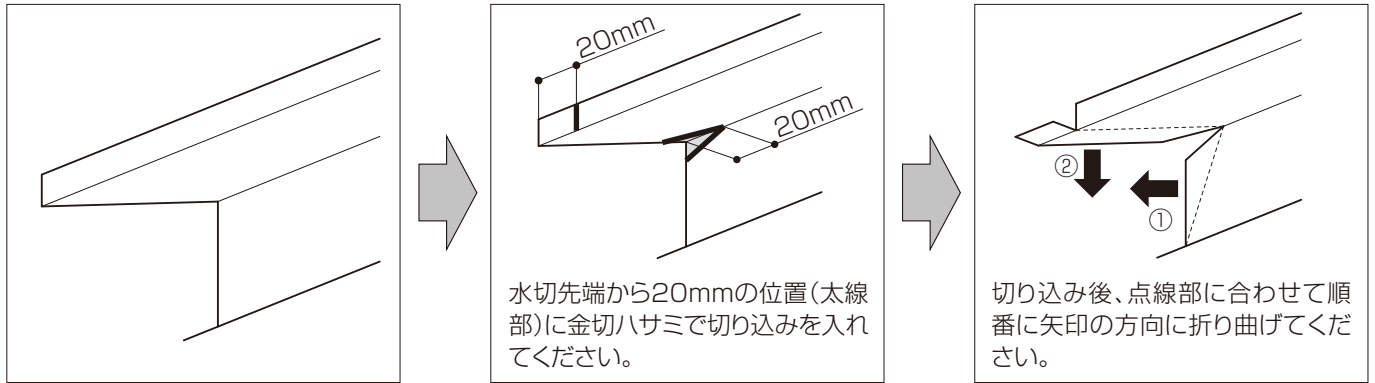


5 標準施工方法

5-7 ケラバ部の下地<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>

■ ケラバ用水切軒先端部の加工

①下図のようにケラバ用水切の先端を加工してください。

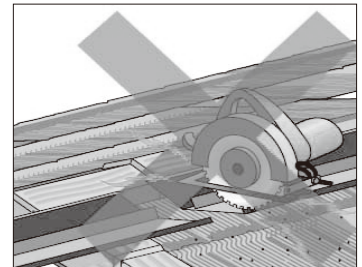


▲ 注意

- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

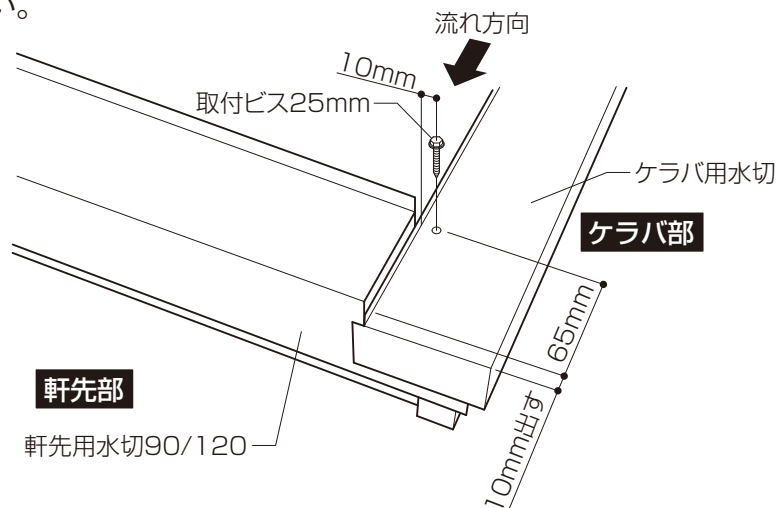
お願い

- 屋根上で丸のこ等を使用して屋根材の切除作業は避けてください。屋根材が錆びて、屋根材の意匠を著しく損ねてしまうおそれがあります。



■ ケラバ用水切の取付

①ケラバ用水切を軒先先端部から10mm離れた位置に合わせ、取付ビス25mmで軒先先端部から棟側65mmの位置に固定してください。



5 標準施工方法

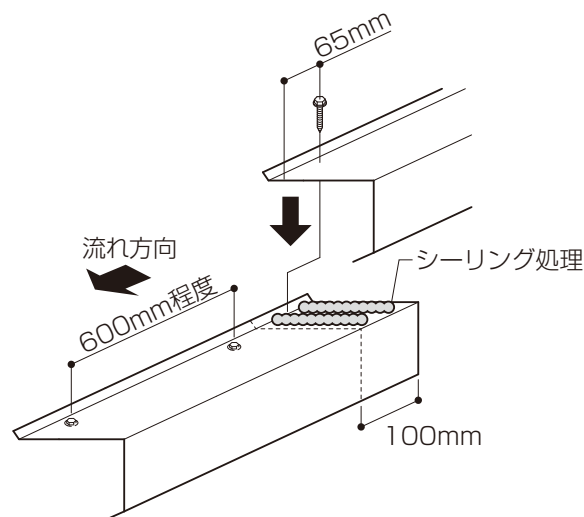
5-7 ケラバ部の下地<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>

▲ 注意

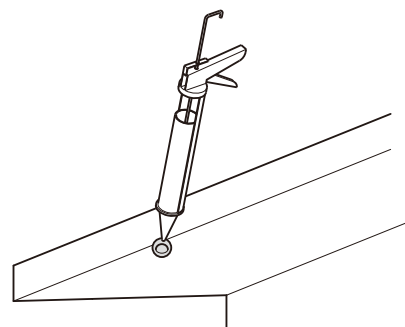
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

②ケラバ用水切の棟側先端は屋根勾配に合わせて加工してください。

③ケラバ用水切は取付ビス25mmで600mm程度の間隔で固定して、水切同士のジョイント部は100mm重ねて変成シリコン(現地手配品)でシーリング処理をしてください。ジョイント部のビス固定位置は重ねる側のケラバ用水切水下端部から65mmの位置で固定してください。



④ケラバ用水切を固定した取付ビス25mmすべてのビス頭に対して変成シリコンでシーリング処理をしてください。



▲ 注意

- 水切などの平部にビスを打つ場合は変成シリコンで必ずシーリング処理を施してください。雨漏りにつながるおそれがあります。

5

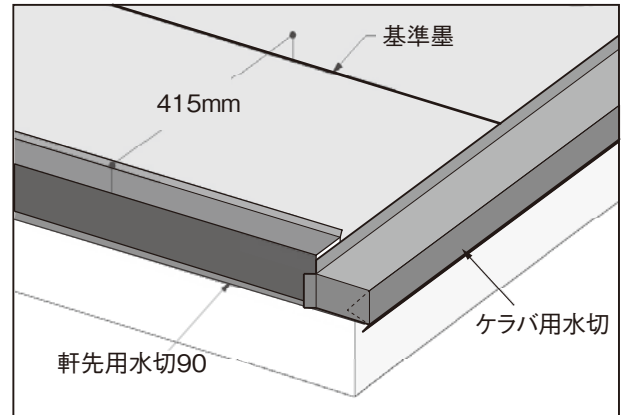
標準施工方法

5-8 平部<本体>

■ 墨出し(基準墨)

①1段目の本体を葺く前に、軒先用水切先端から基準墨を打ってください。

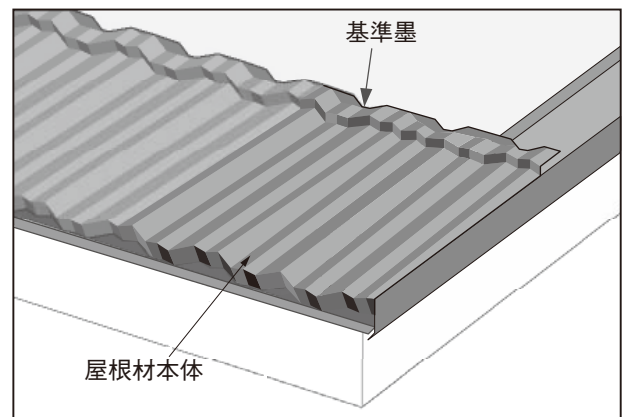
※基準墨は役物先端から415mmが目安となりますが屋根面からの雨水が確実に雨樋に落ちることを優先して現場調整してください。



■ 1段目の本体施工

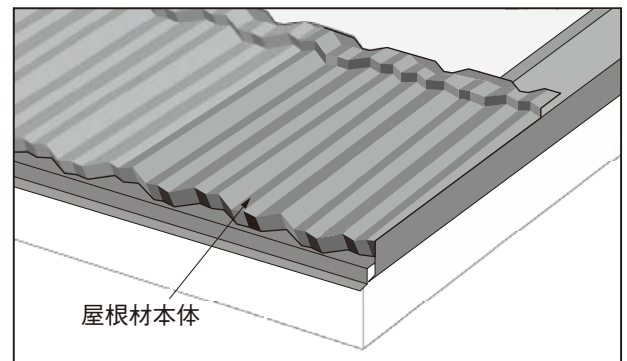
①基準墨に本体上部を合わせ、取付ビス25mmで、重なり部の両端とそれ以降は1つ間隔を空けて、本体上部の凹部を狙って取付けしてください。(下図参照)

②本体(桁方向)の重なり部は95mm程度の位置で重ねてください。
※95mm程度の位置が本体一山分重なるようになっています。

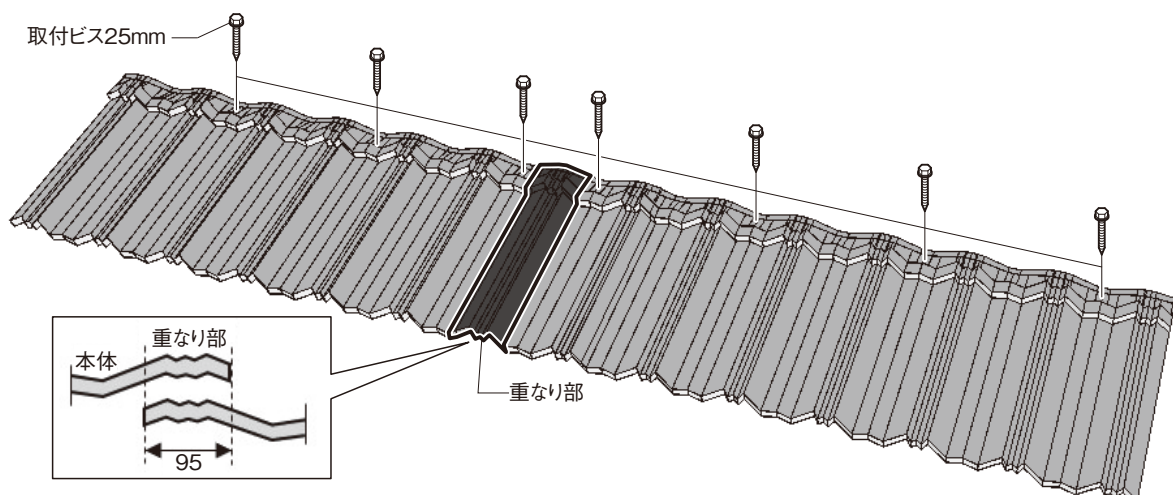


※カバー工法の場合

カバー工法で軒先に軒先改修用水切を使用する場合は、基準墨は不要で、本体鼻先部を軒先改修用水切に棟側へ押し当てるようにして取付けてください。



■ 本体上部ビス留め箇所

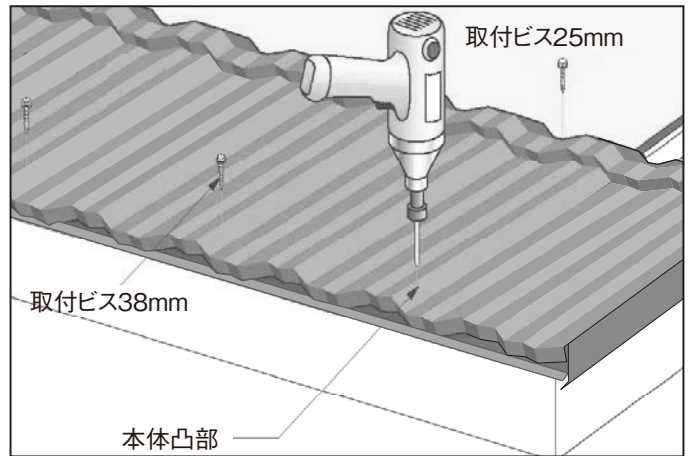


5 標準施工方法

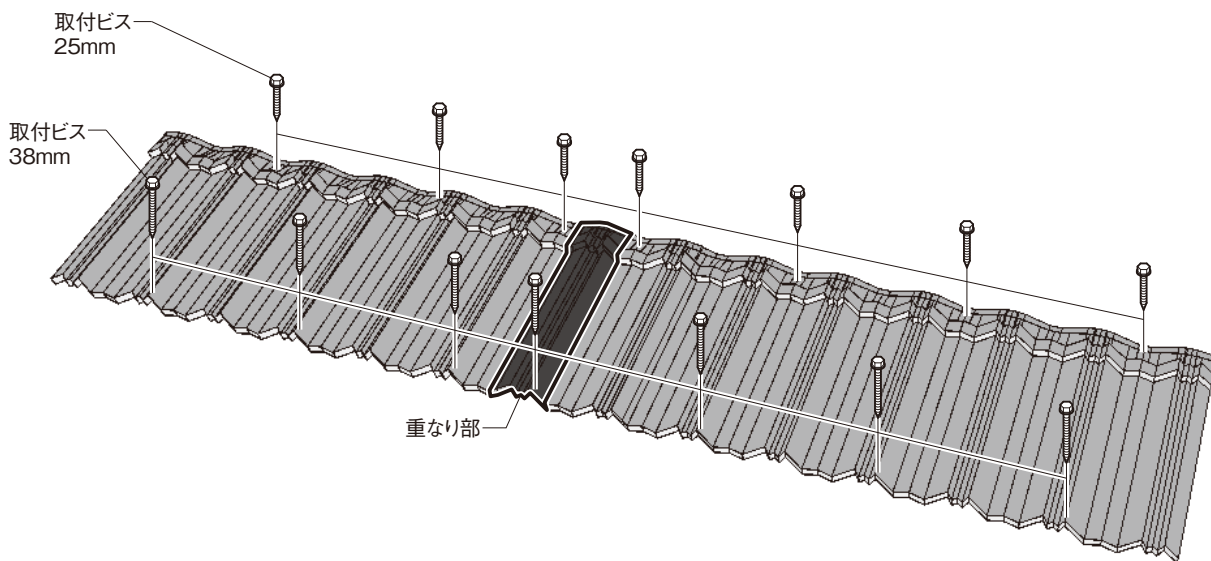
5-8 平部<本体>

- ③1段目の本体鼻先部は取付ビス38mmで、上部のビス留め位置の左側凸部を狙い、1つ間隔を空けて取付けしてください。(下図参照)

※本体重なり部は必ず留めてください。



■ 本体上部ビス留め箇所



※野地板の種類によって本体へのビス留めの本数は変わる場合があります。

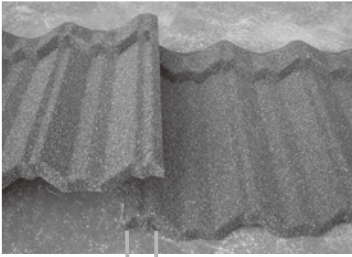
5

標準施工方法

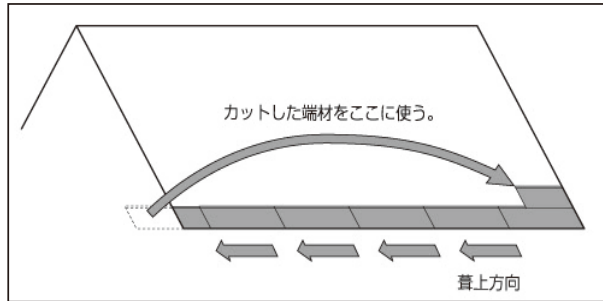
5-8 平部<本体>

■ 本体の葺き方

- ①屋根本体の横方向の重なりは95mm程度で取付けしてください。



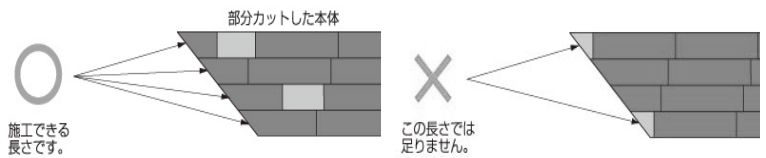
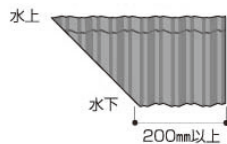
重なり95mm程度以上



- ②切妻屋根の場合、左ケラバ部でカットして残った端材を次の段で使用してください。

※端材を使用する場合は540mm(三山)以上を目安にしてください。

- ③隅棟・谷部の本体の葺き幅が水下で200mmより狭くなる場合には、端材等で調整(540mm以上)してください。



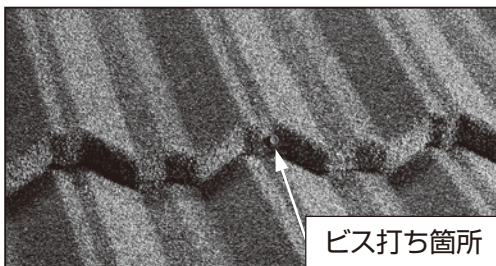
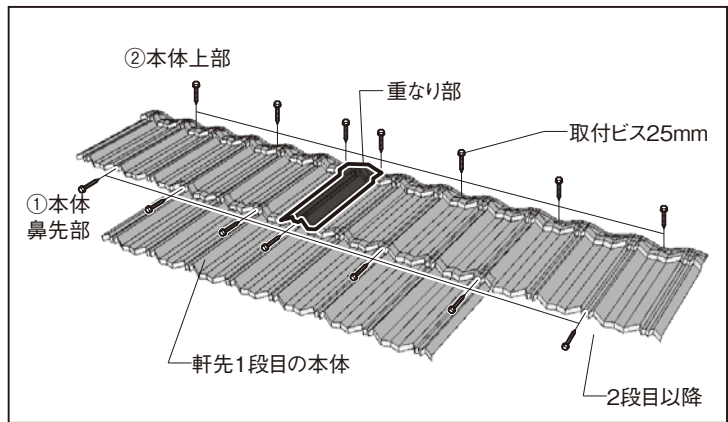
■ 2段目以降の本体施工

- ①本体鼻先部を取付ビス25mmで、上部のビス留め位置の左側凸部を狙い、1つ間隔を空けて取付けしてください。(右図参照)

※本体重なり部は必ず留めてください。

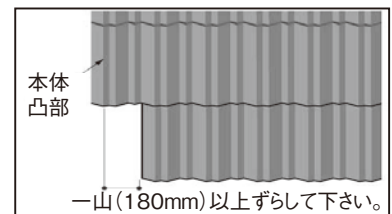
- ②本体上部を取付ビス25mmで、重なり部の両端とそれ以降は1つ間隔を空けて、本体上部の凹部を狙って取付けしてください。(右図参照)

※鼻先部を固定するビスは本体山部の下を狙いビス留めしてください。



ビス打ち箇所

流れ方向の上下重なり部が同一線上にならないよう、ずらして葺いてください。

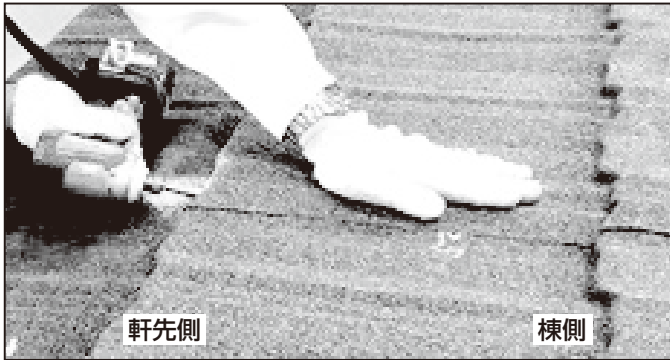


5 標準施工方法

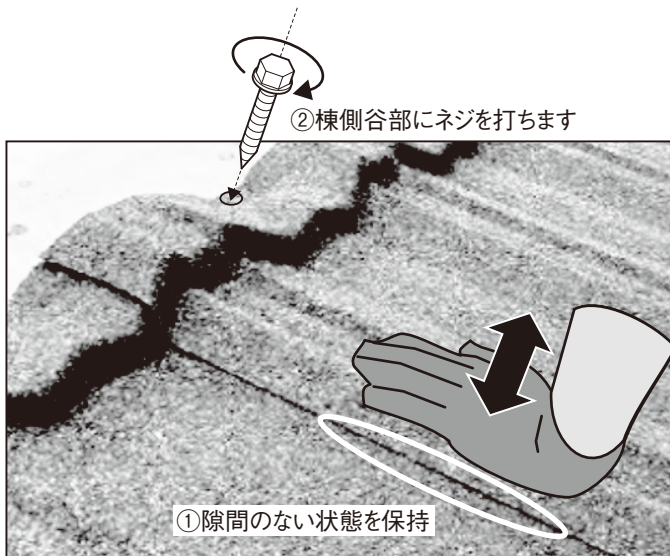
5-8 平部<本体>

■ 本体取付け時の注意点

①取付ビスを軒先側から固定してください。

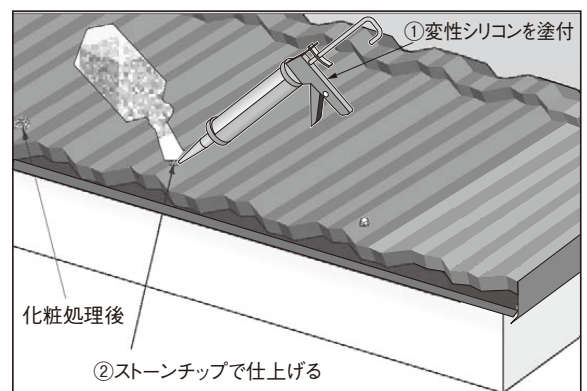


- ②写真のように本体重ね部真ん中を手のひらで押し、隙間が生じない加減で保持します。
- ③前項の状態を保持したまま、棟側の本体固定ネジを打ちます。



■ 本体一段目軒先部のビス頭への化粧処理

①本体一段目軒先部に固定したビス頭を変性シリコン（シーリング材）と補修キット（ストーンチップ）で化粧処理してください。

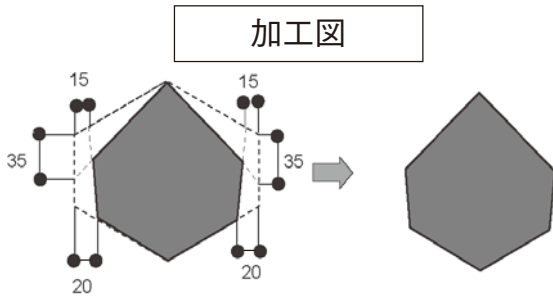


5 標準施工方法

5-9 ケラバ部仕上げ<角型ケラバ／棟包み>

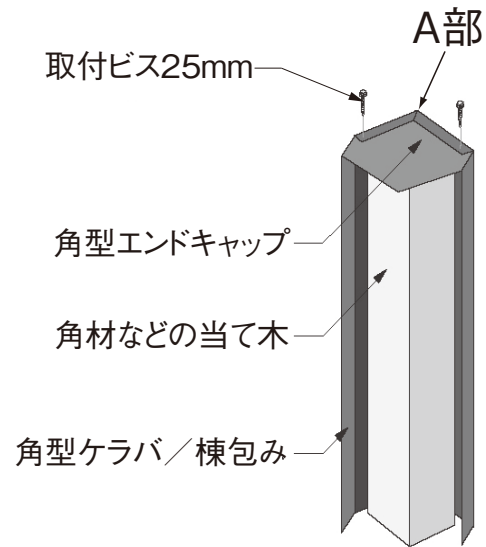
■ 角型エンドキャップの加工と取付

①角型エンドキャップを加工してください。



※角型エンドキャップは隅棟剣先で使用する形状になっておりますのでケラバ先端で使用する際は加工が必要となります。

②右図のA部にハサミで切り込みを入れてから取付ビス25mmで2点固定してください。

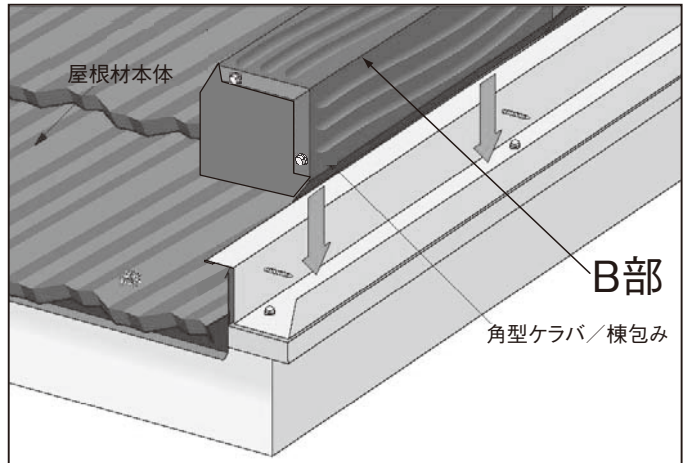


■ 角型ケラバ／棟包みの取付

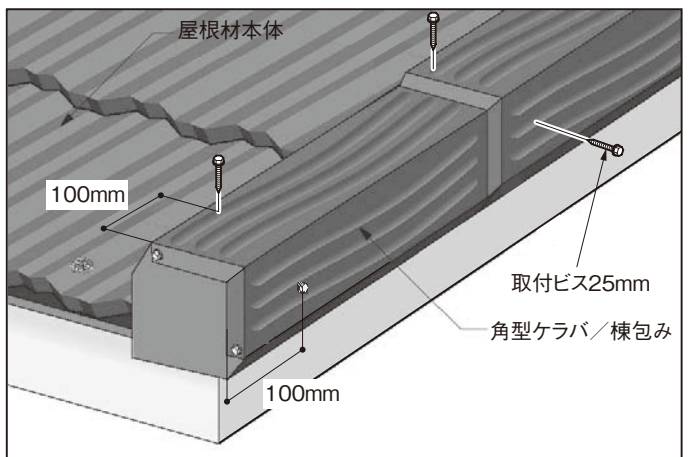
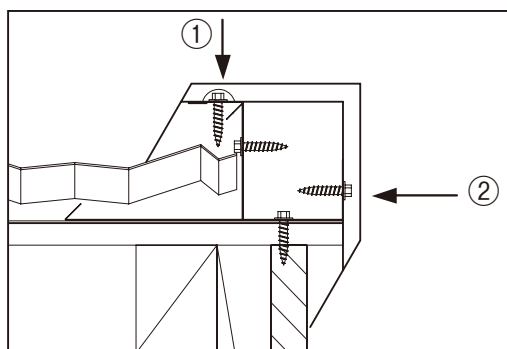
①角型ケラバ／棟包みを軒先側から順に水平ラインが通るように取付ビス25mmで取付けしてください。

※右図のB部が直角になるよう曲げて調整してください。

※角型ケラバ1つあたりのビス留め箇所は
 脳天と外側側面の2か所です。
 脳天は内側1番目の溝、外側側面は
 下から2番目の溝を目安にしてください。
 (下図・右図参照)



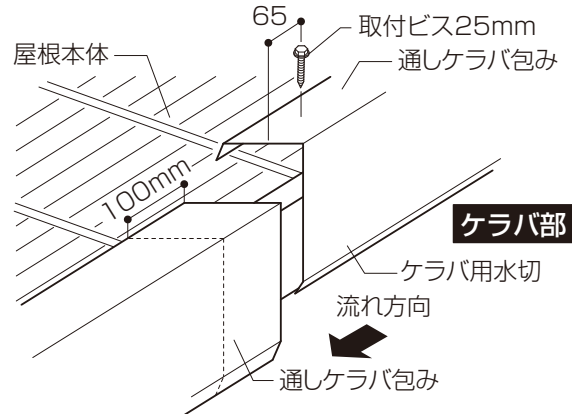
ビス留めの手順 (Screw fastening procedure)



5 標準施工方法

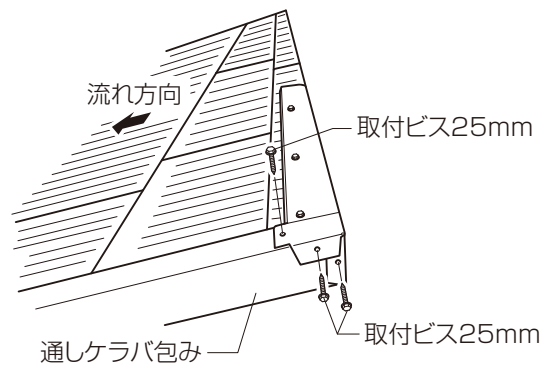
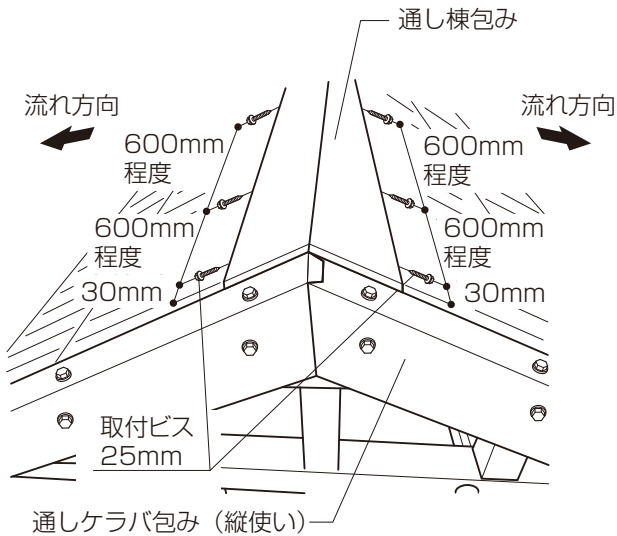
5-10 ケラバ部仕上げ<通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡ>

- ②通しケラバ包みのジョイントは100mm重ねて取付ビス25mmで取付けてください。
- ③通しケラバ包みを棟部まで取付ビス25mmで取付けてください。



■本棟（通し棟包み）との取り合い部

■片流れ棟（通し棟包み）との取り合い部



▲ 注意

- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違って使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)

5 標準施工方法

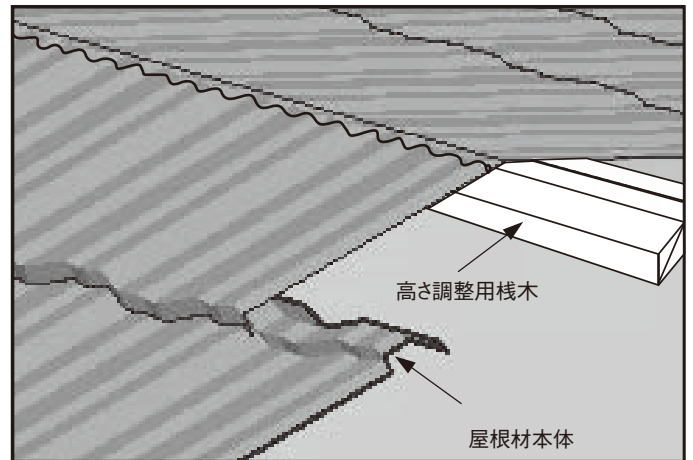
5-11 本棟部

■ 栈木と本体の取付

- ①本棟際に高さ調整用栈木(防腐処理木材又は樹脂製)を木ビス38mm(450mm間隔程度)で取付けてください。

※栈木の厚みは屋根状況に合わせて、調整してください。

- ②本体上部を取付ビス25mm(360mm間隔程度)で取付けてください。

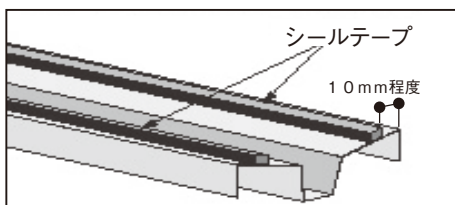


■ 棟用水切の取付

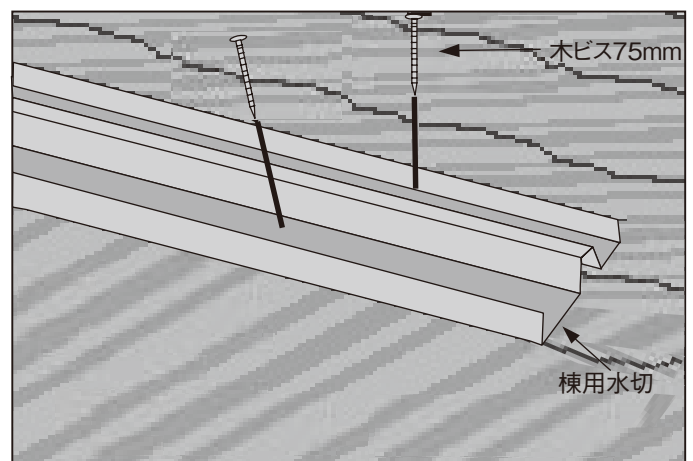
- ①棟用水切の裏面にシールテープを貼ってください。

※シールテープは棟用水切裏面の端部より10mm程度離して、貼ってください。

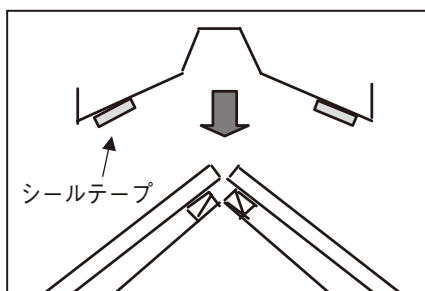
- ②棟用水切を本体に対して木ビス75mm(360mm間隔程度)で取付けてください。ジョイント部は100mm以上重ねてください。



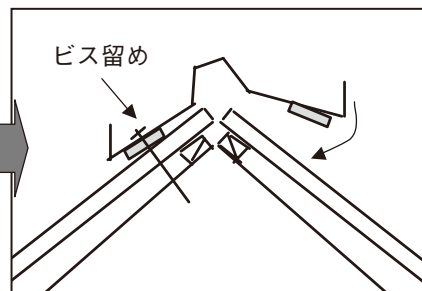
※通し棟包みで納める場合は、通し棟用水切を取り付けてください。



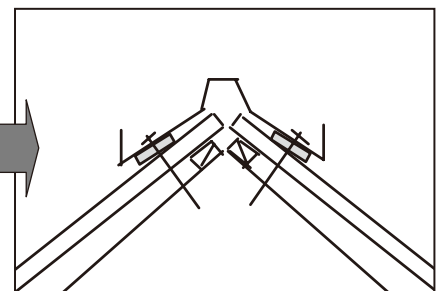
■ 屋根勾配が急勾配(10寸勾配以上)の場合



- ①棟用水切裏面にシールテープを貼る。



- ②先に棟片側をビス留めして、もう一方を棟芯にできるだけ寄せてください。



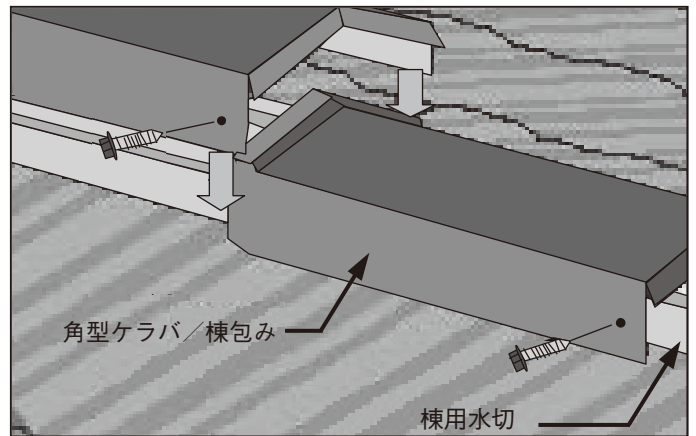
- ③取付完了

5 標準施工方法

5-11 本棟部

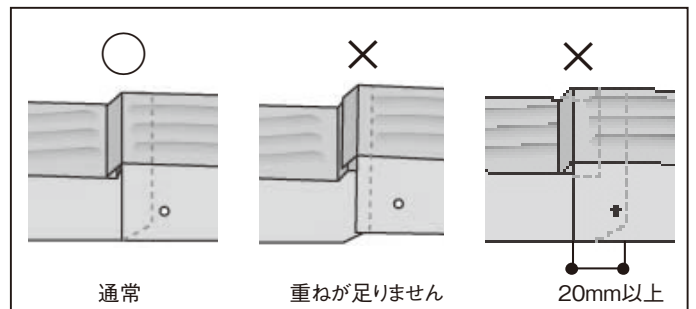
■ 角型ケラバ／棟包みの取付

- ①角型ケラバ／棟包みは、両サイドにあるガイド穴に取付ビス25mmで取付けてください。



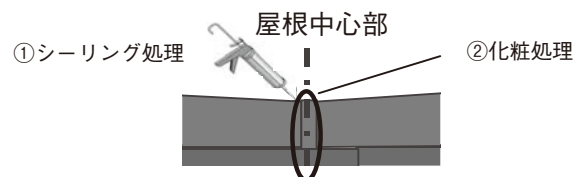
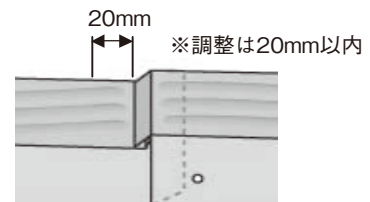
■ 角型ケラバ／棟包みのジョイント部

- ①角型ケラバ／棟包みのジョイント部は棟包みのつば先部と頭部がぴったり合うように取付けてください。

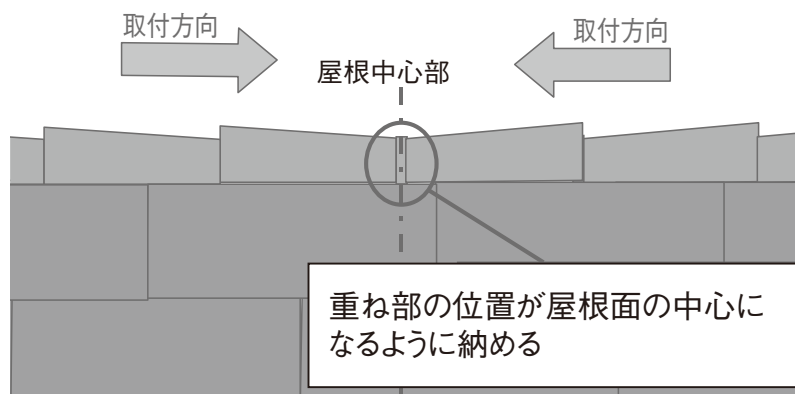


■ 角型ケラバ／棟包みの割付調整

- ①角型ケラバ／棟包みの割付を合わせる場合は重なり部(20mm以内)で調整してください。
- ②角型ケラバ／棟包みの屋根芯での重ね部はシーリング処理をして補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



【参考】取付事例

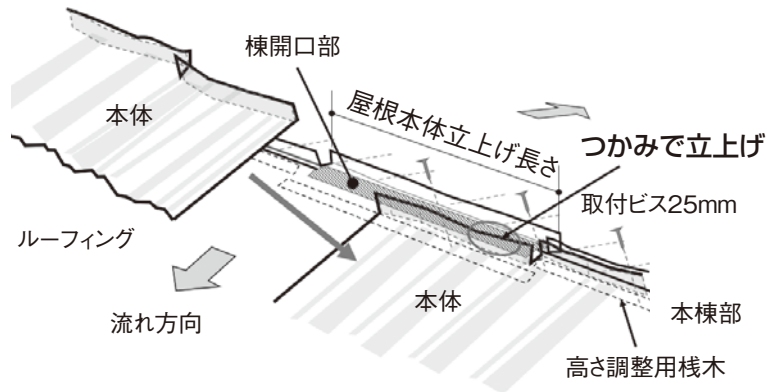


5 標準施工方法

5-12 棟換気部<角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>

■ 本体の加工と取付

- ①棟換気開口部に面する屋根本体端部の谷部をつかみで山部と同じ高さを目安に立ち上げてください。
- ②加工後は、屋根本体を取付ビス25mm (360mm間隔程度)で高さ調整用の栈木を狙って取付けしてください。

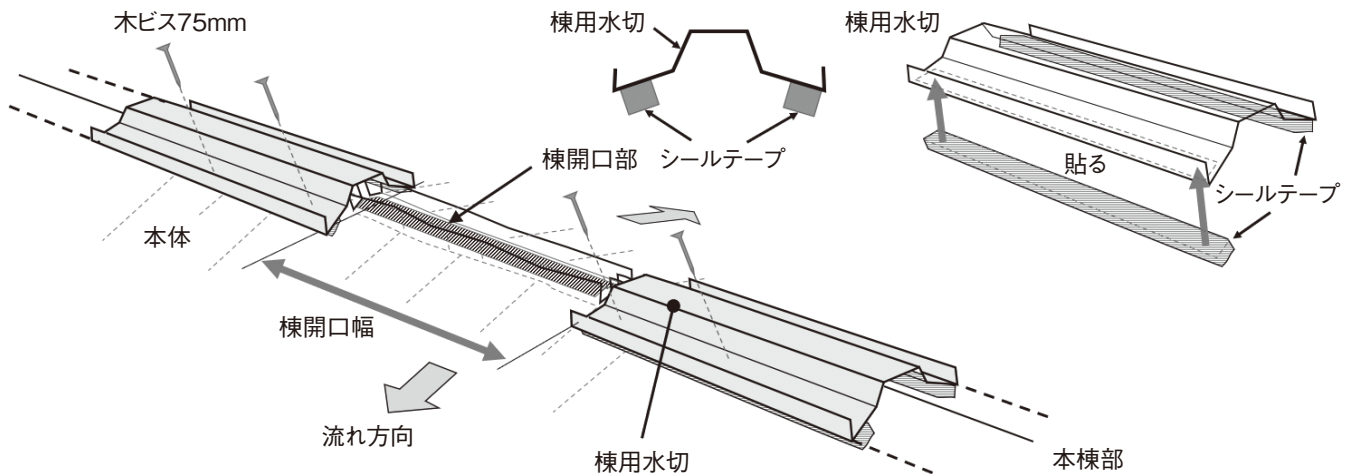


▲ 注意

- 棟換気部材を設置の際には、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 棟用水切の取付

- ①棟用水切の裏面にシールテープを貼ってください。
- ②棟開口部の両端部まで棟用水切を納めます。(詳細は32ページ参照)



5 標準施工方法

5-12 棟換気部<角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>

■ 棟換気と棟換気カバーの取付

①棟換気の下面にシールテープを貼り、木ビス75mm(180mm間隔程度)で、角型ケラバ／棟包み用棟換気カバーと位置を合わせて取付けてください。

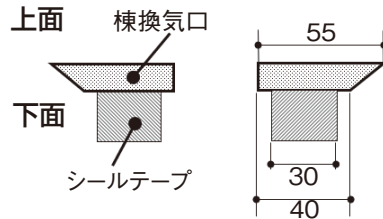
※シールテープは隙間ができないように貼り、ねじれないように取付けてください。

※棟水切下のシールテープと棟換気下のシールテープの間に隙間ができないようにしてください。

下図のように並べて貼る場合は100mm重ねてください。

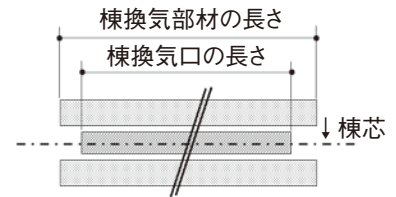
<シールテープ貼り位置 説明図>

棟換気部材の裏面(幅が40mmの面)の中心に合わせてシールテープを貼り付けてください。

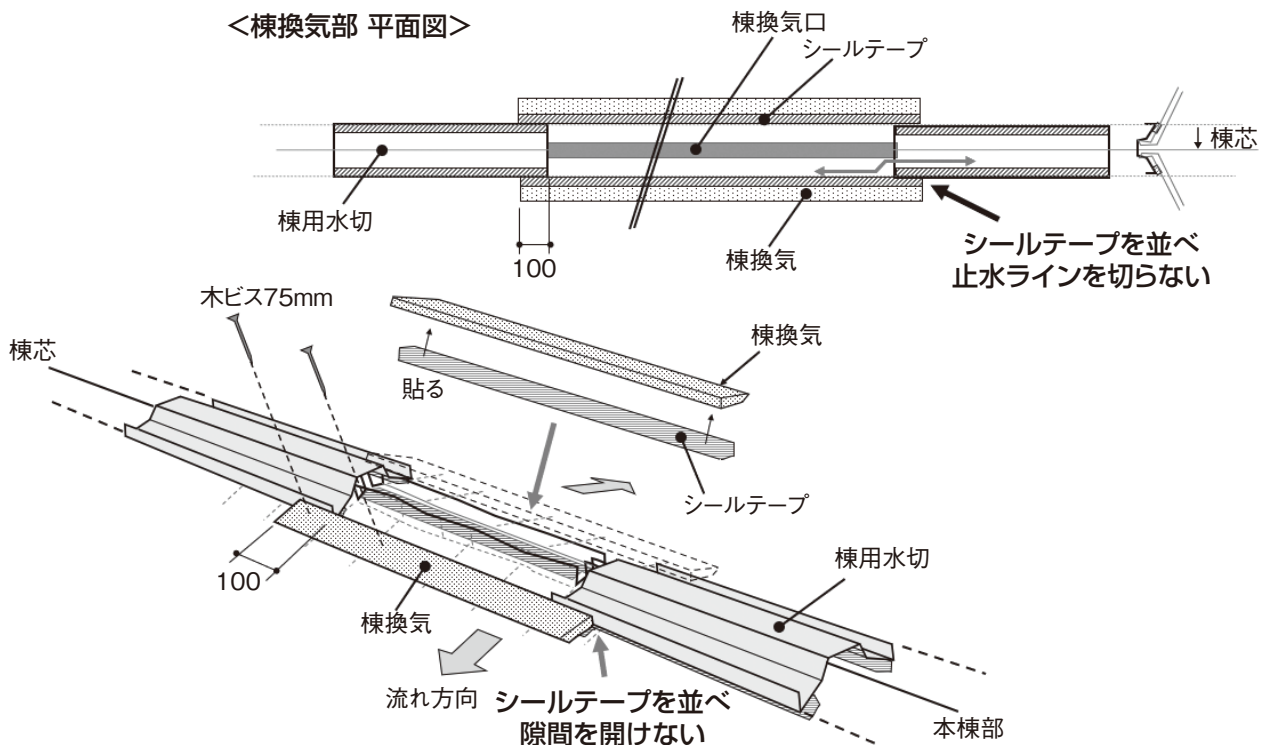


<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気部材の加工寸法=棟換気口の長さ+200mm
※棟換気部材 製品長さ:1820mm



<棟換気部 平面図>



▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

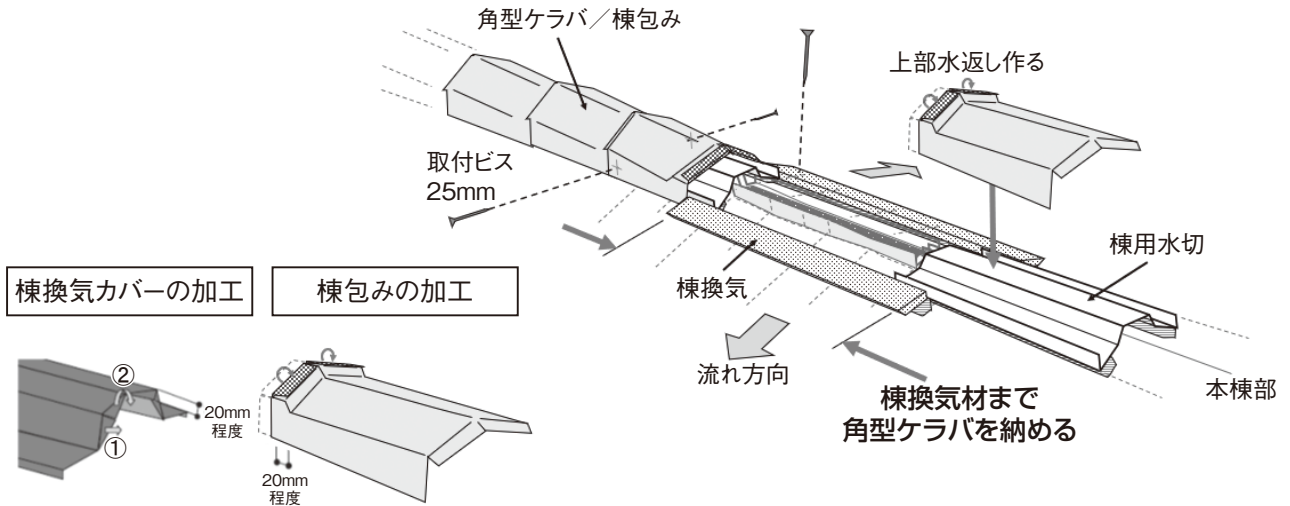
5

標準施工方法

5-12 棟換気部<角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>

■ 本棟部の納め

- ① 棟開口部が無い部分は通常通り納めてください。(詳細は32ページ参照)
- ② 棟換気カバーを棟包みに合わせて下図のように加工してください。

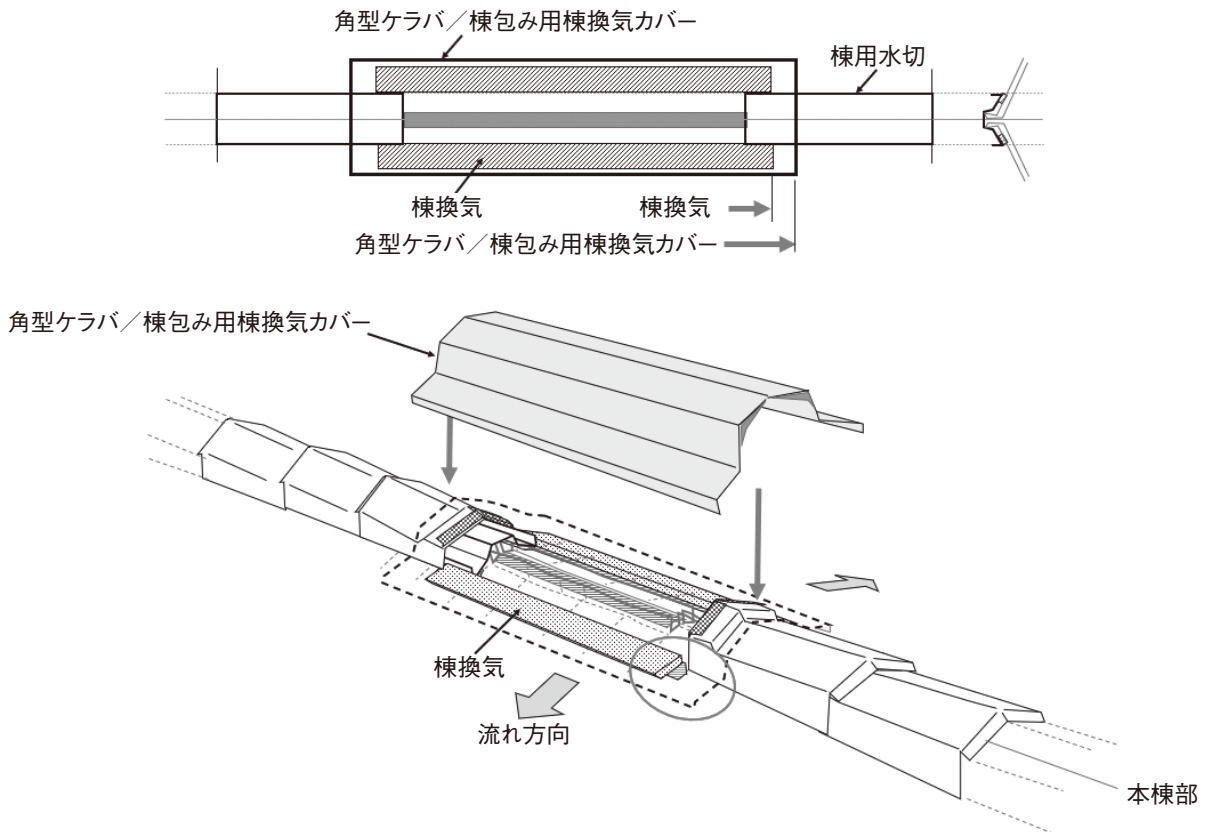


- ③ 角型ケラバ／棟包み用棟換気カバーで棟換気部材をカバーします。
棟換気材に対して180~200mm足した長さになるように棟換気カバーを金切ハサミでカットします。

<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

角型ケラバ／棟包み用棟換気カバーの加工寸法=棟換気長さ+(180~200mm)

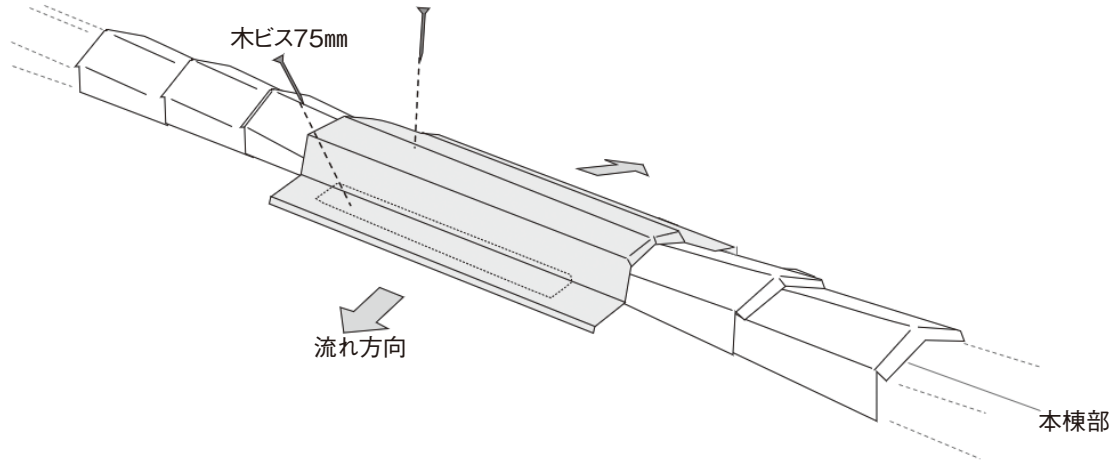
※角型ケラバ／棟包み用棟換気カバー 製品長さ:2000mm



5 標準施工方法

5-12 棟換気部<角型ケラバ／棟包み(棟用水切)仕様の場合>

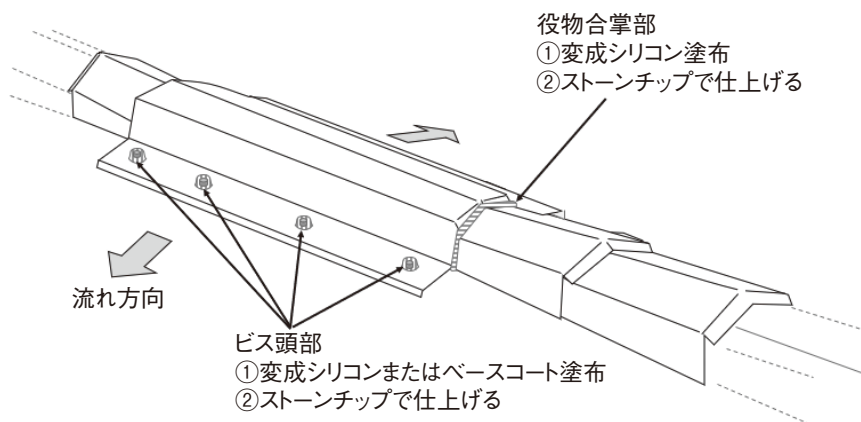
④棟換気カバーを木ビス75mm(360mm間隔程度)で取付けてください。



▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っても使用すると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

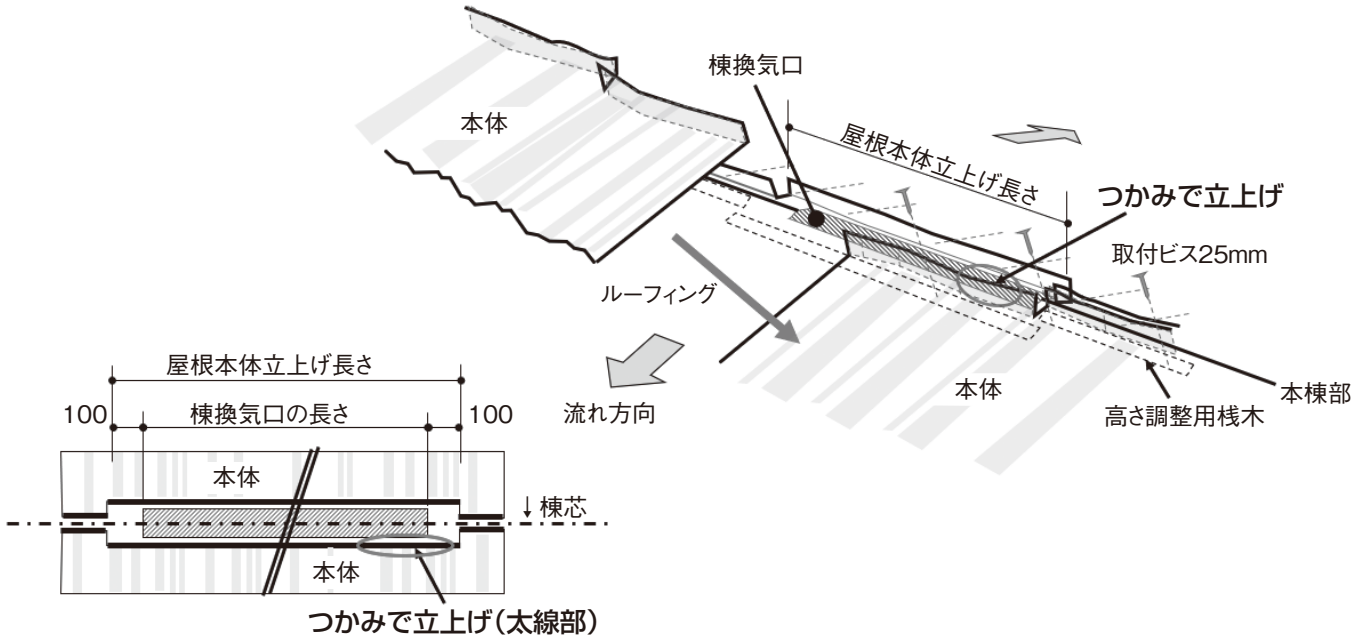
⑤棟換気カバーと棟包みの接合部はシーリング処理後、化粧処理してください。(脳天打ちしたビス頭も化粧処理してください)



5-12 棟換気部<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>

■ 本体の加工と取付

- ①棟換気開口部に面する屋根本体端部の谷部をつかみで山部と同じ高さを目安に立ち上げてください。
- ②加工後は、屋根本体を取付ビス25mm(360mm間隔程度)で高さ調整用の栈木を狙って取付けしてください。

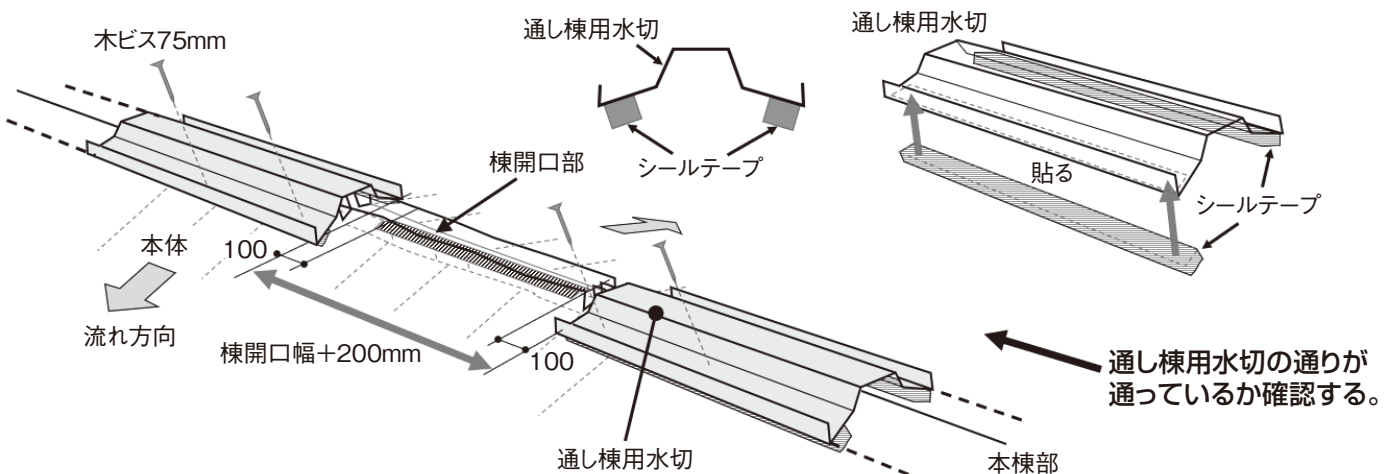


▲ 注意

- 棟換気部材を設置の際には、棟換気部材と平行する箇所の屋根本体水上端部を立ち上げてください。屋根本体を立ち上げないと、雨水が伝わって雨漏りにつながるおそれがあります。

■ 通し棟用水切の取付

- ①通し棟用水切の裏面にシールテープを貼ってください。
- ②棟開口部の両端部の手前100mmのところまで通し棟用水切を納めます。



5 標準施工方法

5-12 棟換気部<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>

■ 棟換気と棟換気カバーの取付

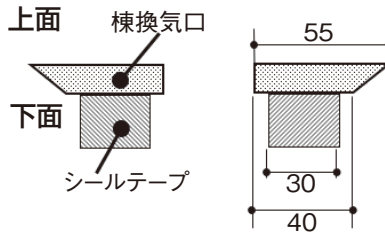
①棟換気の下面にシールテープを貼り、木ビス75mm(180mm間隔程度)で、換気カバーと位置を合わせて取付けてください。

※シールテープは隙間ができないように貼り、ねじれないように取付けてください。

※棟水切下のシールテープと棟換気下のシールテープの間に隙間ができないようにしてください。

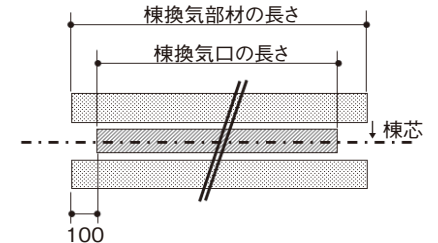
<シールテープ貼り位置 説明図>

棟換気部材の裏面(幅が40mmの面)の中心に合わせてシールテープを貼り付けてください。

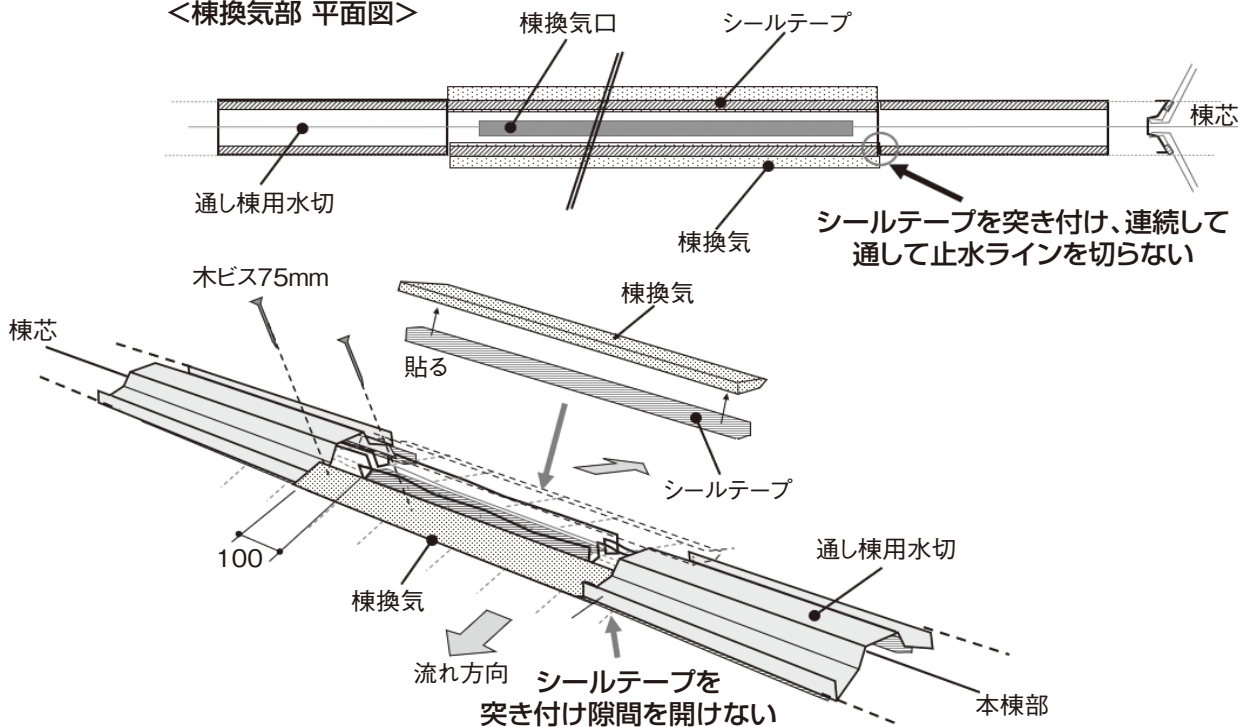


<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気部材の加工寸法=棟換気口の長さ+200mm
※棟換気部材 製品長さ:1820mm



<棟換気部 平面図>



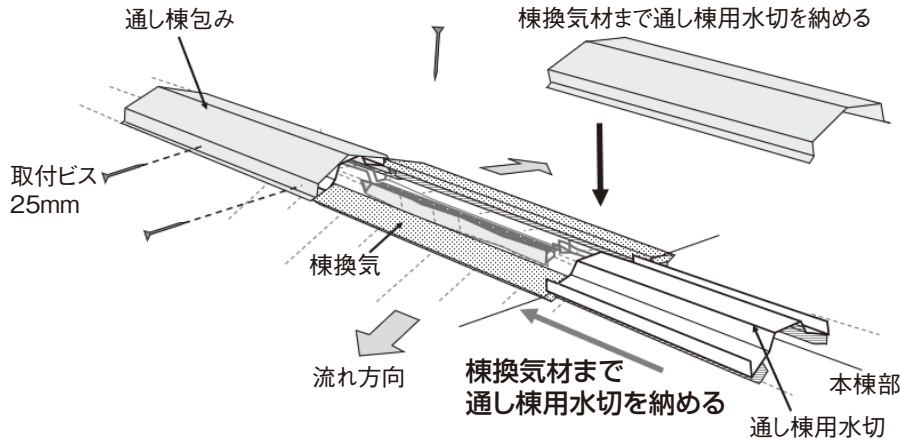
▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク: 1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違っていると屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

5-12 棟換気部<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>

■ 本棟部の納め

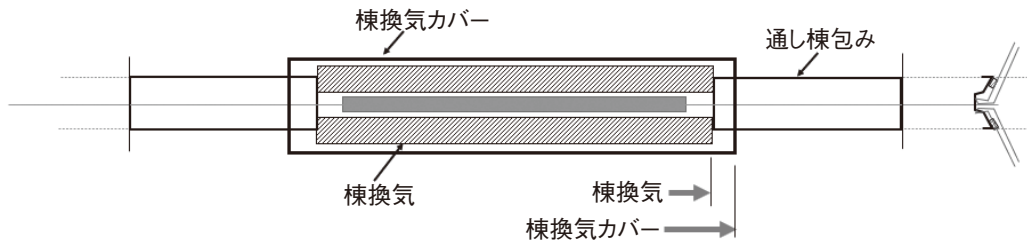
- ① 棟開口部が無い部分は、通常通り通し棟包みを納めてください。
- ② 棟換気材まで通し棟包み(通し棟用水切)を納めます。



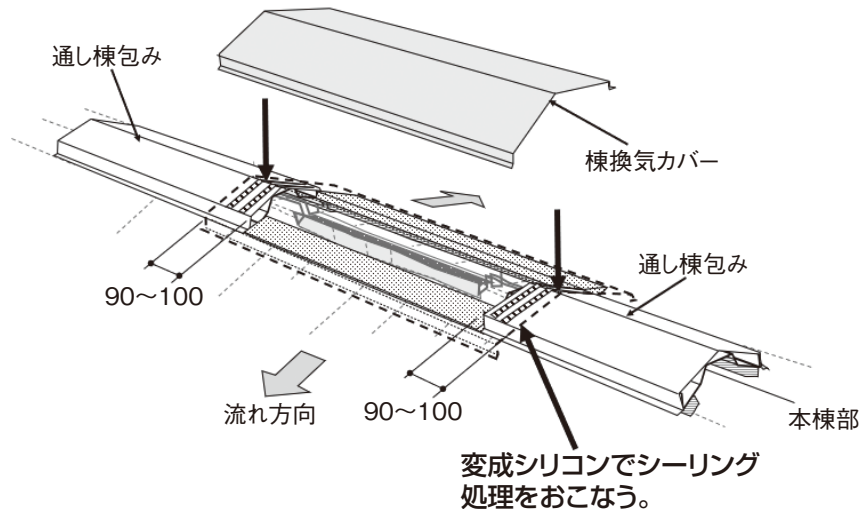
- ③ 棟換気カバーで棟換気部材をカバーします。
棟換気に対して180~200mm足した長さになるように棟換気カバーを金切ハサミでカットします。

<棟換気部材の長さ 説明図 平面図>

棟換気カバーの加工寸法=棟換気の長さ+(180~200mm)
※角型ケラバ/棟包み用棟換気カバー 製品長さ:2000mm



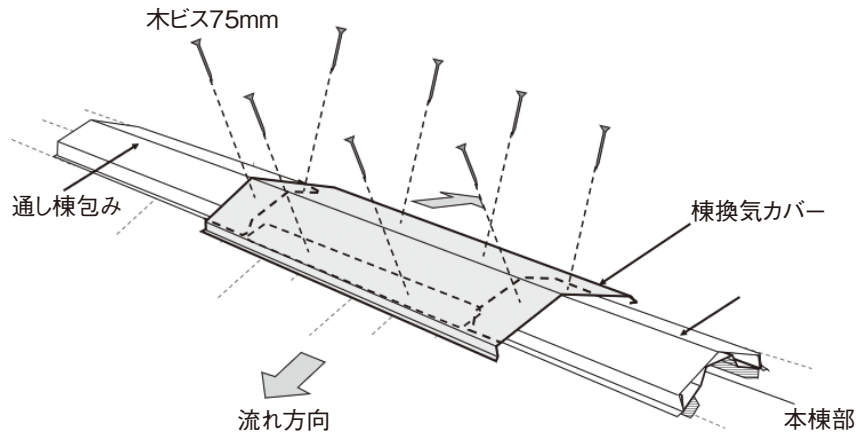
- ④ 重ね部には変成シリコンでシーリング処理をして棟換気カバーを棟換気上にかぶせてください。



5 標準施工方法

5-12 棟換気部<通し棟包み(通し棟用水切)仕様の場合>

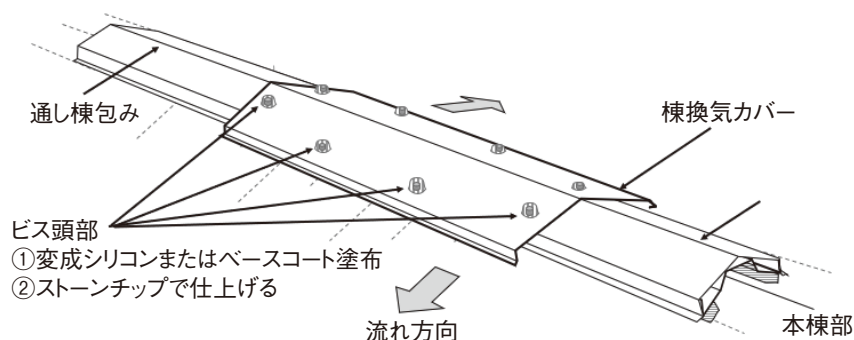
⑤木ビス75mm(現地調達品)で450mm間隔程度で取付けしてください。



▲ 注意

- 取付ビスを施工する際は、空回りさせないようにしてください。空回りさせると製品が強風時に飛散してしまうおそれがあります。(参考トルク：1.5N / m)
- 各部材の取付は当社指定の取付ビスをご使用ください。使用部位によってビス長さ、固定する間隔、本数を使い分けております。間違ってしまうと屋根材が飛散してしまうおそれがあります。
- 屋根本体及び各役物との合掌部は隙間がないように加工して納めてください。落ち葉などが詰り、雨漏りにつながるおそれがあります。

⑥棟換気カバーと通し棟包みに脳天からビス打ちしたビス頭には変成シリコンでシーリングして化粧処理をしてください。



5 標準施工方法

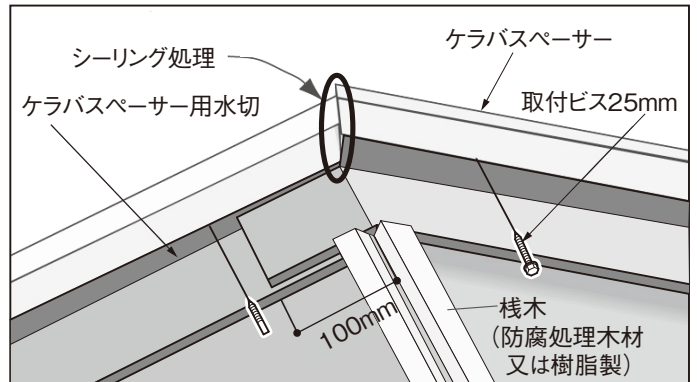
5-13 本棟とケラバの取合い部<角型ケラバ/棟包みを使用する場合>

■ ケラバスパーサー用水切の取付

- ①ケラバスパーサー用水切は棟芯部でどちらかが重なるようにし、一方を100mm以上重ねて折り曲げてください。

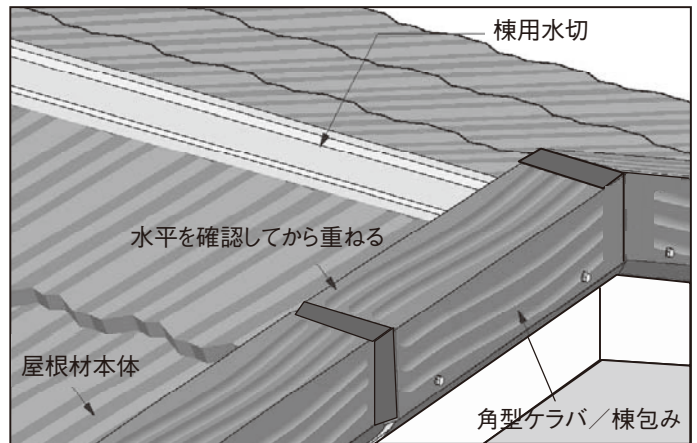
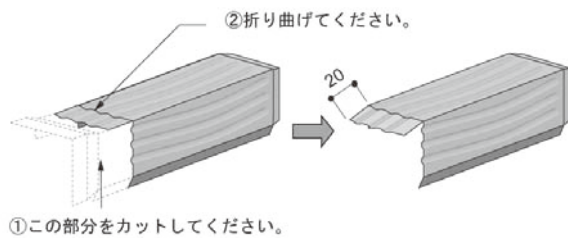
⚠ 注意

水切の接合部頂点付近は必ずシーリング処理してください。雨漏りの原因になります。



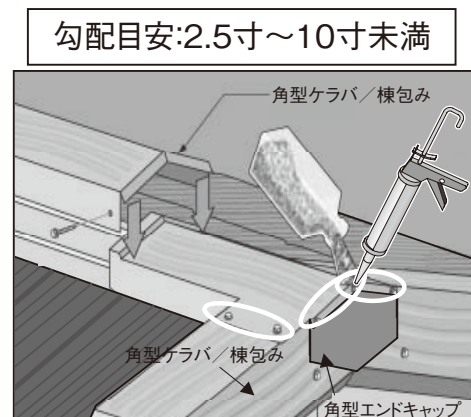
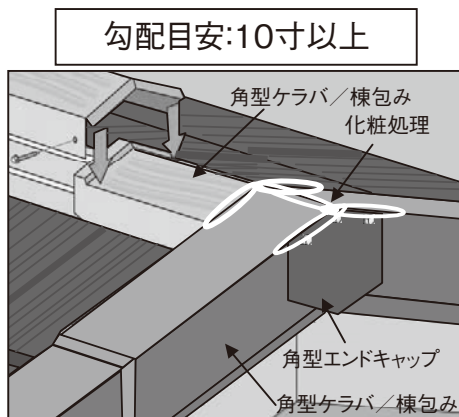
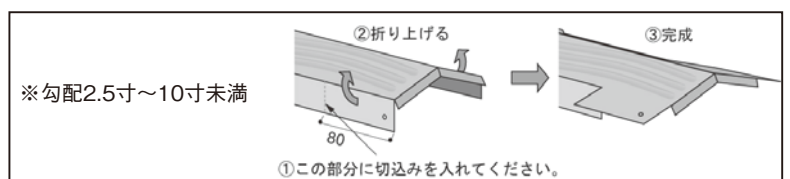
■ 角型ケラバ/棟包みの取付

- ①角型ケラバ/棟包み同士の取合いは一方をもう一方に覆い被せてビス留めしてください。



■ 角型ケラバ/棟包みの取合い

- ①角型ケラバ/棟包みをケラバ役物をまたがるように切り込みを入れて加工してください。
- ②ケラバ合掌部に角型エンドキャップを取付ビス25mmで取付けしてください。
- ③重なり部は変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。



※本棟部の巴は勾配によって納まりが変わります。

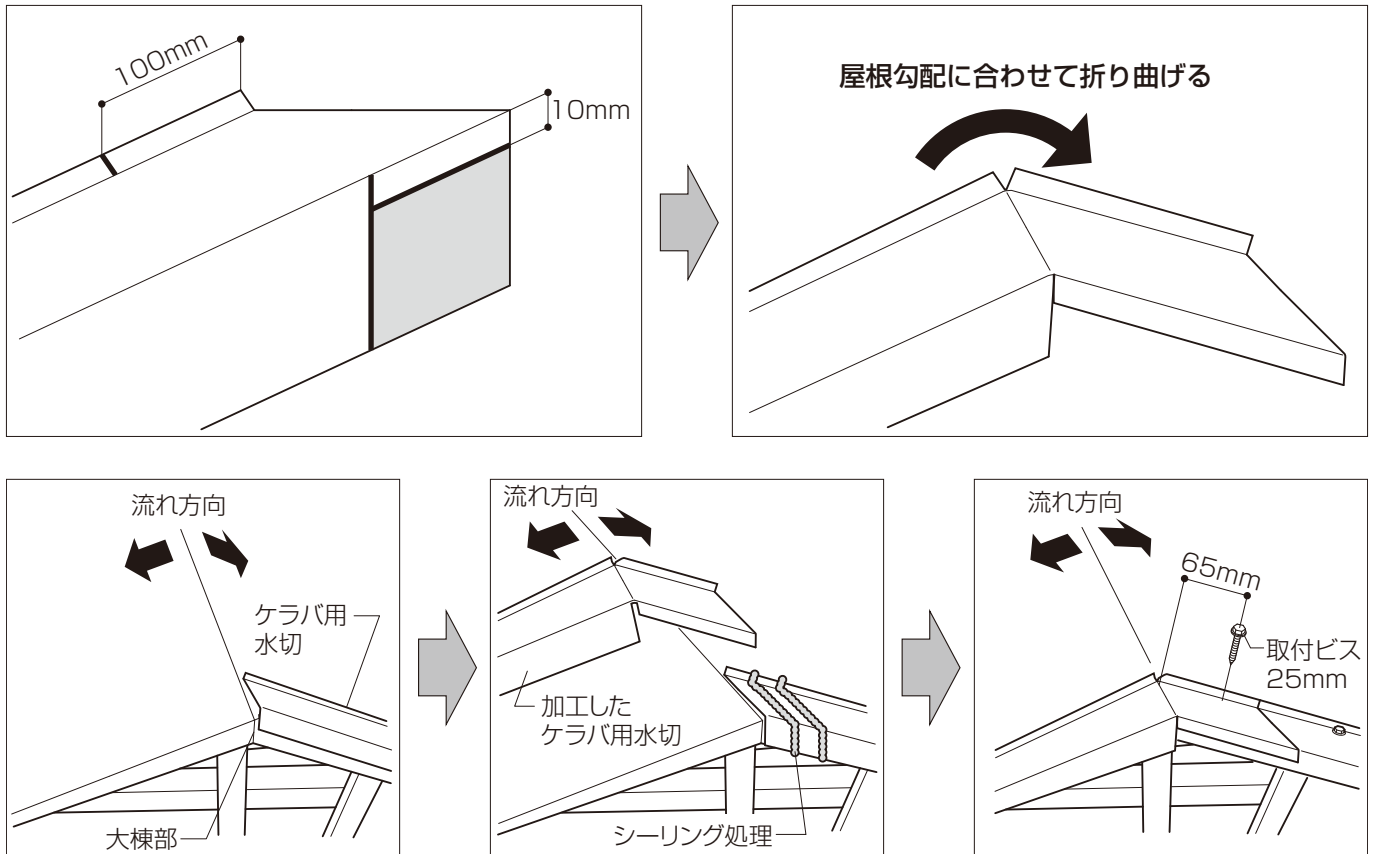
5 標準施工方法

5-14 本棟とケラバの取合い部<通しケラバ包み/片流れ用棟包みを使用する場合>

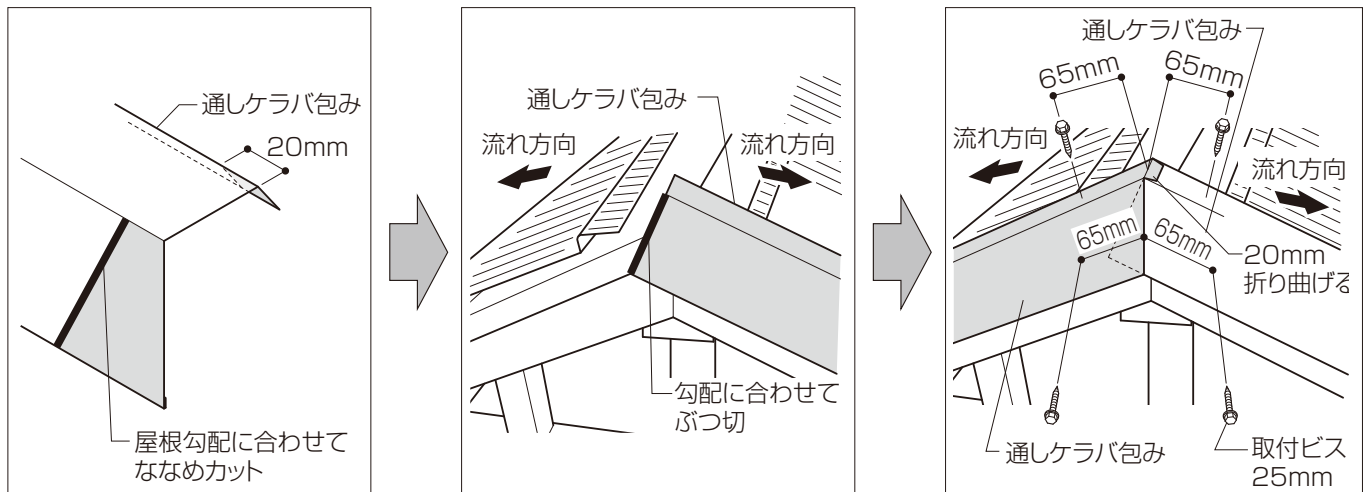
■ ケラバ用水切の取付

片側のケラバ用水切を大棟部まで設置して変成シリコンでシーリング処理をしてください。

もう一方のケラバ用水切は反対側に100mm重なり代が確保できる様に加工して大棟部から65mmの位置に取付ビス25mmで固定してください。



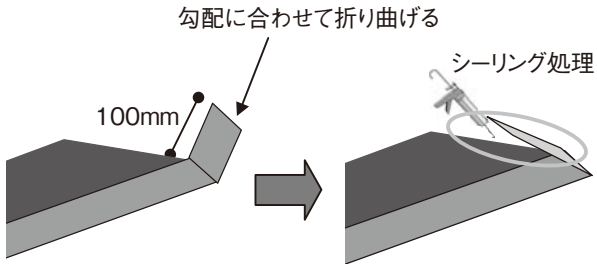
■ 通しケラバ包み / 片流れ用棟包みの取付



5-15 棟違い部

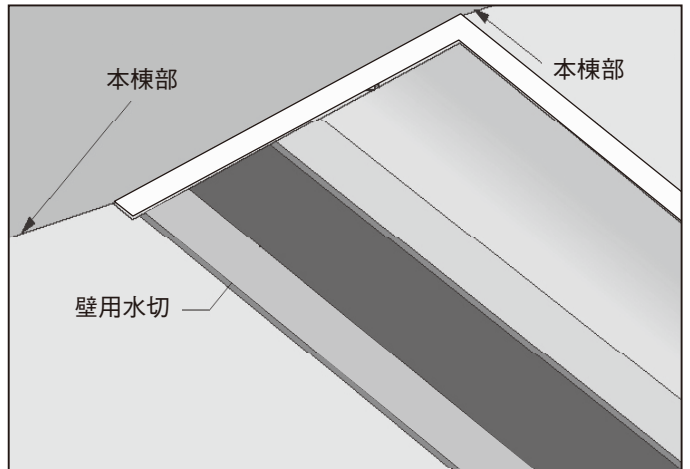
■ 壁用水切の加工と取付

①壁用水切を下図のように加工してください。



②加工後、取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

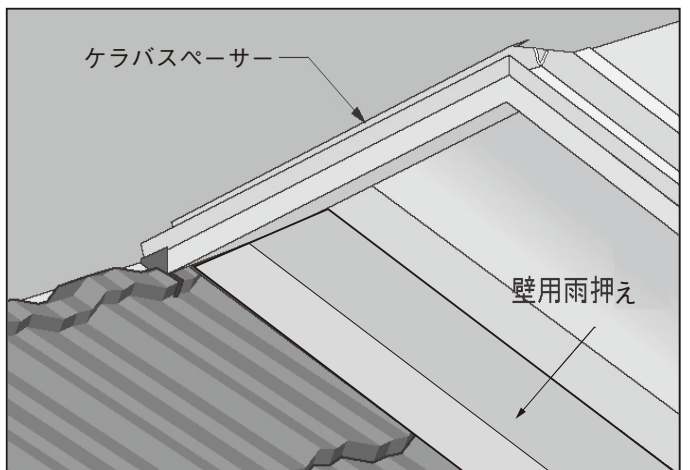
③壁用水切のジョイント部はシーリング処理をして100mm以上重ねてください。



■ 壁用雨押えの加工と取付

①壁用雨押えは軒裏面へ折り曲げてから取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

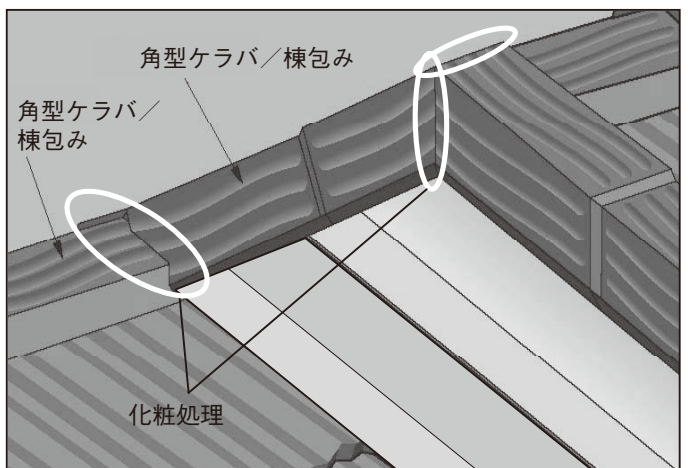
②壁用雨押えのジョイント部は100mm以上重ねてください。



■ 棟違いケラバ部の納め

①本棟部、ケラバ部の取合いに合わせて角型ケラバ／棟包みを加工してください。

②加工後、取付ビス25mmで取付けして、接合部に変成シリコンと補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。



5 標準施工方法

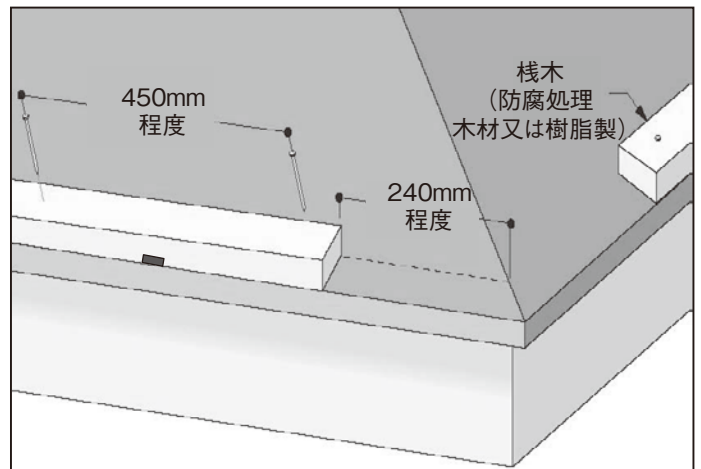
5-16 隅棟部<隅棟用水切Mを使用する場合>

■ 棧木の取付

① 棧木(防腐処理木材又は樹脂製)は隅棟芯より240mm程度離れた位置から軒先に沿って木ビス38mm(450mm間隔程度)で取付けてください。

※ 棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください)

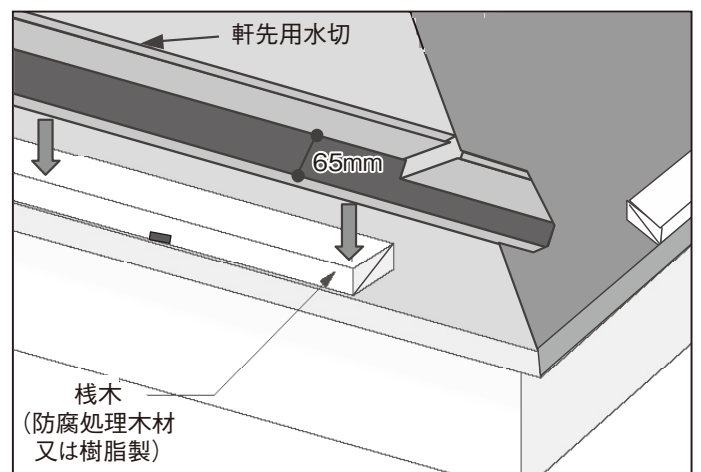
※ カバー工法の場合で、軒先改修用水切を使用する場合は隅棟芯より270mm程度離れた位置で取付けてください。



■ 軒先用水切の加工

① 軒先用水切を加工してください。

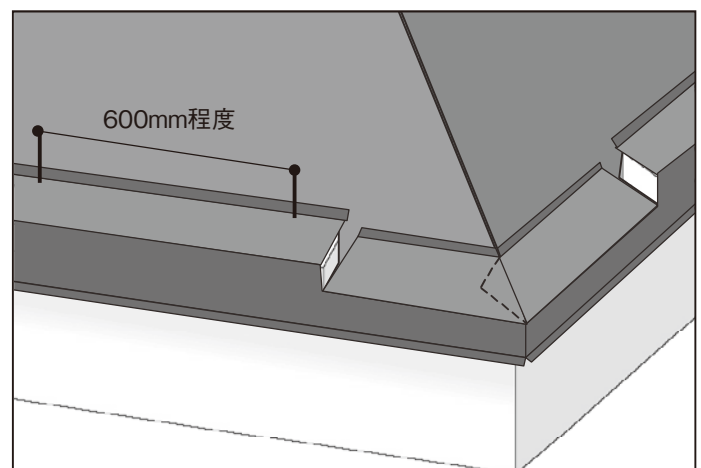
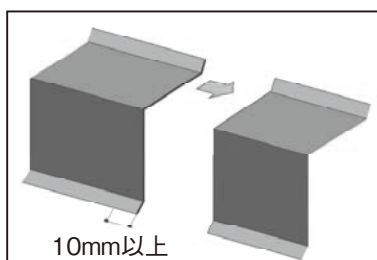
※ 棧木寸法に合わせて、加工してください。



■ 軒先用水切の取付

① 軒先用水切を加工して、棧木に対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

② 軒先用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。



5

標準施工方法

5-16 隅棟部<隅棟用水切Mを使用する場合>

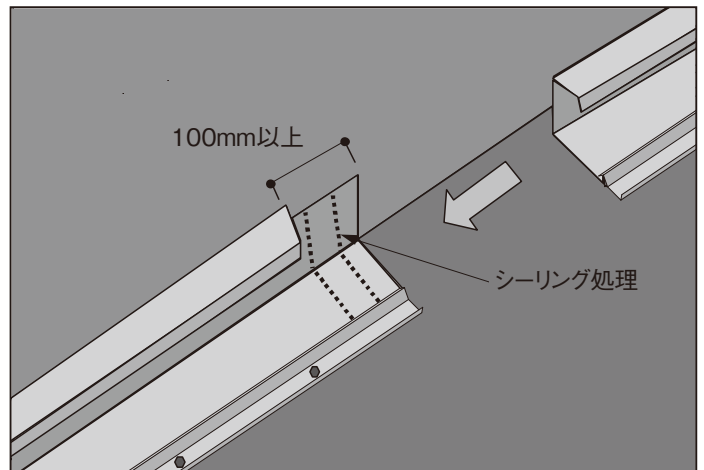
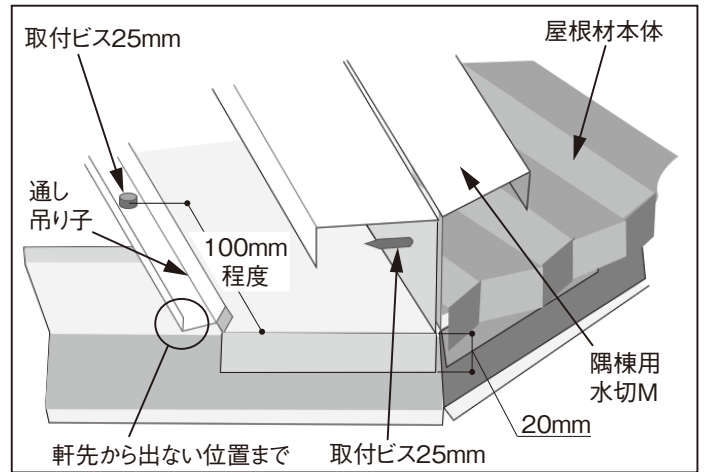
■ 隅棟用水切Mの取付

- ① 隅棟用水切Mの先端を20mm程度折り曲げてください。
- ② 隅棟用水切りMを通し吊り子で取付けます。隅棟用水切りMに通し吊り子を取付けてください。通し吊り子の端部から100mmの位置に取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。さらにビス留めの箇所を中心に100mm程度しっかり通し吊り子をつかんでください。また、隅棟用水切M同士も取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

⚠ 注意

水切平部には、絶対ビス留めしないでください。雨漏りの原因になります。

- ③ 通し吊り子と隅棟用水切Mはジョイント部の下側になる水切上部を切断加工して100mm以上重ねて必ずシーリング処理をしてください。
- ④ 本体を取付けしてください。

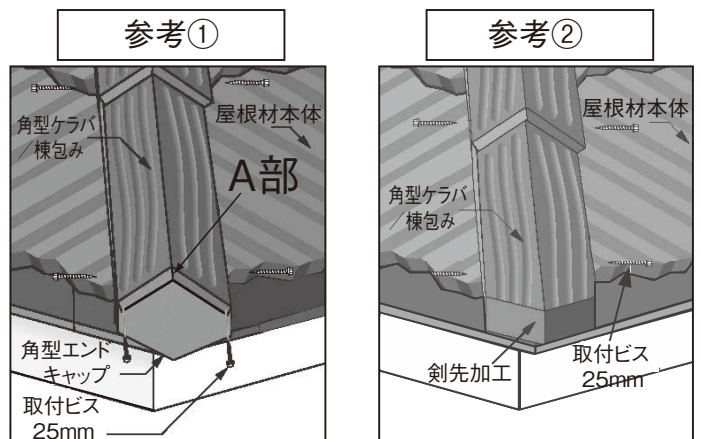


■ 角型ケラバ／棟包みの加工と取付

【参考①】参考①のA部にハサミで切り込みを入れてから、取付ビス25mmで2点固定してください。

【参考②】角型ケラバ／棟包みを剣先加工してください。

※参考②の剣先加工した棟包みは補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。



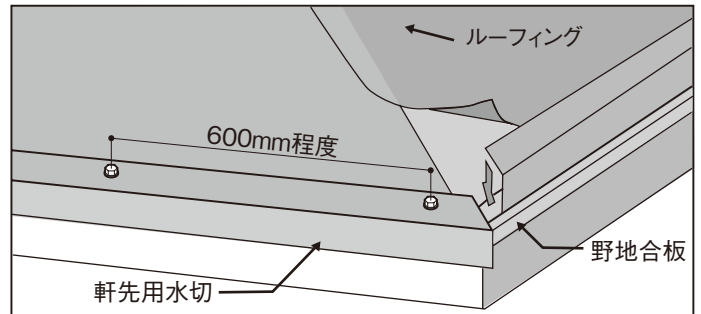
5

標準施工方法

5-16 隅棟部<棟用水切を使用する場合>

■ 軒先用水切の取付

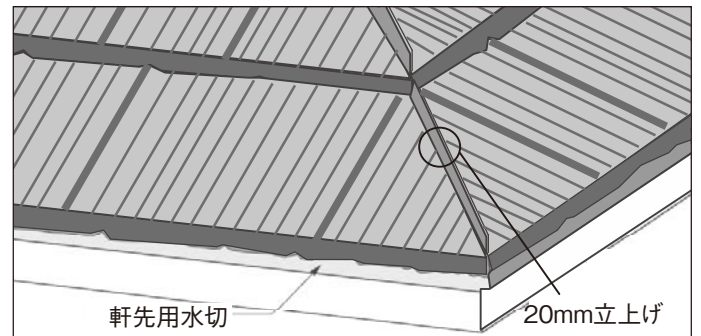
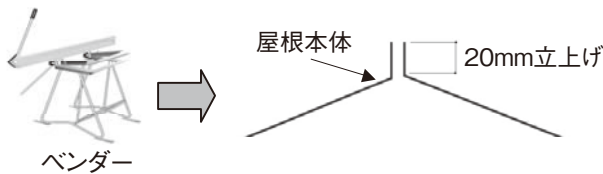
- ①軒先用水切の上面を隅棟芯に合わせてカットして取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。



■ 本体の取付

- ①本体を隅棟芯に合わせて端部を20mm立ち上げてください。

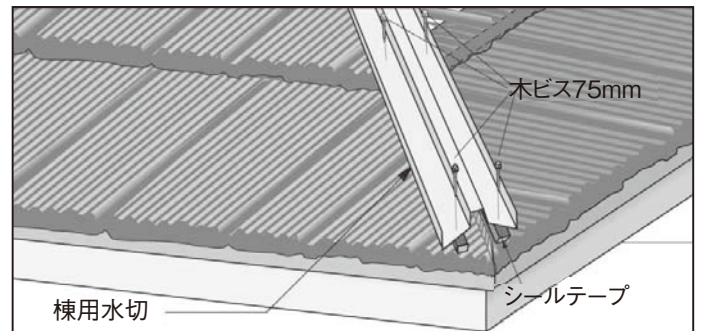
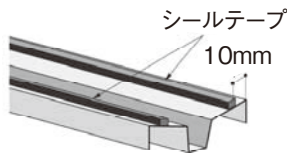
※本体の立ち上げはベンダーを使用すると便利です。



■ 棟用水切の取付

- ①棟用水切の裏面にシールテープを貼ってください。
- ②棟用水切を本体に対して木ビス75mm(420mm間隔程度)で取付けてください。ジョイント部は100mm以上重ねてください。

※シールテープは棟用水切裏面の端部より10mm程度離して、貼ってください。



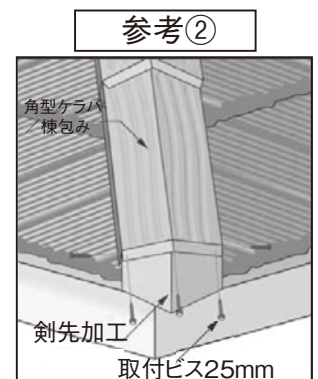
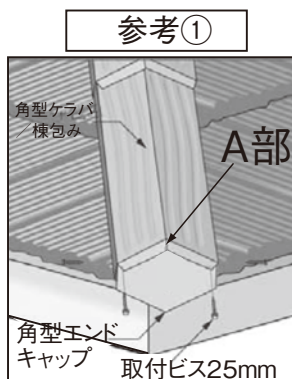
※屋根勾配が急勾配(10寸勾配以上)の場合は本マニュアルの32ページを参照の上、取付けしてください。

■ 角型ケラバ／棟包みの加工と取付

【参考①】参考①のA部にハサミで切り込みを入れてから、取付ビス25mmで2点固定してください。

【参考②】角型ケラバ／棟包みを剣先加工してください。

※参考②の剣先加工した棟包みは補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。



5 標準施工方法

5-17 三つ又部<隅棟に隅棟用水切Mを使用する場合>

■ 隅棟用水切Mの加工と取付

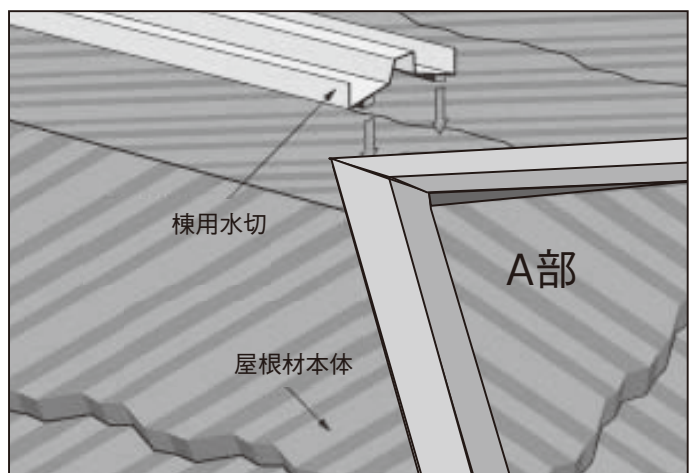
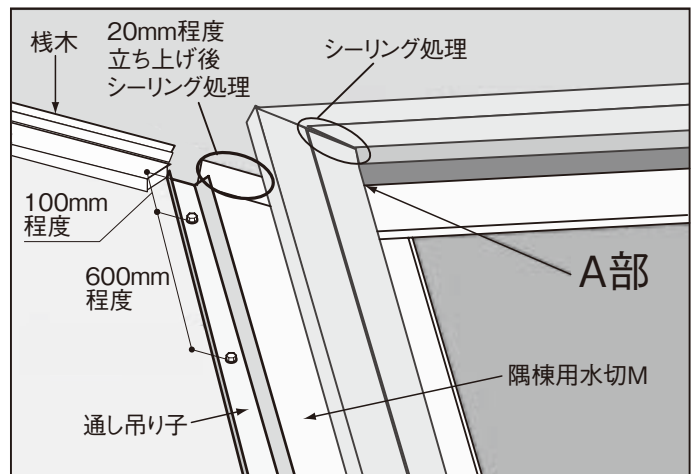
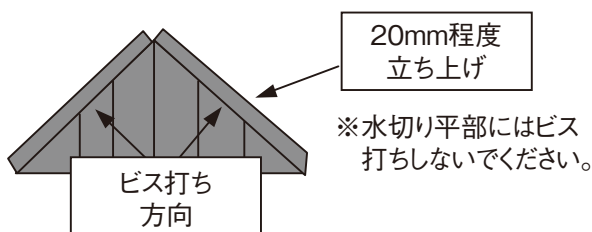
- 隅棟用水切Mの先端を20mm程度立ち上げてください。
※立ち上げた部分の接合部はシーリング処理かはず折り加工をしてください。
- 隅棟用水切りMを通し吊り子で取付けます。隅棟用水切りMに通し吊り子を取付けてください。通し吊り子の端部から100mmの位置に取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。さらにビス留めの箇所を中心に100mm程度しっかり通し吊り子をつかんでください。また、隅棟用水切M同士も取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

⚠ 注意

A部から見た立ち上がり部分には隙間が出来るので必ずシーリング処理をしてください。雨漏りの原因になります。

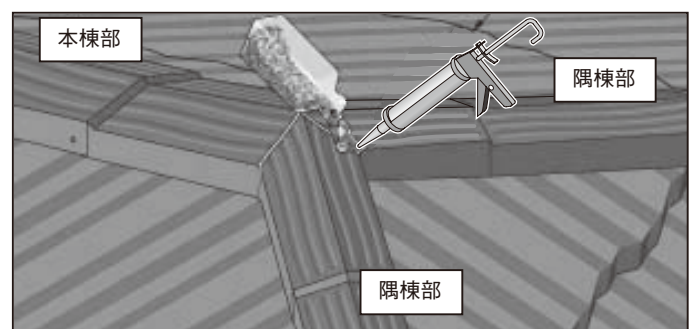
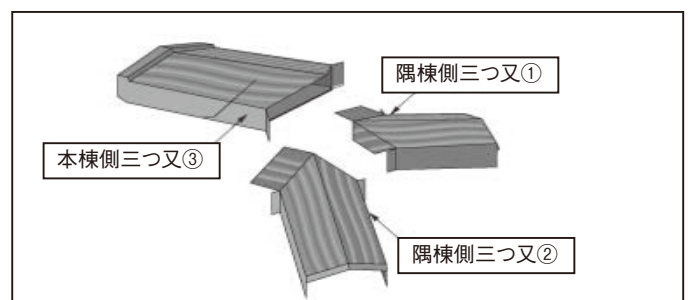
■ 本体と棟用水切の取付

- 本体を棟部まで取付けてください。
※A部の本体両端部を立ち上げて隅棟水切Mの立ち上がり部に対してビスを留めてください。



■ 角型ケラバ／棟包みの加工と取付

- 角型ケラバ／棟包みを三つ又加工してください。
- 加工後、取付ビスで取付けしてください。
※取付後、変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で接合部を化粧処理してください。
※屋根勾配によって棟同士の高さが合わない場合がありますので状況に応じて意匠が変わることもあります。



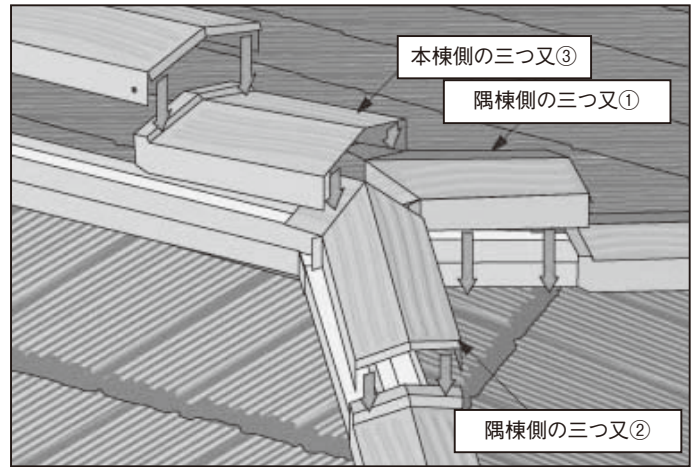
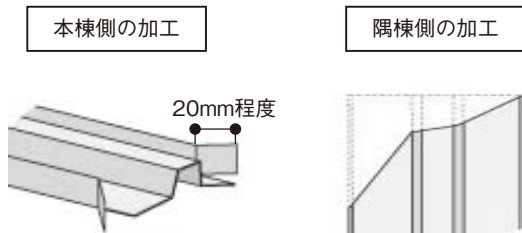
5

標準施工方法

5-17 三つ又部<隅棟に棟用水切を使用する場合>

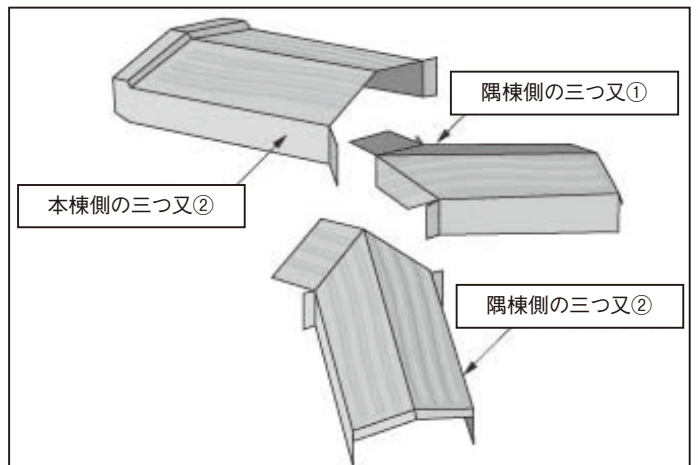
■ 棟用水切と角型ケラバ／棟包みの取付

- ① 棟用水切を三つ又部に合わせて加工して木ビス75mm(315mm間隔程度)で取付けしてください。



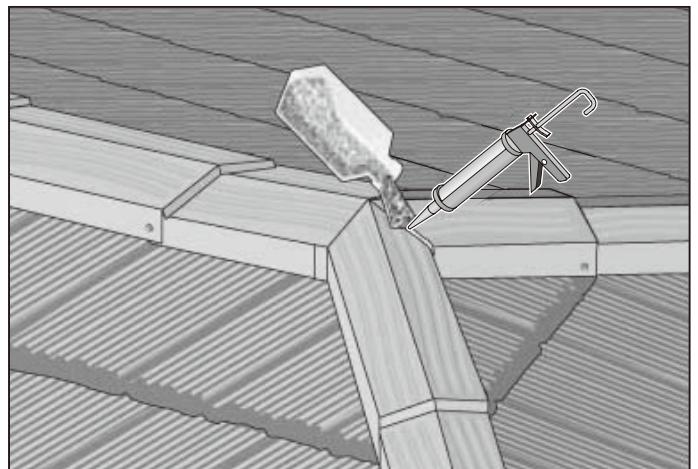
■ 角型ケラバ／棟包みの加工

- ① 角型ケラバ／棟包みを右図を参考にして加工してください。



■ 角型ケラバ／棟包みの取付

- ① 角型ケラバ／棟包みを取付ビス25mmで取付けして切り合わせ部を変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。

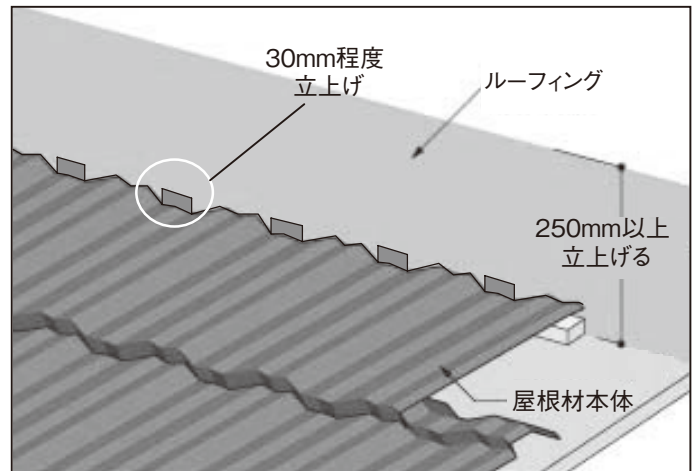


5 標準施工方法

5-18 壁取合い部<桁方向>

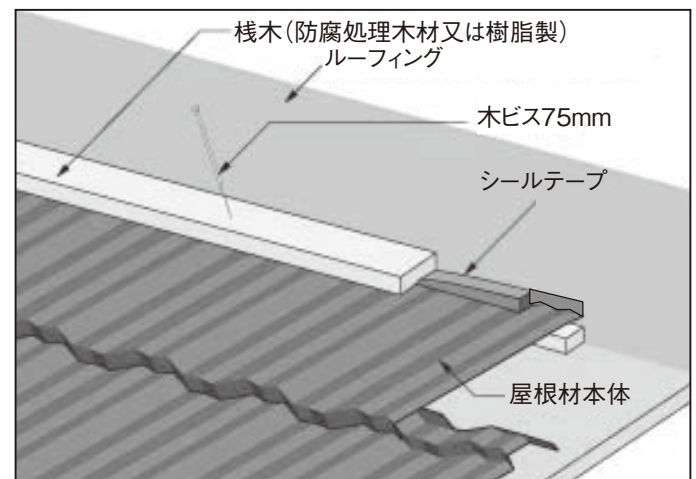
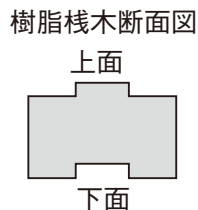
■ 壁部<桁方向>の下葺材・本体取付

- ①ルーフィングを壁面に250mm以上立ち上げてください。
※住宅仕様、地域により立ち上げ寸法が変更となる場合があります。
- ②本体を取付ビス25mmで取付けてください。
※割付条件によって、壁際の本体下に高さ調整の棧木を取付けてください。
※屋根本体端部谷部をつかみで山部と同じ高さを目安に立ち上げてください。



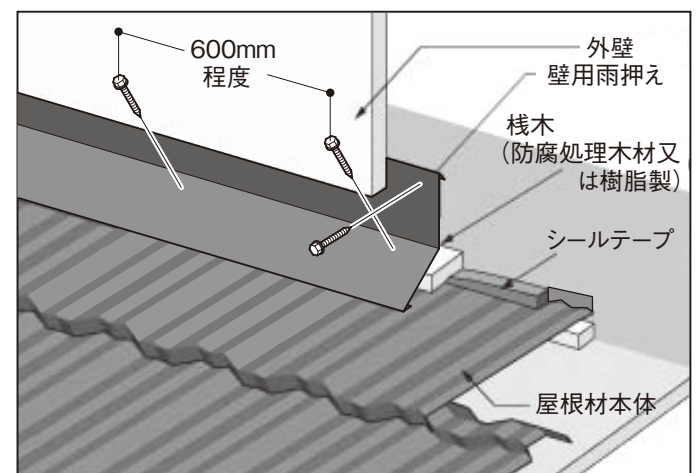
■ 棧木(防腐処理木材又は樹脂製)の取付

- ①棧木の下面にシールテープを貼り付け、本体に対して木ビス75mm(180mm間隔程度)で、高さ調整用の棧木に向かって取付けてください。
※木下地の取付時にシールテープがねじれないように注意してください。



■ 壁用雨押えの取付

- ①壁用雨押えを壁下地と棧木に対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けしてください。
- ②壁用雨押えのジョイントは100mm以上重ねてください。



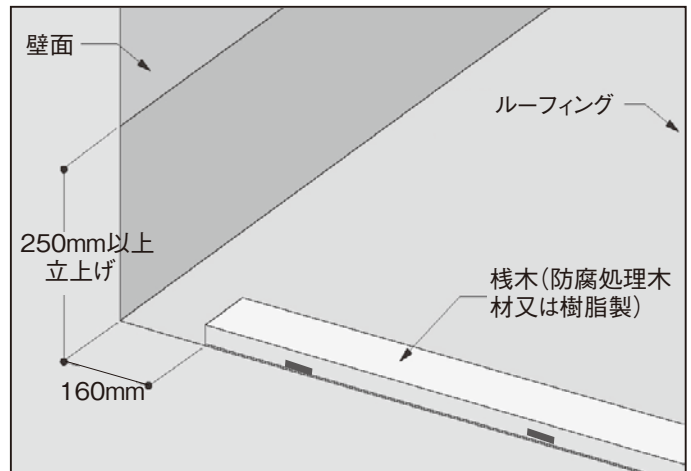
5 標準施工方法

5-19 壁取合い部<流れ方向>

■ 棧木の取付

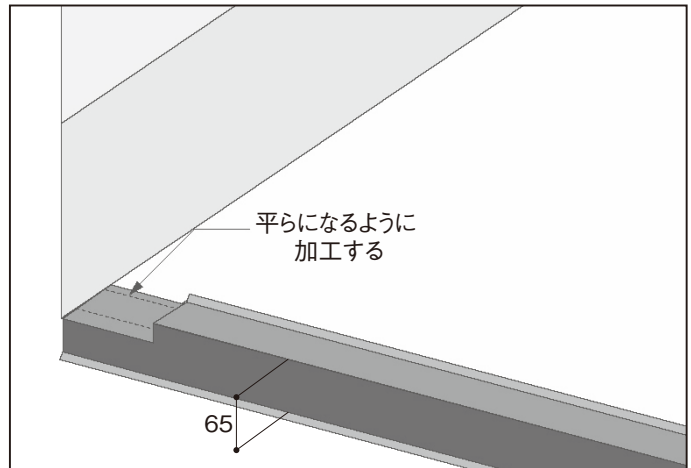
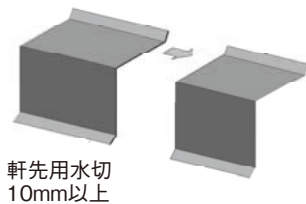
- ①壁面の160mm離れた位置から高さ調整の棧木(防腐処理木材又は樹脂製)を木ビス38mm(450mm間隔程度)で取付けてください。

※棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください)



■ 軒先用水切の取付

- ①軒先用水切を棧木の高さに合うように加工して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②軒先用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。

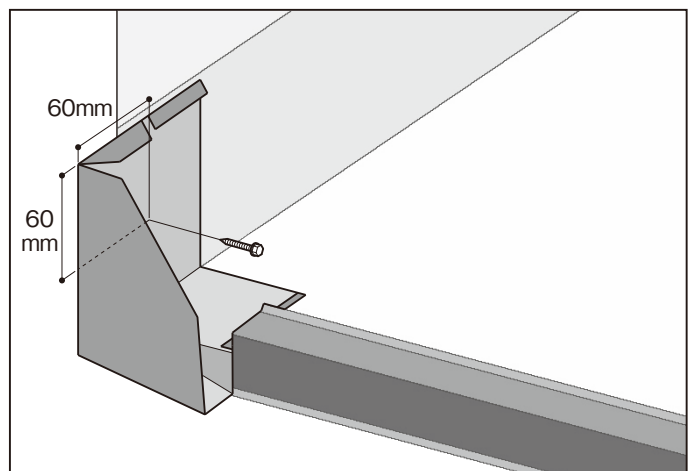
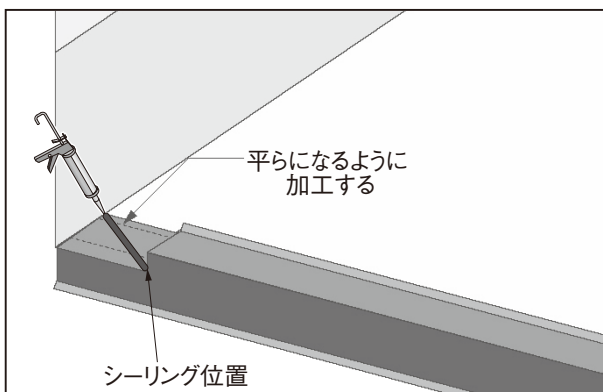


■ 壁止まりの取付

- ①壁止まりは壁側に軒先から60mm、上から60mmの位置を木ビス38mmで取付けてください。

※ビス頭がフラットなビスで取付けしてください。

※軒先用水切と壁止まりの間にシーリングを打つ場合は、下図の位置に打ってください。



5

標準施工方法

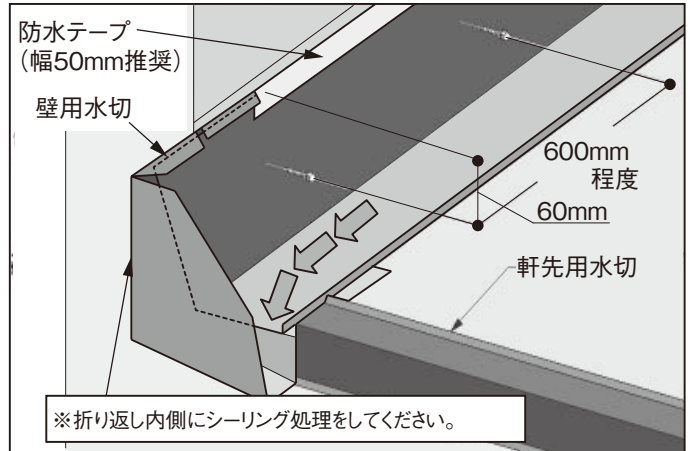
5-19 壁取合い部<流れ方向>

■ 壁用水切の取付

①壁用水切を軒先から軒先に合わせて取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

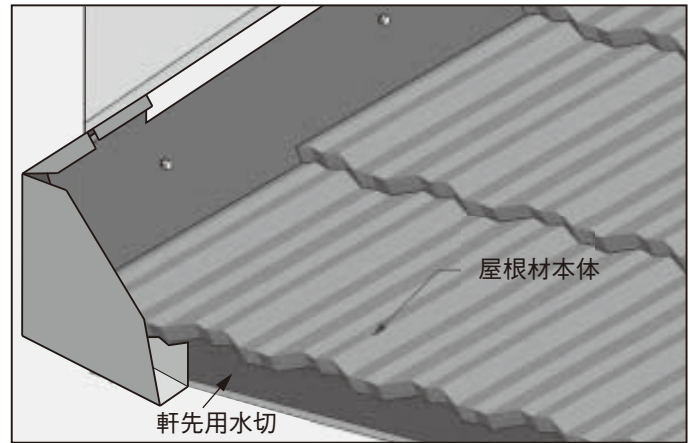
②壁用水切のジョイント部はシーリング処理をして100mm以上重ねてください。

※カバー工法で既存壁への取付けの場合は必ず防水テープを貼ってください。



■ 本体の取付

①本体は壁用水切の立ち上がり部に接するようにして納めてください。



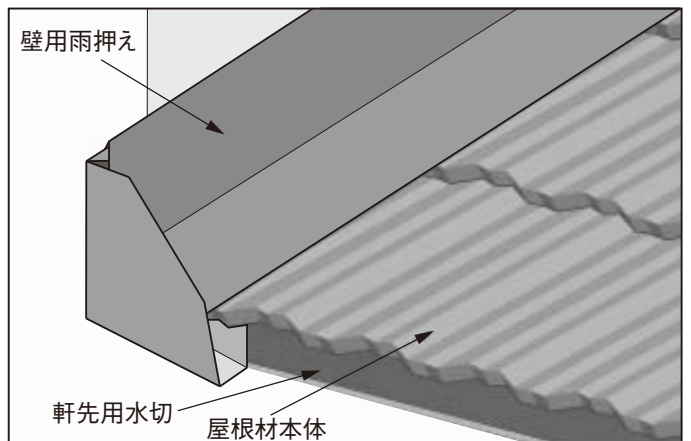
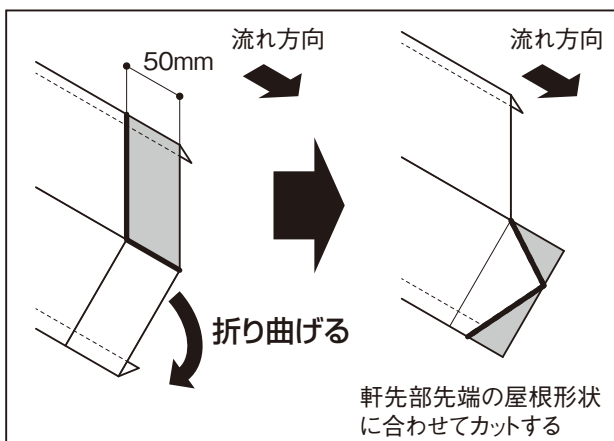
■ 壁用雨押えの取付

①壁用雨押えの先端部を加工してください。

②壁用雨押えを壁下地に対して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

③壁用雨押えのジョイント部は100mm以上重ねてください。

壁用雨押え先端の加工

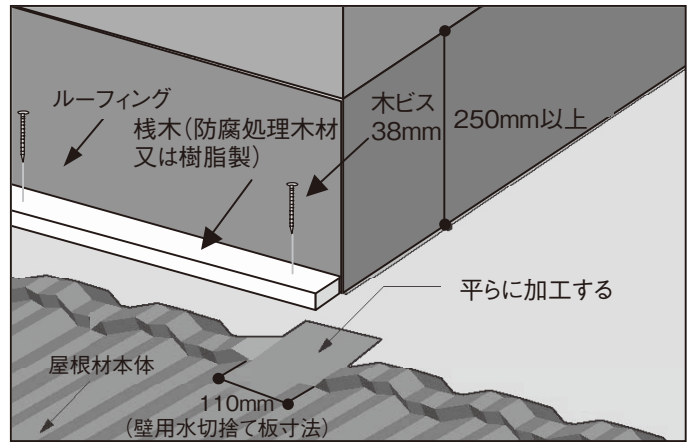


5 標準施工方法

5-20 壁取合い部<出隅部>

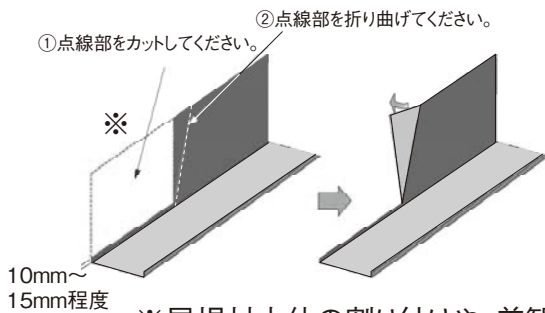
■ 本体の加工と取付

- ①壁用水切の下段になる本体は切込みを入れて平らに加工してください。
- ②加工後、本体を取付ビスで取付けてください。
- ③壁桁部に沿って高さ調整の棧木(防腐処理木材又は樹脂製)を木ビス38mm(450mm間隔程度)で取付けてください。

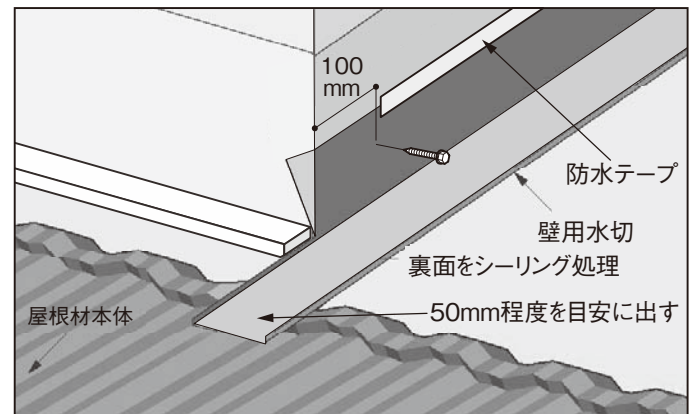


■ 壁用水切の加工

- ①壁用水切を下図のように加工してください。



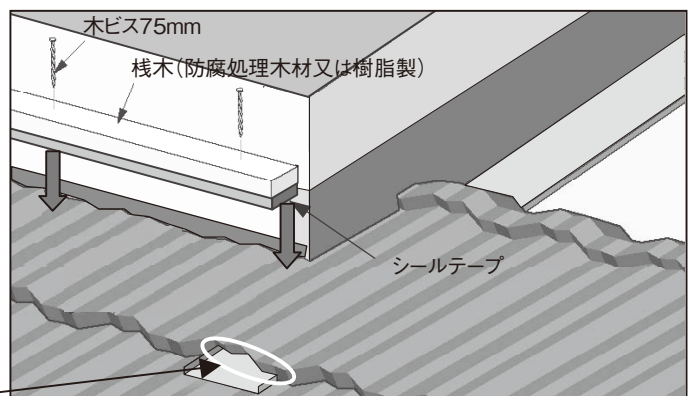
※屋根材本体の割り付けや、美観を考慮して納めてください。



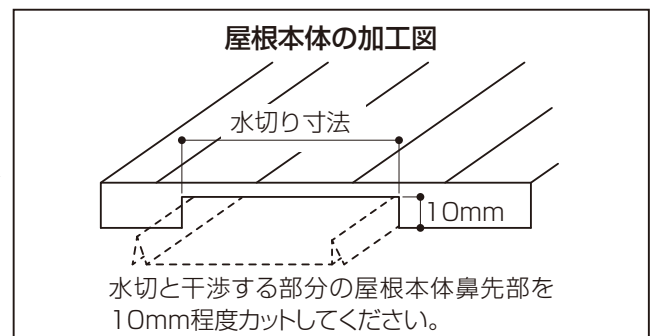
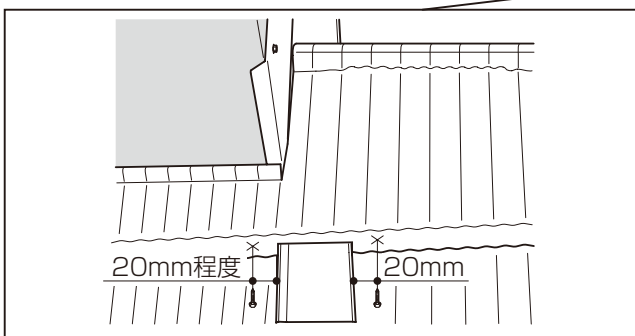
- ②壁用水切の裏面にシーリング処理して取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。
- ②カバー工法で既存壁への取付けの場合は必ず防水テープを貼ってください。

■ 棧木(防腐処理木材又は樹脂製)の取付

- ①棧木(防腐処理木材又は樹脂製)の裏面にシールテープを貼ってください。
 - ②本体に対して棧木を木ビス75mm(360mm程度)間隔で取付けてください。
- ※シールテープは隙間ができないように貼り、ねじれないように取付けてください。



本体鼻先部に切り込みをいれる



5-20 壁取合い部<出隅部>

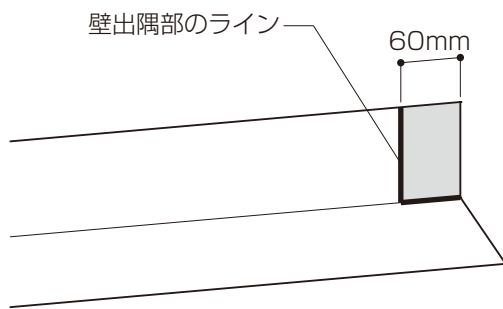
■ 壁用雨押えの取付

①壁桁部と壁流れ部のそれぞれの壁用雨押えを屋根勾配に応じて先端を加工してください。

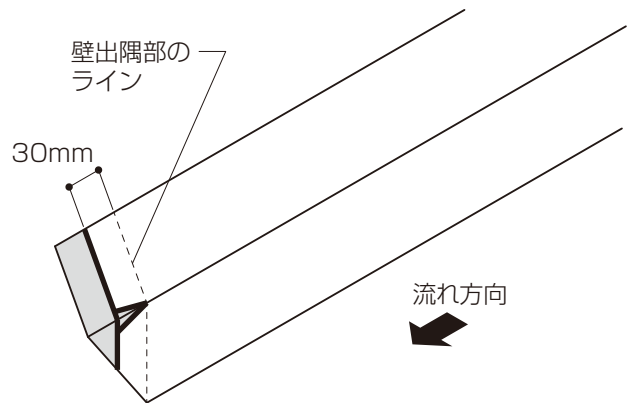
※加工方法はあくまでも参考です。

屋根本体の歩留まりによって雨押え同士の高さに差が出ますので状況に応じて加工方法を変更して納めてください。

【壁桁部の壁用雨押えの加工図A】

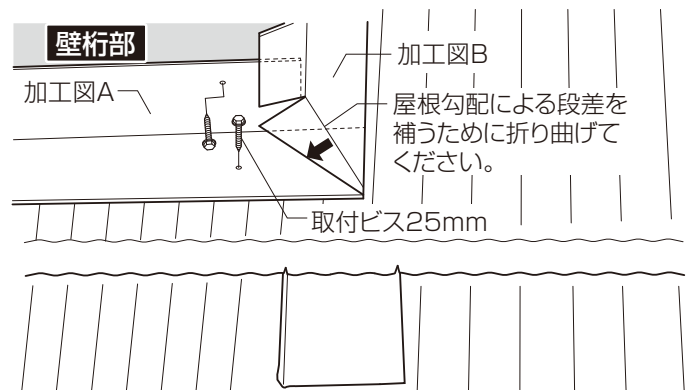


【壁流れ部の壁用雨押えの加工図B】



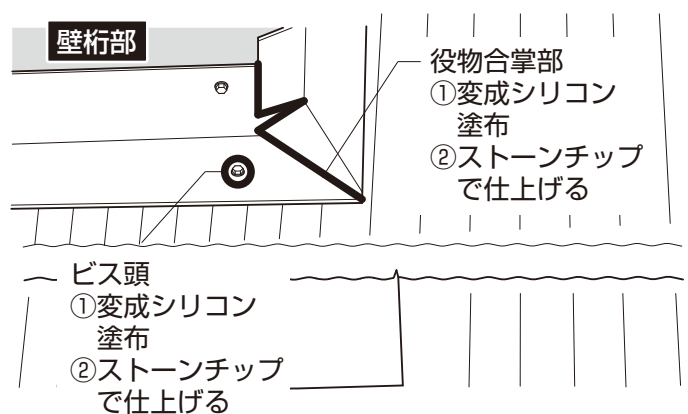
②加工した壁用雨押えを取付ビス25mmで取付けてください。

※壁用雨押えの取付は壁桁部は50ページ、壁流れ部は52ページを参照



■ 化粧処理

壁用雨押え同士の合掌部と壁用雨押えを脳天から打ったビス頭を变成シリコンと補修キット(ストーンチップ)で化粧処理をしてください。



5

標準施工方法

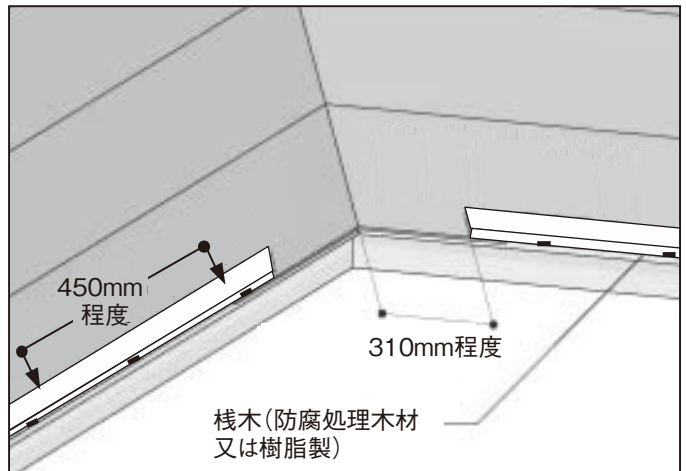
5-21 谷部

■ 棧木(防腐処理木材又は樹脂製)の取付

- ① 棧木を木ビス38mm(450mm間隔程度)で取付けしてください。

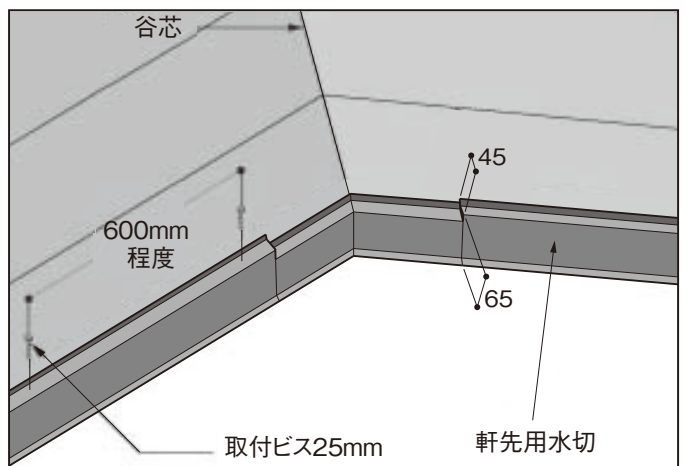
※ 棧木は水抜き溝加工されたものを使用してください。(寸法は屋根の状況に合わせて調整してください)

※ カバー工法の場合で、軒先改修用水切を使用する場合は谷芯より340mm程度離れた位置で取付けてください。

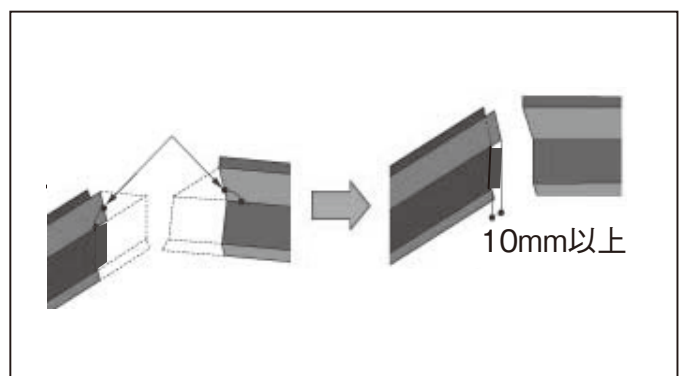


■ 軒先用水切の加工と取付

- ① 軒先用水切を谷部に合わせて加工してください。
- ② 軒先用水切を取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けしてください。



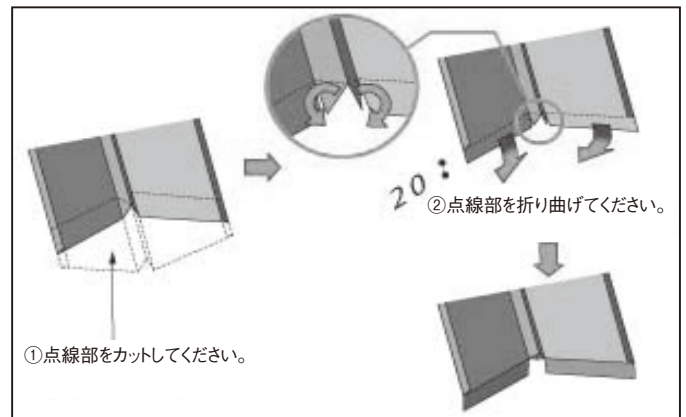
- ③ 軒先用水切のジョイントは10mm以上重ねてください。



5-21 谷部

■ 谷用水切の加工と取付

- ① 谷用水切の先端を右図のように加工してください。

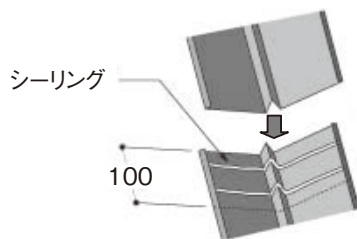
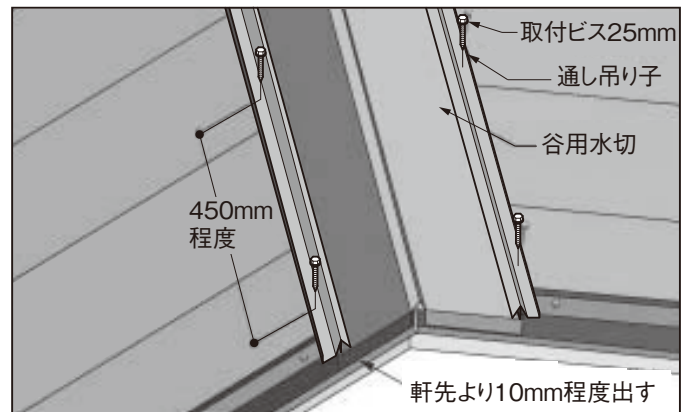


- ② 谷用水切は通し吊り子で取付けます。
通し吊り子は取付ビス25mm (450mm間隔程度) で取付けてください。
※通し吊り子はビス留めの箇所を100mm程度挿んで固定してください。

⚠ 注意

水切平部には、絶対にビス留めしないでください。雨漏りの原因になります。

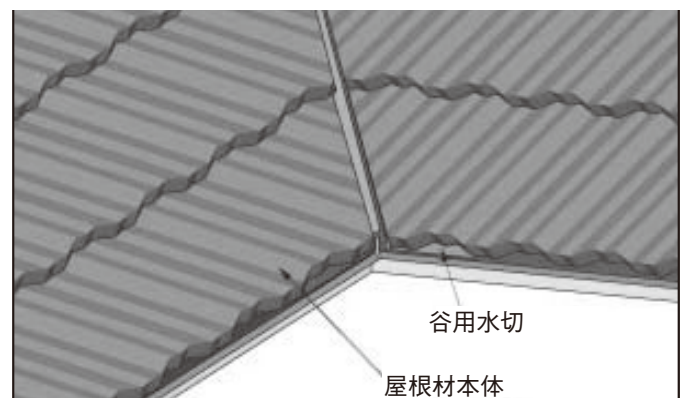
- ※谷用水切と通し吊り子のジョイントはシーリング処理を二重にして100mm以上重ねてください。



■ 本体の取付

- ① 本体は谷用水切に密着するように切断し、取付けてください。

- ※現場状況により、谷用水切と本体切断面との間に隙間をあける等の調整をしてください。

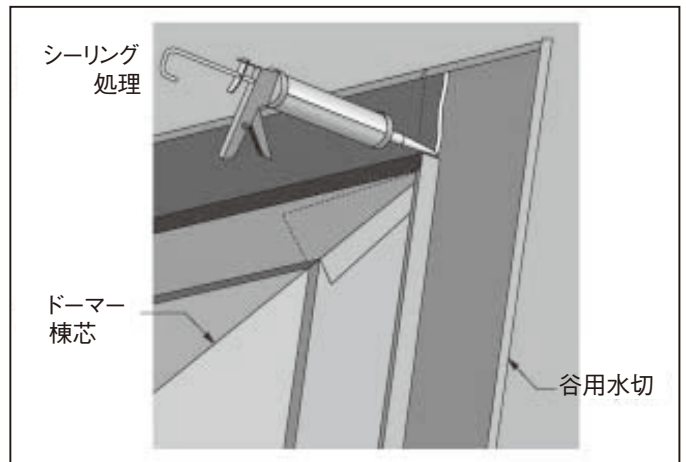
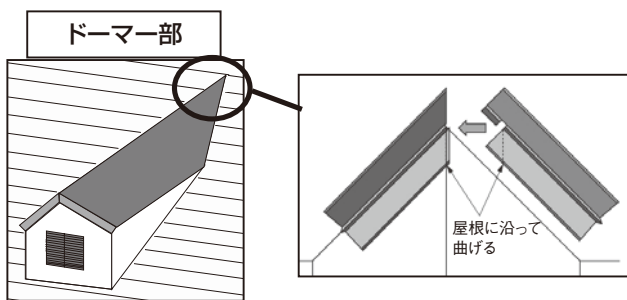


5 標準施工方法

5-22 ドーマー部

■ 谷用水切の加工・取付

- ①ドーマー谷山部に合わせて、谷用水切を加工し、取付ビス25mm(450mm間隔程度)で通し吊り子を使用して取付けてください。
※軒先部より50mm以上出してください。
- ②谷用水切のジョイント部は100mm以上重ねて必ずシーリング処理をしてください。

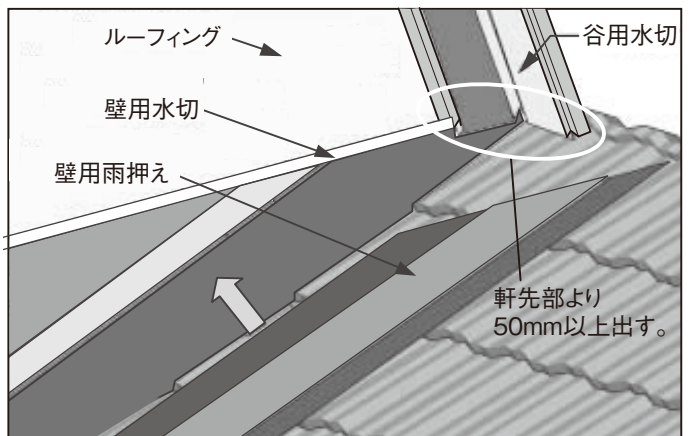
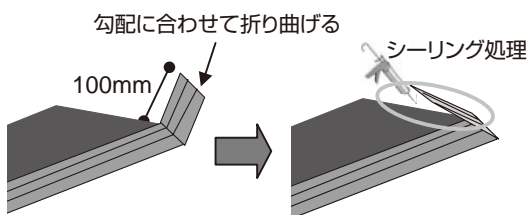


⚠ 注意

谷用水切にはビス留めないでください。
雨漏りの原因になります。

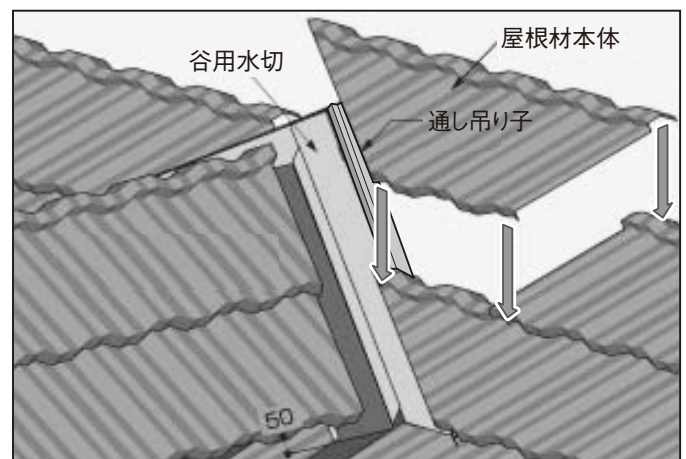
■ 壁立ち上げ部の納め

- ①壁用水切の最上部は野地合板に当たるところで折り曲げて納めてください。
- ②本体を谷部にかかるまで葺いてください。
- ③壁用雨押えを壁面と勾配に合わせて加工して取付ビス25mmで取付けしてください。



■ 谷山部の本体取付

- ①本体を谷用水切に合わせて、切断して取付ビス25mmで取付けてください。
- ②谷部は外観を美しく仕上げるため、谷のラインを揃えるように取付けしてください。
※現場状況により、谷用水切と本体の切断面との間に隙間をあける等の調整をしてください。

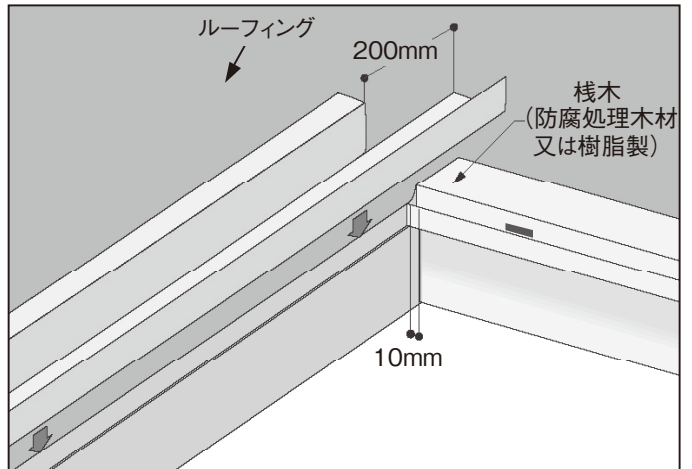


5 標準施工方法

5-23 軒違い部<すがる部>

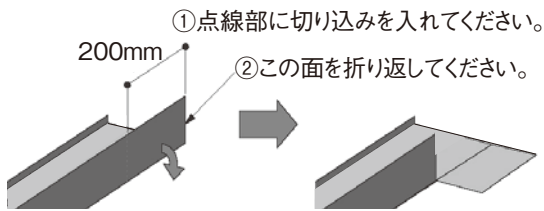
■ ケラバスパーサーの加工と取付

- ①ケラバスパーサーを右図のように加工してください。
- ②ケラバスパーサーはすがる部より200mm伸ばして取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

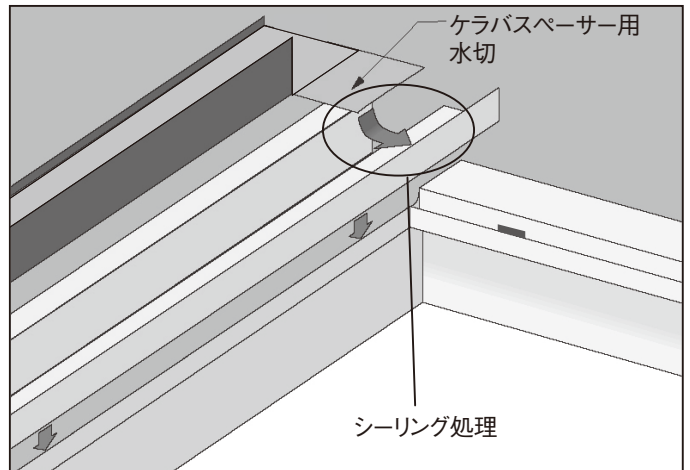


■ ケラバスパーサー用水切の加工と取付

- ①ケラバスパーサー用水切はケラバ部に雨水が浸入しないように上面を加工してください。

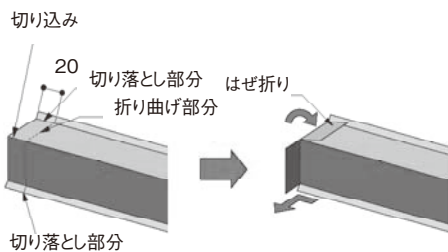


- ②取付後、ケラバスパーサーとの隙間にシーリング処理をしてください。

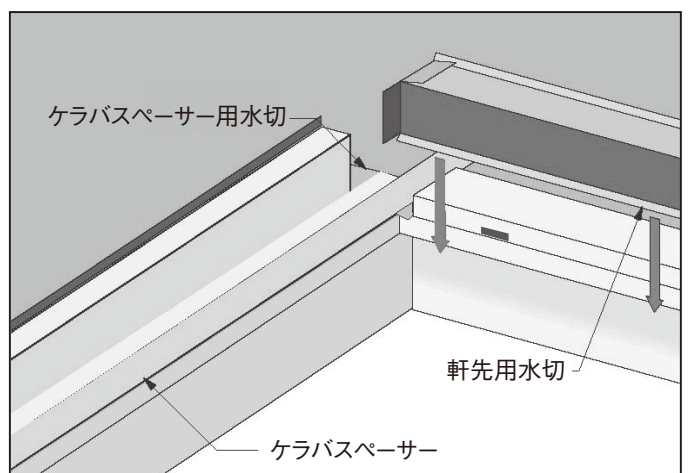


■ 軒先用水切の加工と取付

- ①軒先用水切を下図のように加工してください。



- ②加工後、取付ビス25mm(600mm間隔程度)で取付けてください。

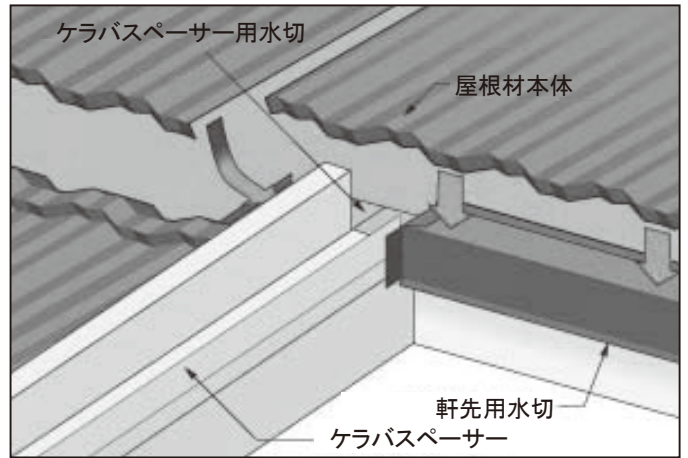


5 標準施工方法

5-23 軒違い部<すがる部>

■ 割付の位置合わせ

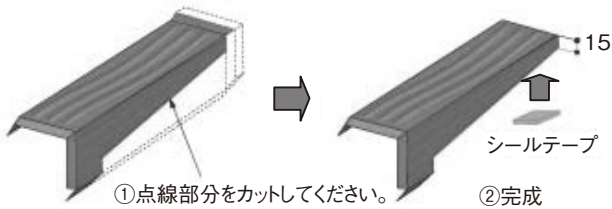
- ①すがる部の本体鼻先部のラインを揃えるため、すがる部より下側の本体の働き幅内で調整してください。



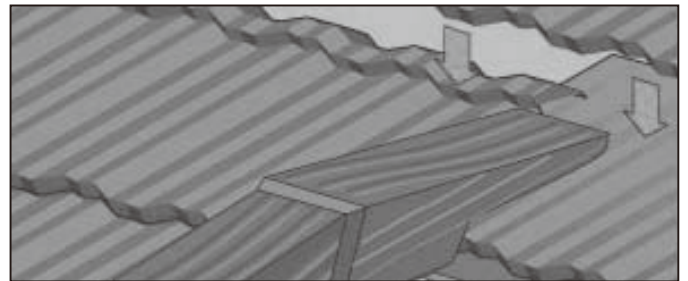
■ 角型ケラバ／棟包みの加工と取付

- ①本体をすがる部まで取付けてください。
- ②最上部の角型ケラバ／棟包みは、勾配に合わせて加工してください。

※上部は15mm折り下げて、裏面にシールテープを取付けてください。



- ③加工後、裏面にシールテープを貼って取付ビス25mmで取付けてください。
※ビス頭は変成シリコン(シーリング材)と補修キット(ストーンチップ)で化粧処理してください。

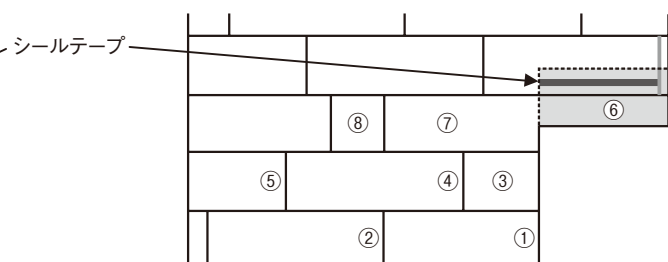
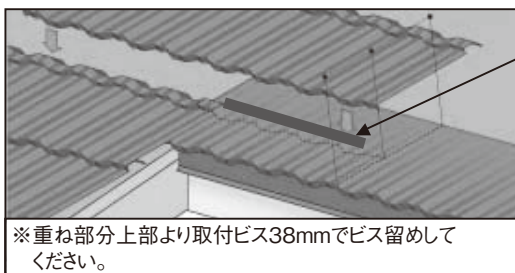


⚠ 注意

角型ケラバ／棟包みを取付けした部位の隙間は必ずシーリング処理をしてください。雨漏りの原因になります。

■ 本体の加工と取付(割付が合わない場合)

- ①すがる部は現場により、割付が変わりますので、下図を参考にして本体加工と取付けしてください。



5 標準施工方法

5-24 トップライト部

標準地域での スカイシアターの例

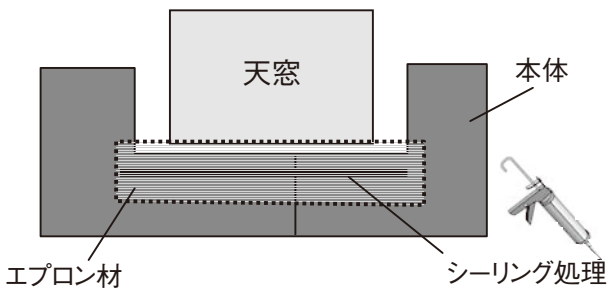
※トップライト廻りの納まりは、メーカーによって仕様が変わるため、表記している手順はあくまでも参考納まりとなります。
トップライトの施工標準書に従って屋根材を施工してください。

■ 下葺材の敷込

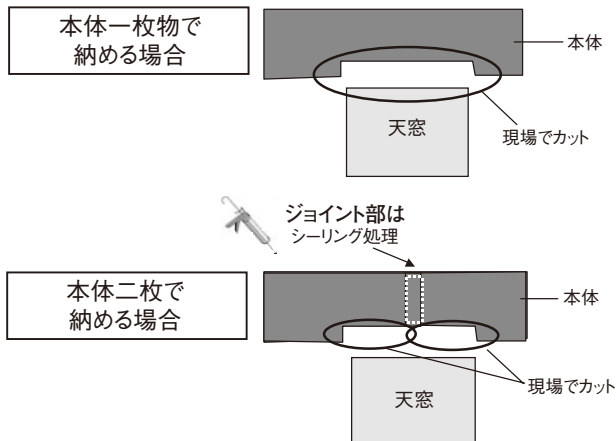
- ①下葺材をトップライトの上部まで立ち上げて下さい。
- ②トップライトを設置し、水切セットを取付けて下さい。
※水切はトップライトメーカー指定の水切セットを使用して、施工標準書を確認して取付けて下さい。

■ 本体の取付

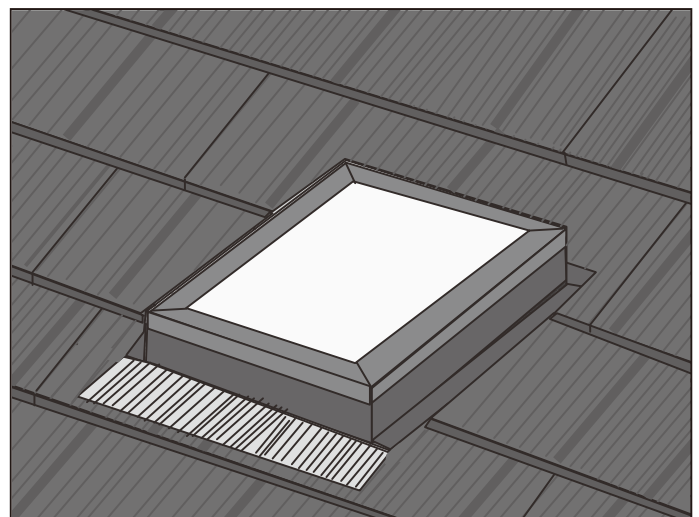
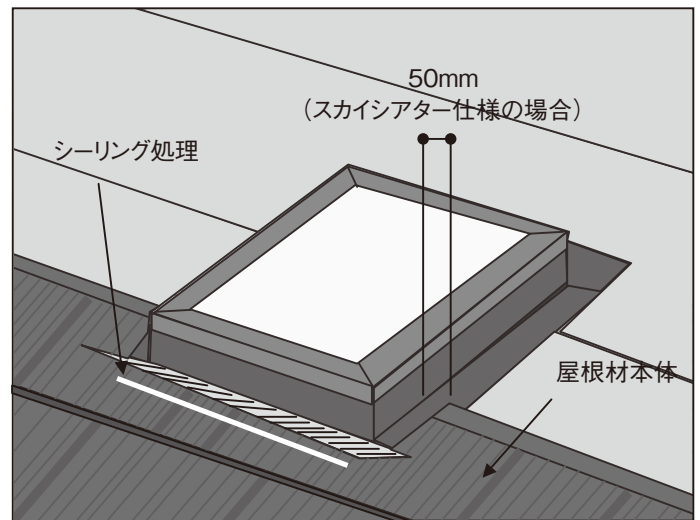
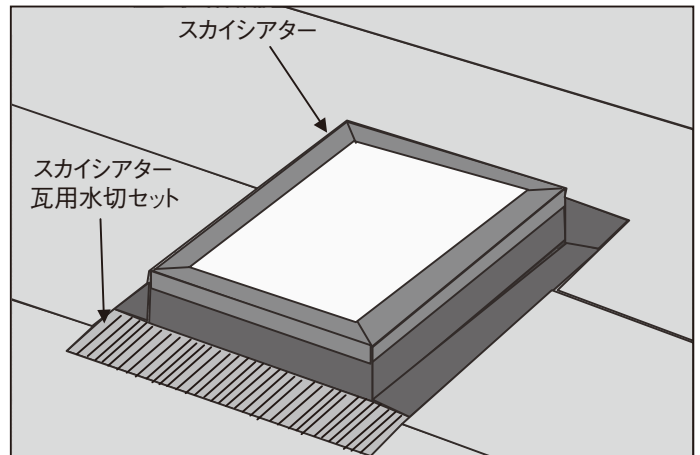
- ①トップライトに合わせ本体を加工してエプロン材と重なる部位にシーリング処理をして下さい。
※トップライト廻りの本体はプレカットしていないので、現場加工にて取付けて下さい。



- ②水上部本体の加工は、トップライト寸法に合わせてカットして取付けて下さい。



【スカイシアターの場合】



5 標準施工方法

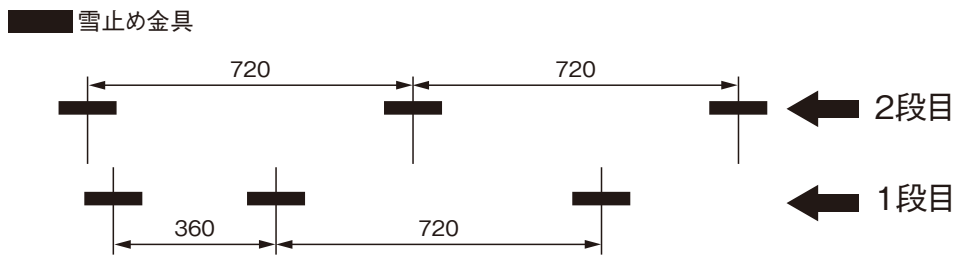
5-25 雪止め金具

■ 雪止め金具の取付

- ① 雪止め金具の脚部を屋根材本体表面に乗せて、取付ビス25mmで2箇所鼻先端部に取付けてください。
- ② 雪止め金具は各段720mm間隔で2段千鳥配置になるように取付けてください。
- ③ 雪止め金具は原則、軒先1段目と2段目に設置してください。
※積雪地域の環境に応じて、落雪の危険性を配慮して更に3段目と4段目にも設置する場合があります。

注意

雪止め金具を取付けても、気象条件などによっては、落雪することがあります。



■ 【参考】雪止め金具の取付基準

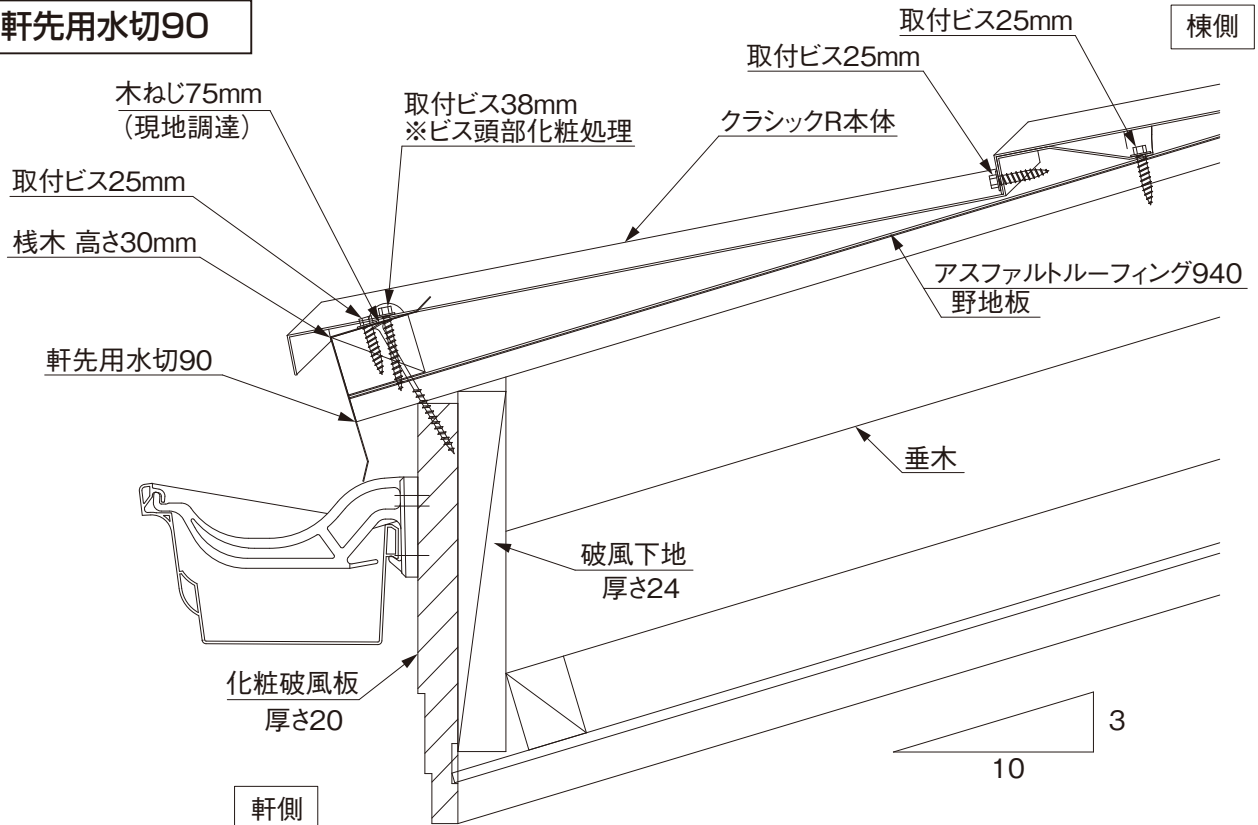
- ・多雪地域の場合、行政指導において雪止金具を取付ける場合があります。
- ・積雪量、勾配、流れ長さにより下表を参考に取付け段数を決定し、特に積雪が多い地域は施工店様の判断にて段数を増やす等の措置を行ってください。

積雪量	勾配	流れ長さ(m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
50cm 未満	3								
	4		屋根本体の						
	5		1段目と2段目に設置					屋根本体の	
	6						3段目と 4段目にも増設		

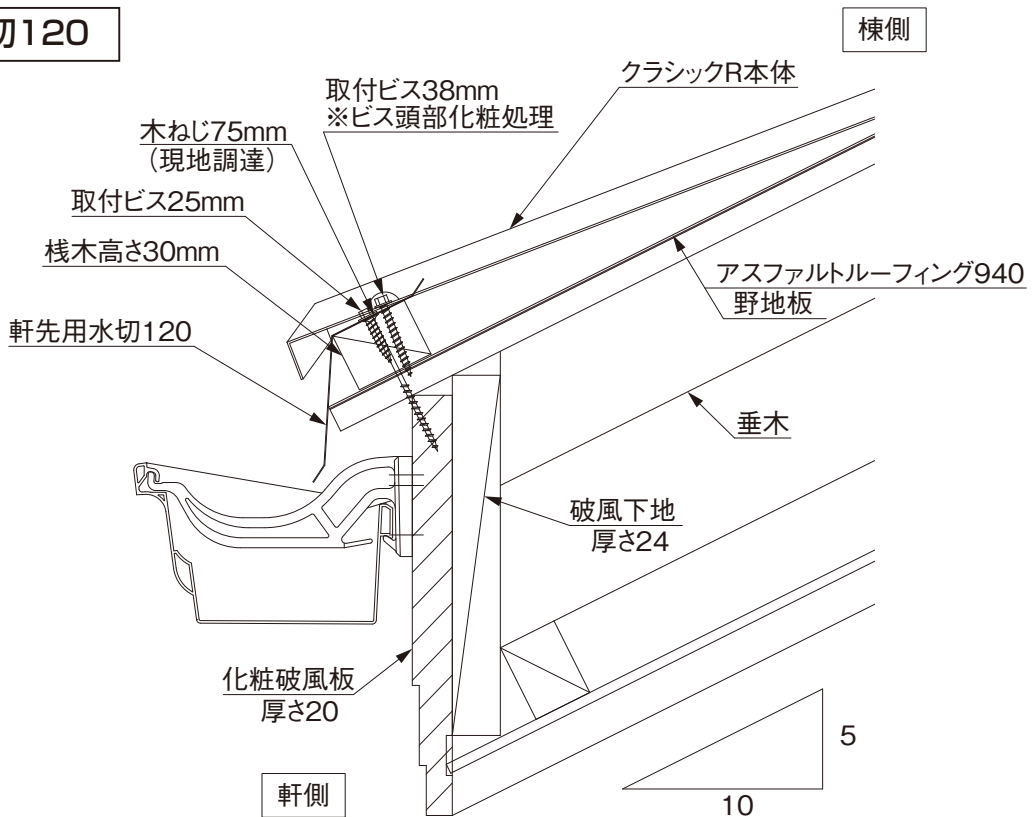
積雪量	勾配	流れ長さ(m)							
		1	2	3	4	5	6	7	
100cm 未満	3								
	4		屋根本体の						
	5		1段目と2段目に設置					屋根本体の	
	6						3段目と 4段目にも増設		

■軒先部納まり

軒先用水切90



軒先用水切120

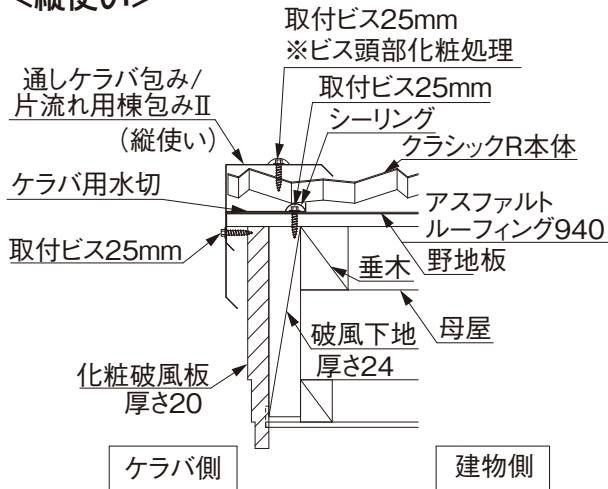


- 化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- 栈木や軒先用水切を化粧破風板より先に取付すると、栈木・軒先用水切を固定したねじと化粧破風板が干渉する場合がありますので注意してください。
- 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

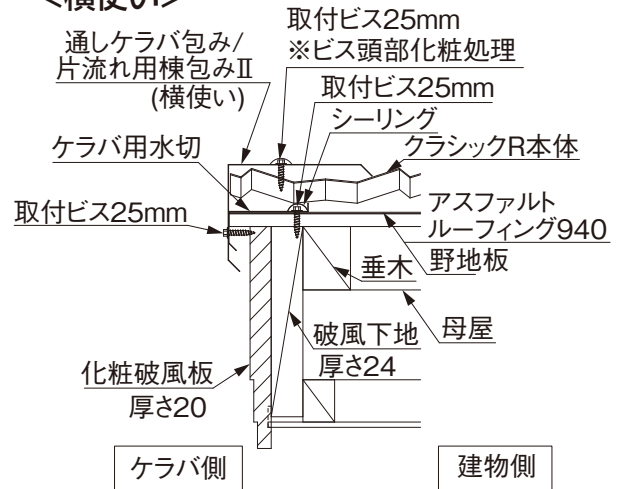
■ケラバ部納まり

通しケラバ包み／片流れ用棟包みⅡ仕様

<縦使い>

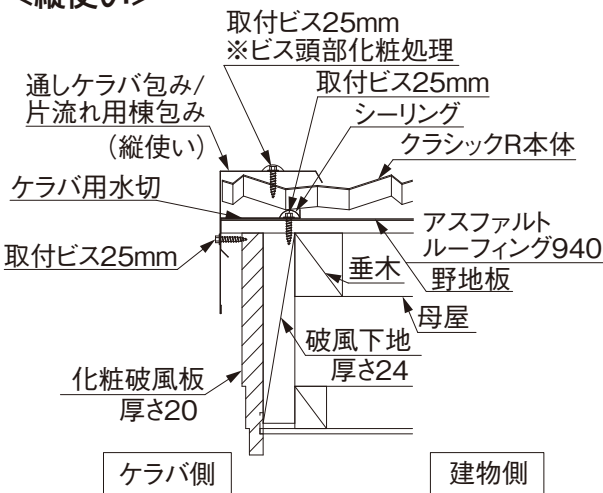


<横使い>

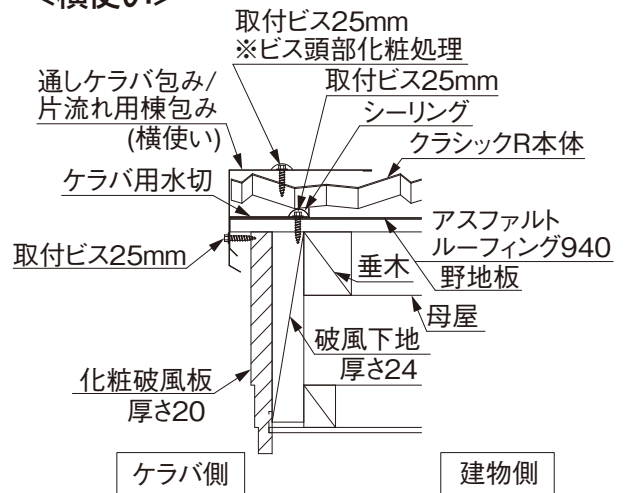


通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様

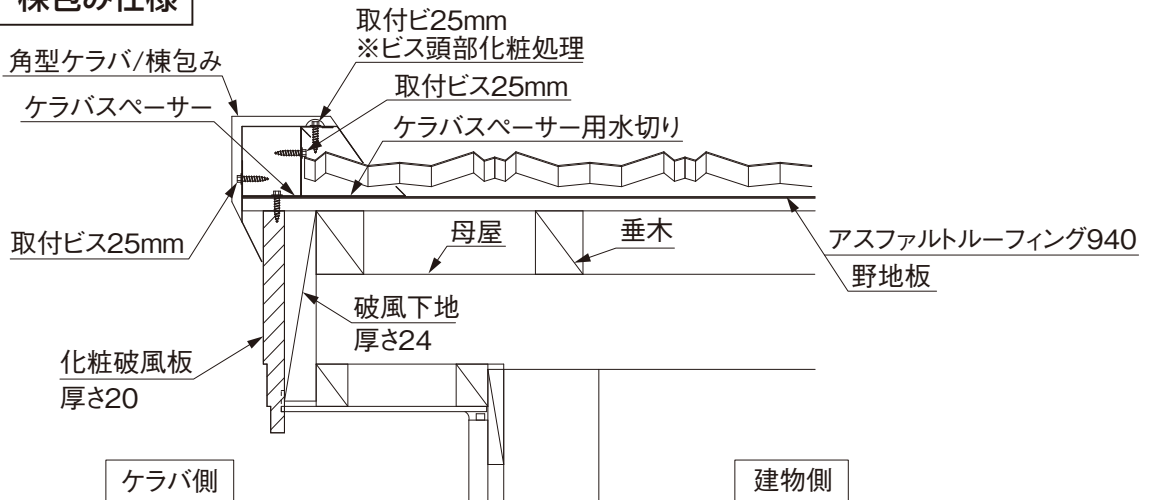
<縦使い>



<横使い>



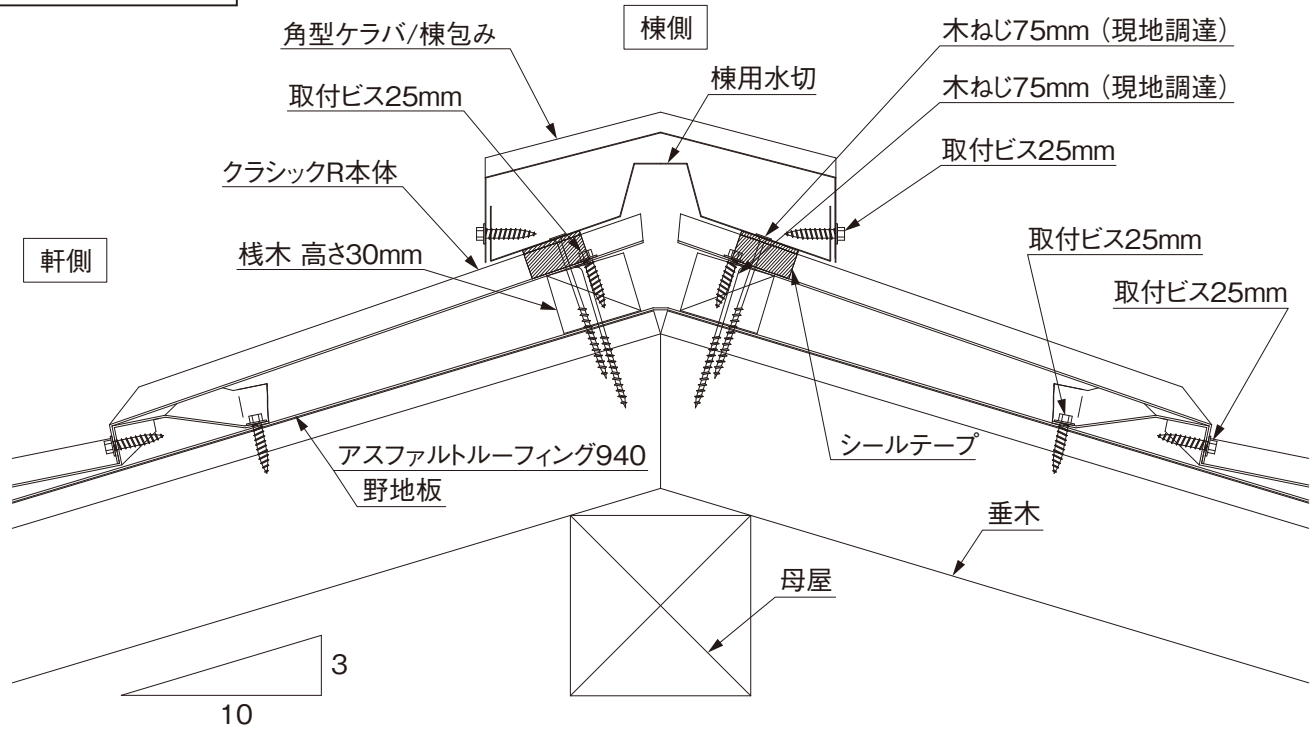
角型ケラバ／棟包み仕様



- 化粧破風板、破風下地の仕様・厚さは現場によって異なります。
- ケラバ用水切と通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡを化粧破風板より先に取付けると、ケラバ用水切を固定するねじと化粧破風板が干渉する場合がありますので注意してください。
- 野地板は構造用合板12mm上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

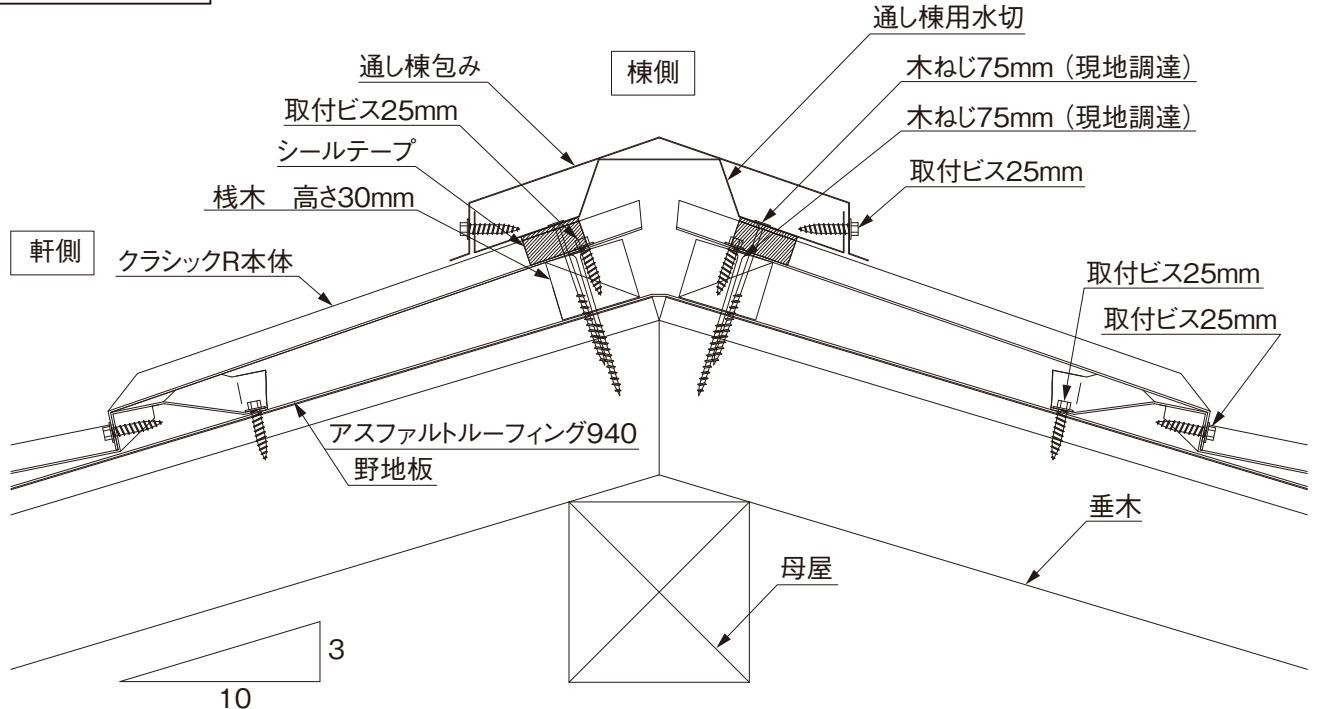
■本棟部納まり①

角型ケラバ／棟包み仕様



※棟換気を取り付ける場合の役物は角型ケラバ/棟包み用棟換気カバーを使用してください。

通し棟包み仕様

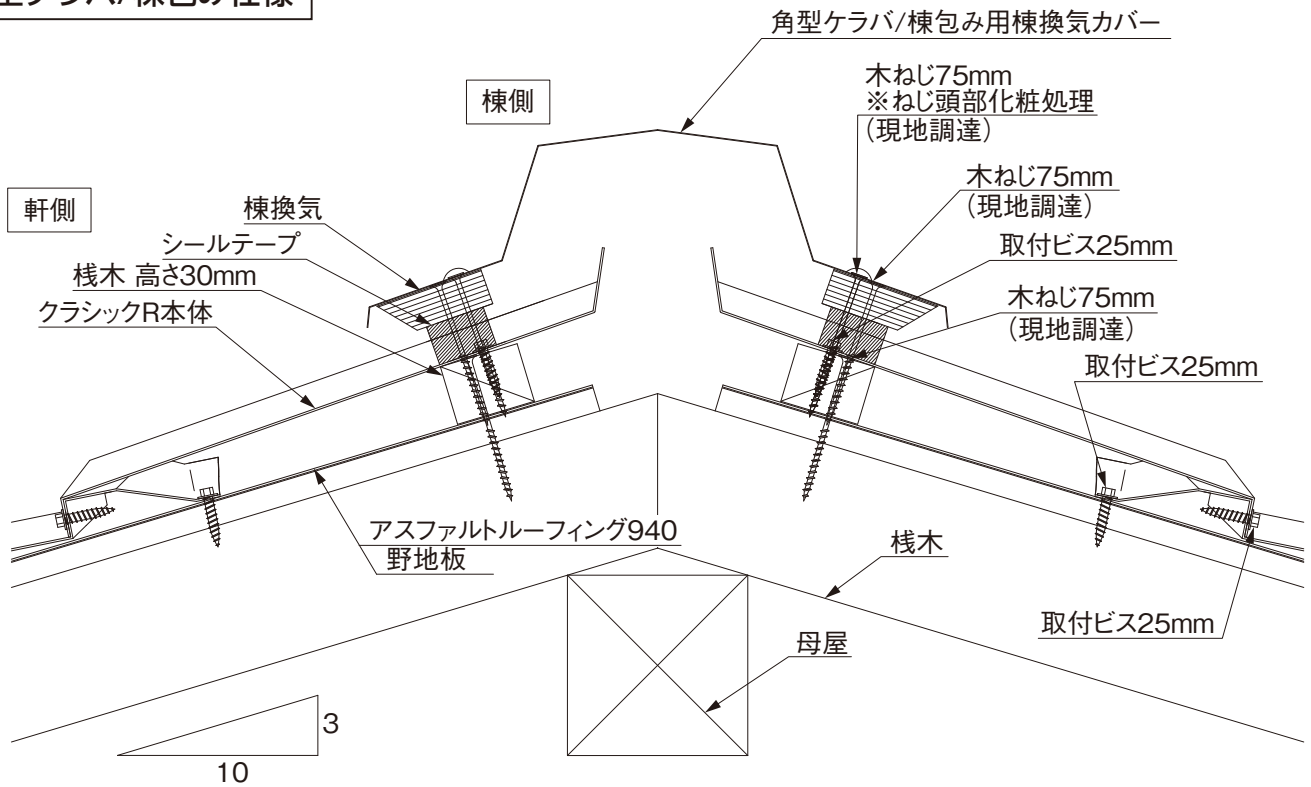


※棟換気を取り付ける場合の役物は棟換気カバーを使用してください。

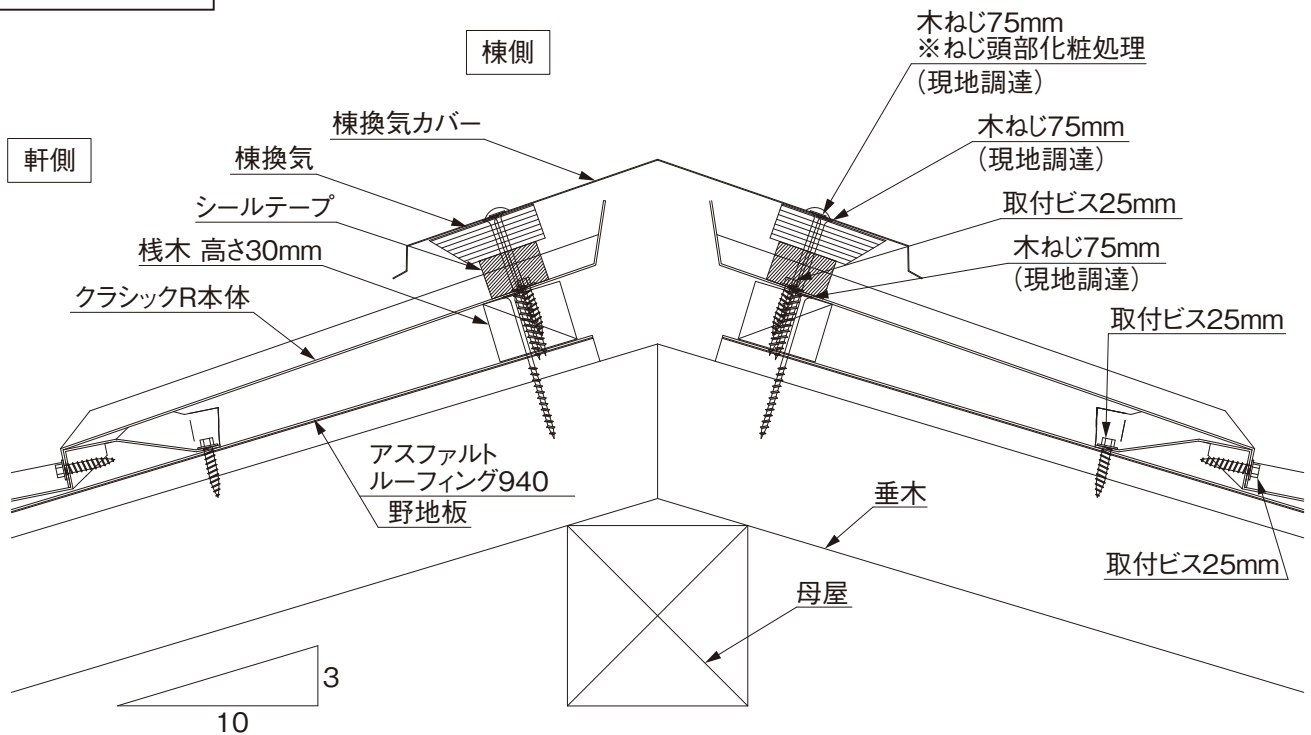
- 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

棟換気部納まり

角型ケラバ/棟包み仕様



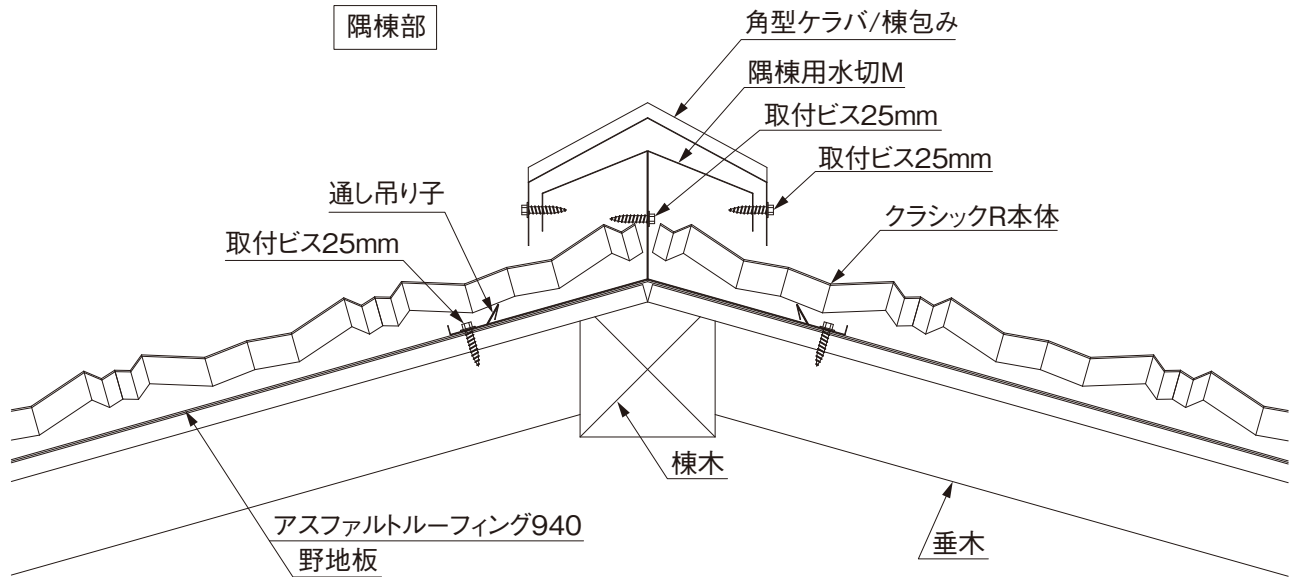
通し棟包み仕様



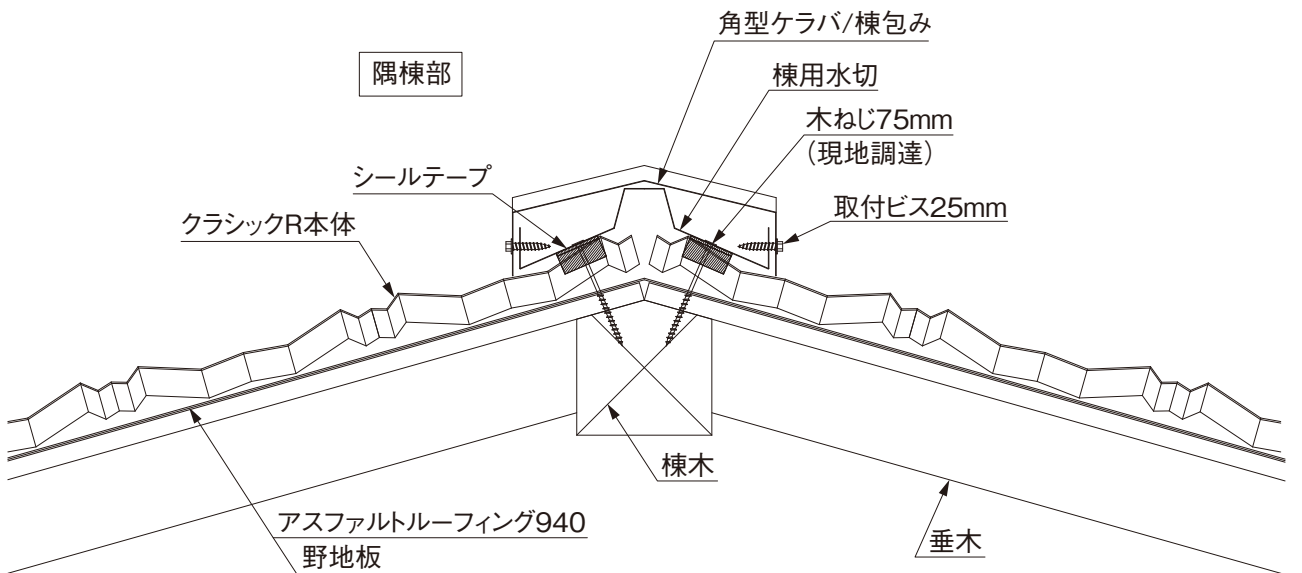
- 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

■ 隅棟部納まり

隅棟用水切M仕様



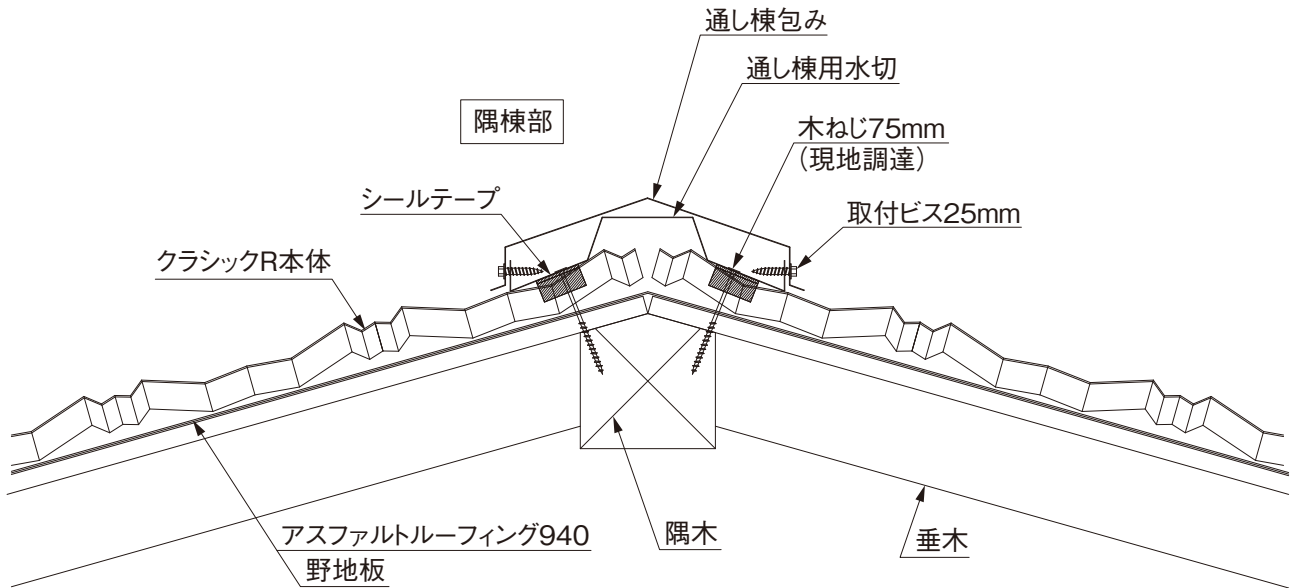
棟用水切仕様



- 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

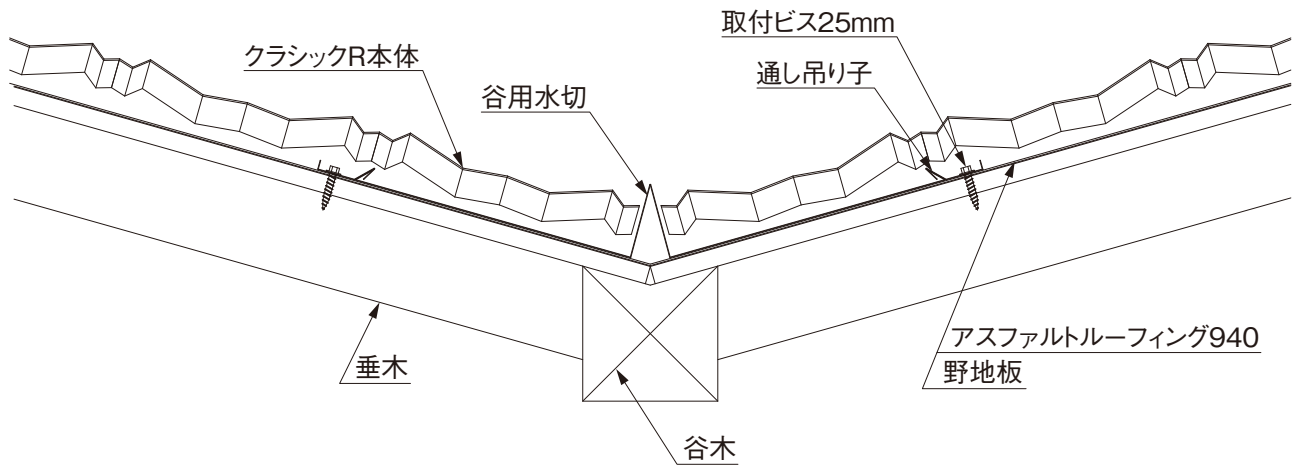
■隅棟部納まり

通し棟用水切仕様



■谷部納まり

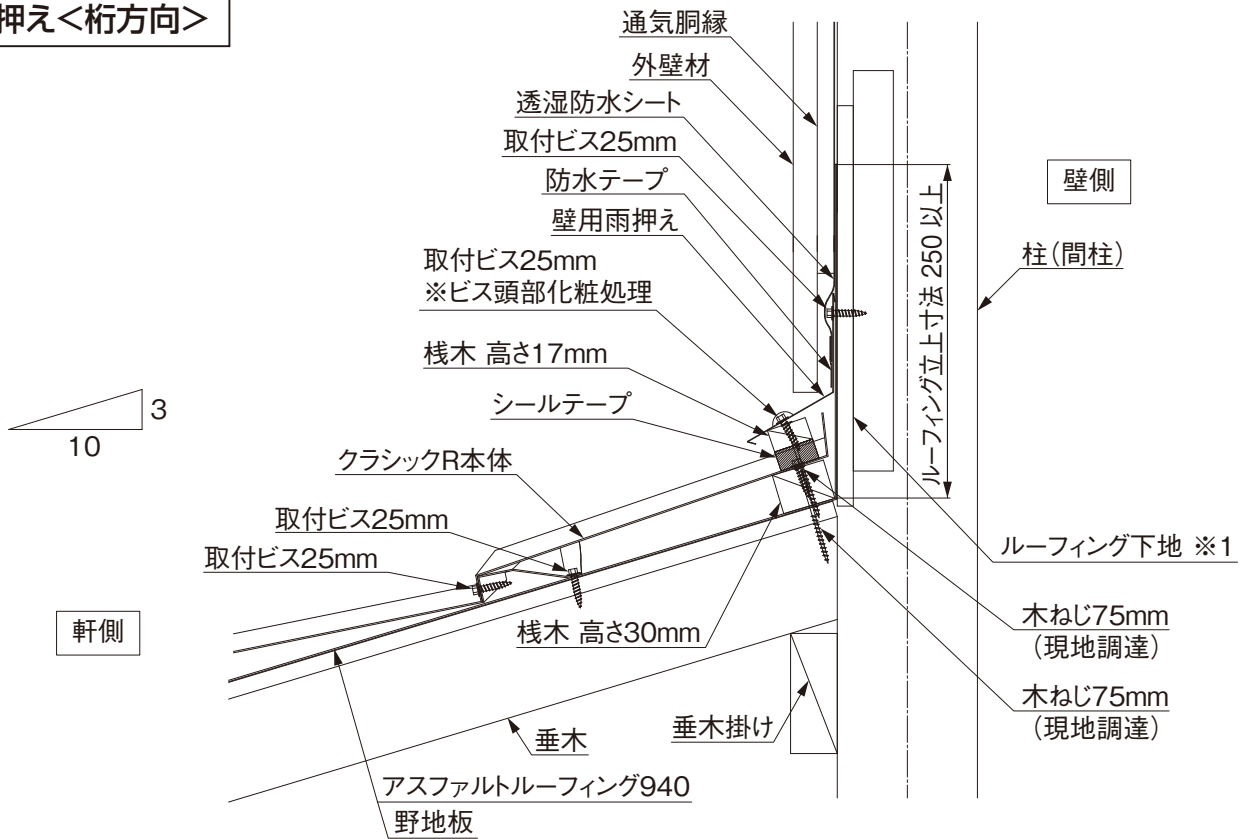
谷用水切



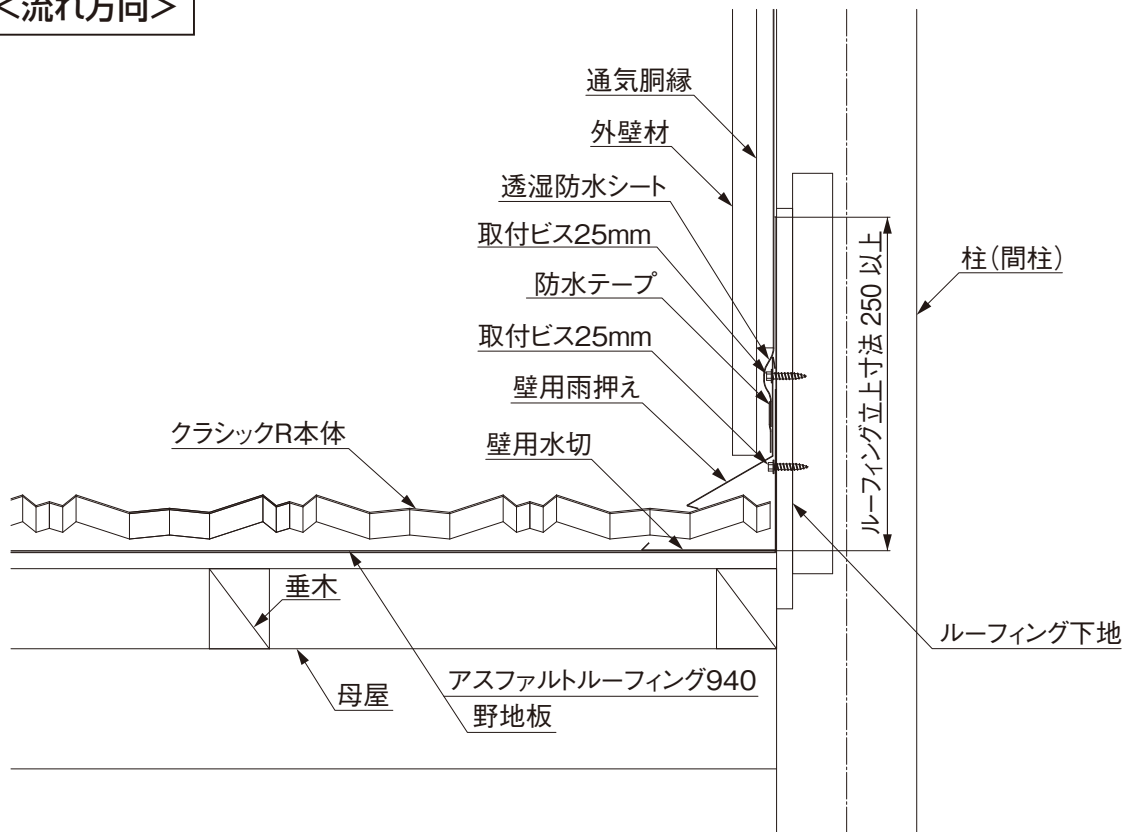
- 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

■壁取合い部納まり

壁用雨押え<桁方向>



壁用雨押え<流れ方向>

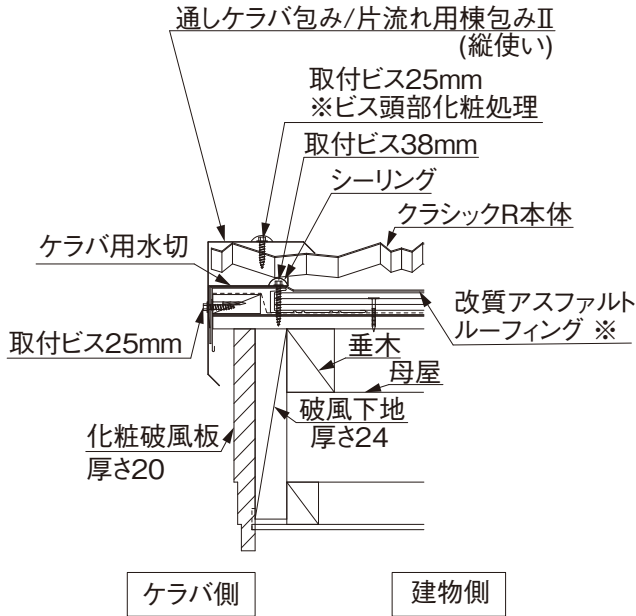


- 外壁材、下地材の仕様、寸法は現場によって異なります。
- 野地板は構造用合板12mm 以上、OSB11mm 以上に対応します。取付ビスの間隔が異なりますので施工マニュアルを確認の上取付けしてください。

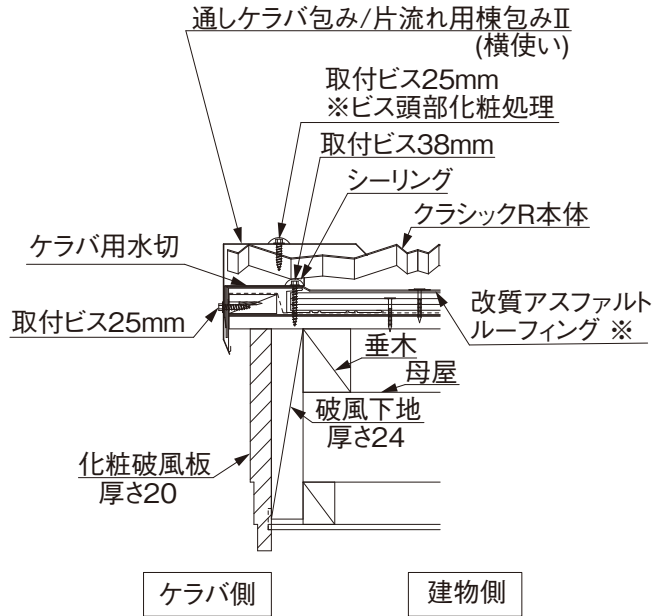
■カバー工法参考納まり図

通しケラバ包み／片流れ用棟包みⅡ仕様

<縦使い>

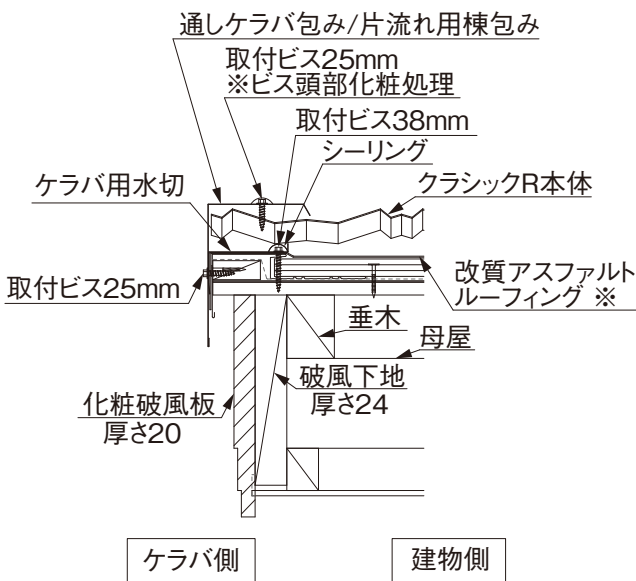


<横使い>

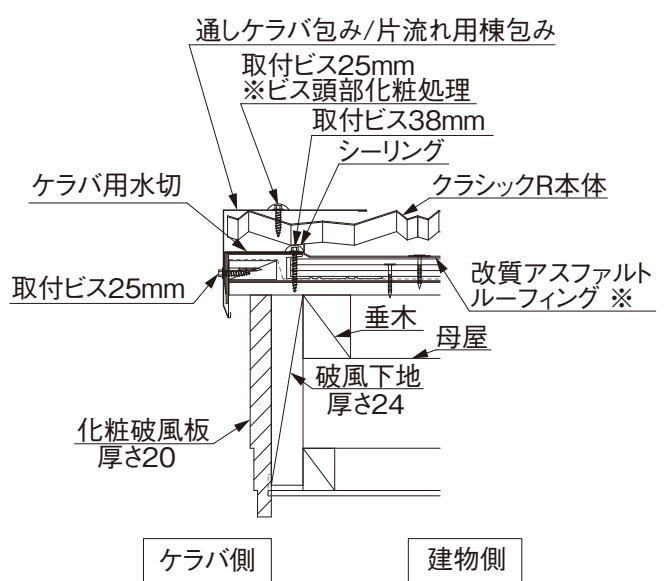


通しケラバ包み／片流れ用棟包み仕様

<縦使い>



<横使い>



- 小屋裏換気がされており、野地板・垂木に結露や漏水によるシミや腐り膨れ等が無いこと。外から屋根上を歩いてみて沈み込み等が無いこと。
 - 野地板は構造用合板12mm以上、OSB11mm以上であることを確認してください。
- ※改質アスファルトルーフィング（古いスレート材の飛散防止として粘着付改質アスファルトルーフィング）を推奨します。

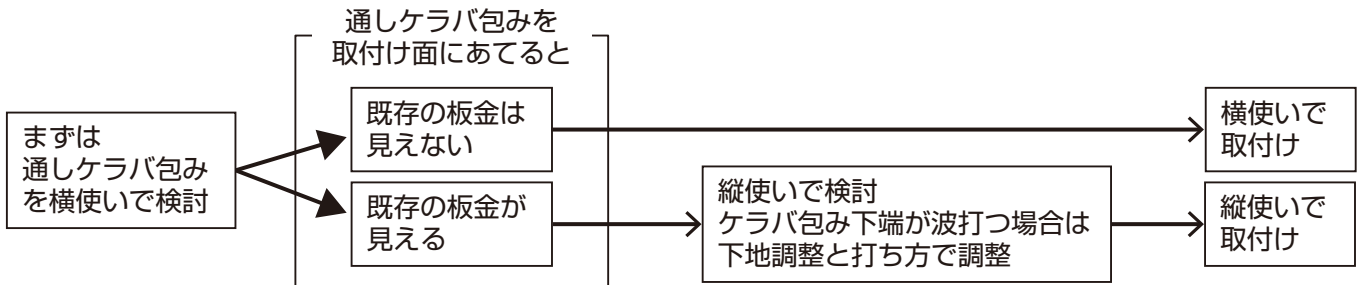
■ カバー工法 施工時の注意

1 ケラバ部 既存板金のはみ出しと端部の波打ちに注意してください

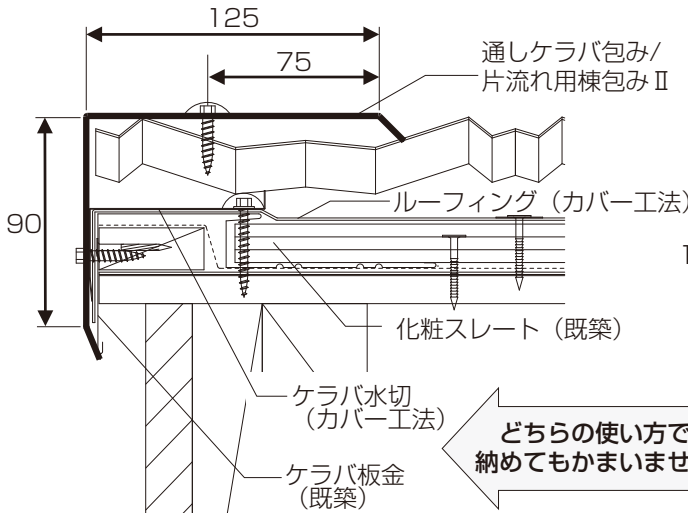
※通しケラバ包み/片流れ用棟包みⅡで説明しますが、通しケラバ包み/片流れ用棟包みも同様の手順となります。

■ 通しケラバ包みの縦使い・横使いの検討

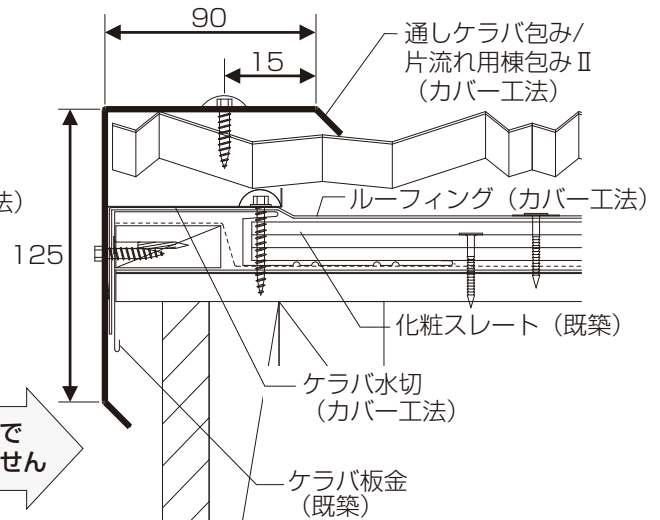
下図のように通しケラバ包みとして縦使い、横使いどちらで納めるのが良いか現場の状況を確認して決めます。



<通しケラバ包み 横使い>



<通しケラバ包み 縦使い>

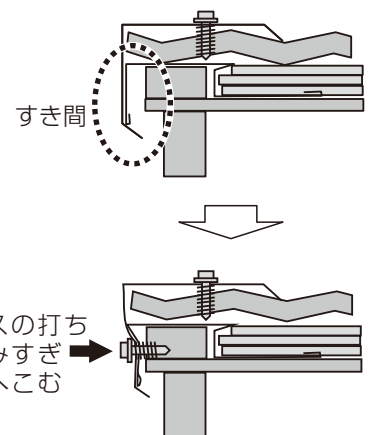
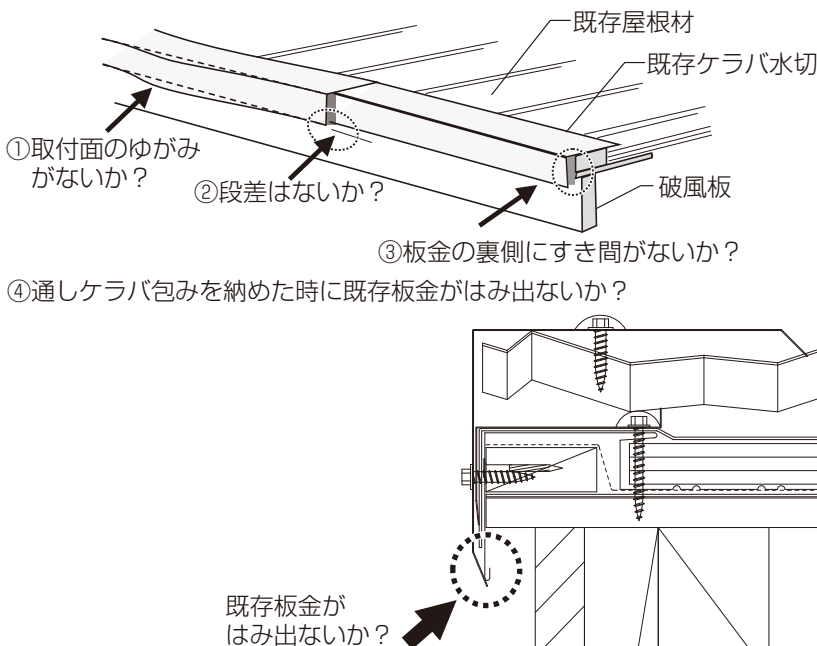


どちらの使い方で納めてもかまいません

<ポイント>

1. 通しケラバ包みの下端に既存板金のはみ出しがないか取付前に確認して取付ける。
2. ケラバ包み下端に波打ちが出ないか取付前に確認して取付ける。

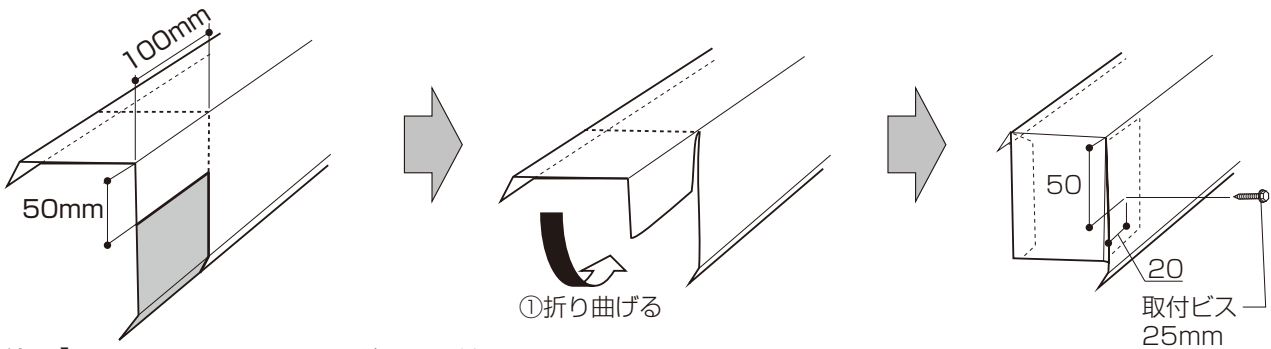
<説明図> 取付け前に既存の屋根の状態を確認する。



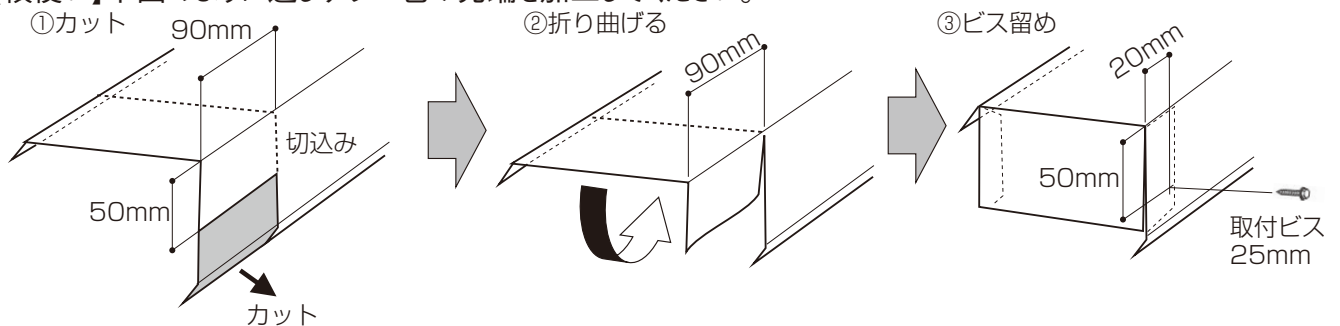
カバ工法 施工時の注意

通しケラバ包みの先端加工

【縦使い】下図のように通しケラバ包み先端を加工してください。(現行と同じ)



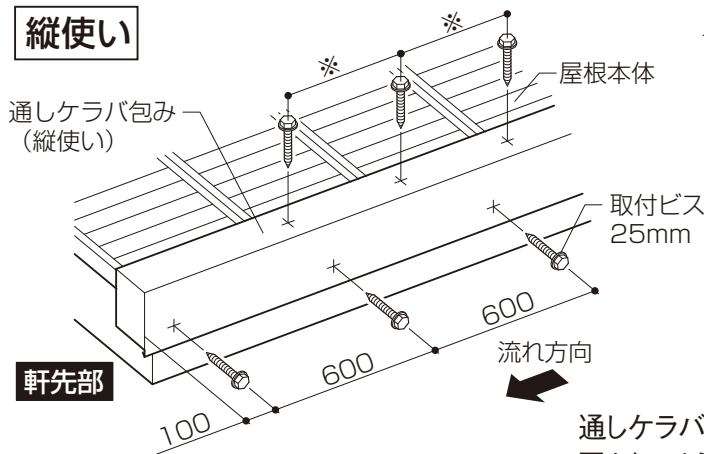
【横使い】下図のように通しケラバ包み先端を加工してください。



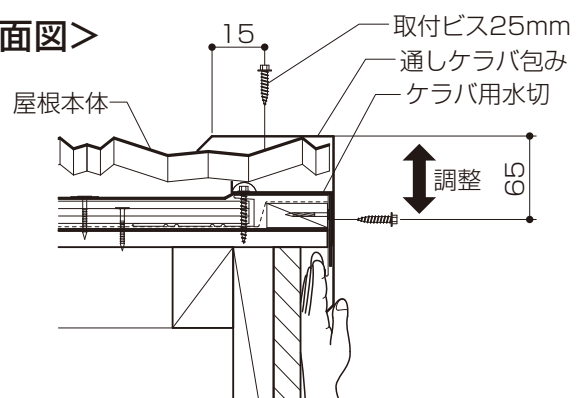
通しケラバ包みの取付

①通しケラバ包みを取付ビス25mmで下記の断面図を参照して側面は600mm程度で固定し、脳天は屋根本体上下の重なり部を狙って固定してください。

縦使い

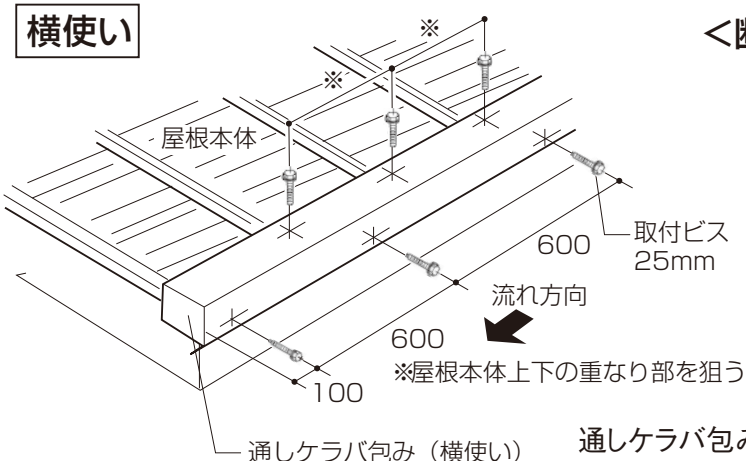


<断面図>

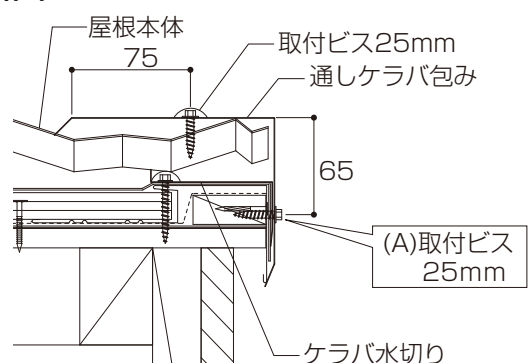


通しケラバ包みを取付ける側面の取付ビスは、通しケラバ包みが歪まないように、また水平を保つように手で押さえて取付けしてください。

横使い



<断面図>



通しケラバ包みを取付ける側面の取付ビスは、通しケラバ包みが歪まないように、また水平を保つように手で押さえて取付けしてください。



地球環境のためにLIXILは
業界トップランナーとして
先進的な取組をしています。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトからご確認ください。

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00 (祝日、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-185-460

安全に関するご注意

ご使用前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

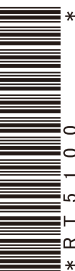
個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社の「個人情報保護方針」に記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「個人情報保護方針」をご覧ください。

- 写真は印刷のため、実際の色と異なる場合がございます。現物またはサンプルなどにてご確認ください。
- 仕様・価格は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
- 本カタログ掲載内容および写真・図版の無断転載はかたくお断りします。

0501L26

業務用 RT5100



*
0
0
1
5
T
5
T
*